

## 第7回浜松市未来デザイン会議 次第

日時：平成26年10月25日(土)午後3時00分から  
場所：浜松市役所本館8階 全員協議会室

- 1 開会
- 2 策定スケジュールについて…【資料2】
- 3 パブリック・コメント等の結果報告について【参考資料1、参考資料2】
- 4 未来ビジョン(基本構想)最終案について…【資料3】
- 5 第1次推進プラン(基本計画)最終案について…【資料4】
- 6 その他
- 7 閉会

## 第7回浜松市未来デザイン会議 配付資料一覧

資料1・・・浜松市未来デザイン会議 委員名簿

資料2・・・新・総合計画策定スケジュール

資料3・・・浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン(案)

資料4・・・浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン(案)

参考資料1・・・浜松市新・総合計画パブリック・コメント結果(案)

参考資料2・・・浜松市新・総合計画区協議会答申への回答(案)

・第6回浜松市未来デザイン会議 議事録

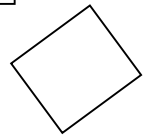
## 浜松市未来デザイン会議 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
座長	鈴木 康友	浜松市長
有識者委員 コーディネーター	根本 敏行	静岡文化芸術大学 文化政策学部長
有識者委員	長澤 秀幸	浜松商工会議所 産業振興部経営支援課 係長
有識者委員	鈴木 厚志	京丸園株式会社 代表取締役
有識者委員	前田 剛志	TENKOMORI (天竜これからの森を考える会)
有識者委員	宗像 倫子	聖隷浜松病院 地域連携サービスセンター在宅連携担当 係長
有識者委員	須藤 京子	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長
有識者委員	松尾 廣伸	静岡大学大学院 工学研究科電気電子工学専攻 助教
有識者委員	佐藤 順子	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 准教授
有識者委員	石川 敦史	なかよし第2保育園 園長
有識者委員	榊原 正之	遠州鉄道株式会社 運輸営業部運輸営業課 課長
有識者委員	田中 充	浜松市自治会連合会 副会長
公募委員	石倉 達也	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	河合 美里	浜松学院大学 学生
公募委員	河原みち代	みらいネット浜松 代表
公募委員	酒井 浩一	浜松ホトニクス株式会社 開発本部
公募委員	杉山 琴音	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	外山 佳邦	株式会社55634 代表取締役
公募委員	西川裕太郎	会社員
公募委員	松本 曠世	静岡大学 工学部 非常勤講師
公募委員	村田亜希子	会社員
公募委員	村田 昌樹	OMソーラー株式会社
公募委員	山田ゆかり	静岡大学 学生

浜松市未来デザイン会議 座席表

石川 敦史 委員	榊原 正之 委員	田中 充 委員	石倉 達也 委員	河合 美里 委員	河原みち代 委員	酒井 浩一 委員	杉山 琴音 委員
佐藤 順子 委員	松尾 廣伸 委員	須藤 京子 委員	宗像 倫子 委員	外山 佳邦 委員	西川裕太郎 委員	松本 曠世 委員	村田亜希子 委員
前田 剛志 委員	鈴木 厚志 委員	長澤 秀幸 委員	根本 敏行 コーディネーター	浜松市長	山田ゆかり 委員	村田 昌樹 委員	



事務局(浜松市企画調整部企画課)

事務局(浜松市企画調整部企画課)

【平成 26 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(7) ・基本構想について	●特別委員会(4) ・第5回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案) ・基本計画(案)  ●特別委員会(24) ・基本構想(案) ・基本計画(案)		●特別委員会(12) ・第6回策定委員会を受けた議論 ・パブリック・コメント案		●特別委員会(29) ・第7回策定委員会を受けた議論 ・最終確認	●議案審議	●議決			
未来デザイン会議		●第5回(24) ・基本構想 ・基本計画(案)	(意見交換会)(17) ・基本計画(案)	●第6回(26) ・パブリック・コメント案			●第7回(25) ・最終確認					
庁内ワーキング	●書面協議(24) ・基本計画(案)について	(策定委員会傍聴)		●第7回(1) ・基本計画  (策定委員会傍聴)	●第8回(11) ・基本計画		●第9回(20) ・最終確認  (策定委員会傍聴)					
基礎調査					◎パブリック・コメント (14~9/12)  ●区協議会 ・諮問 南区(20) 中区(21) 浜北区(21) 西区(27) 北区(28) 東区(29) 天竜区(29)	●区協議会 ・答申 西区(24) 南区(24) 天竜区(24) 東区(25) 北区(25) 浜北区(25) 中区(30)		●パブリック・コメント結果公表(14)  ◎基本構想案確定 ◎基本計画案確定		◎印刷、校正	◎区協議会 ・最終報告	◎関係者送付

【平成 25 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(31) ・策定方針 ・人口推計結果報告	●特別委員会(14) ・策定方針 ・人口推計結果報告		●特別委員会(23) ・策定委員の確認 ・市民インタビュー中間報告		●特別委員会(8) ・第1回策定委員会を受けた議論	●特別委員会(13) ・第2回策定委員会を受けた議論  ◎特別委員会への意見照会(20)			●特別委員会(4) ・第3回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)  ◎特別委員会への意見照会	●特別委員会(24) ・第4回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)
未来デザイン会議		(公募開始) ・広報はままつ ・HP ・大学等に依頼 (5月31日㍻)	(公募委員審査) ・書類審査	(公募委員審査) ・面接審査	(有識者委員調整)	●第1回(29) ・策定方針 ・人口推計結果報告 ・未来の理想への思い	(宿題など) ・未来の理想の姿のイメージ検討	●第2回(2) ・未来の理想の姿 ・市民インタビュー結果 ・議会からの意見 ・基本構想について  (意見交換会)(28) ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(16) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)  ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(14) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)  ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(宿題など) ・基本構想(案)の修正意見	●第4回(15) ・議会からの意見 ・市民意識調査結果 ・基本構想(案) ・基本計画について ・来年度について
庁内ワーキング	●第1回(25) ・策定方針 ・市民インタビュー ・策定委員会		●第2回(3) ・市民インタビュー中間報告 ・個別計画との整合について			(策定委員会傍聴)	●第3回(10) ・策定委員会の意見確認 ・市民インタビュー結果 ・基本構想について ・基本計画準備 ・政策レポート作成	(策定委員会傍聴)  ●第4回(12) ・策定委員会の意見確認 ・基本構想について ・基本計画準備  (意見交換会参加)	(意見交換会参加)  ●第5回(20) ・基本構想(素案)確認 ・政策検討 ・基本計画準備	(政策レポート修正)  (策定委員会傍聴)		●第6回(7) ・基本計画について ・政策レポートまとめ  (策定委員会傍聴)
基礎調査	◎人口推計確定	◎市民インタビュー ・名簿作成 ・対象者交渉	◎市民インタビュー開始 ◎市民意識調査準備	(市民インタビュー) ◎市民意識調査委託		◎市民意識調査開始 ・ビッグデータの活用 ・市民の声システムの活用 ・市民インタビューの活用				◎市民意識調査 ・中間報告書作成		◎市民意識調査 ・完了 ・最終報告書

浜松市総合計画 基本構想

# 浜松市未来ビジョン

(案)

## 目 次

---

都市の将来像	1
市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』 ・技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ ・小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす ・新しさを生む伝統を未来へつなぐ	…[創造都市] …[市民協働] …[ひとつづくり]
1 ダースの未来（理想の姿）	3
01 つくる【創る】	…[産業・文化]
・‘ものづくり’と‘文化’で感動 ・‘うまい’で感動 ・他にはない‘ウリ’で感動	
02 たかめる【高める】	…[農林水産業]
・[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT（情報通信技術）] ・[森の恵み]×[デザイン]×[循環] ・[海や川の恵み]×[ブランド]×[高い]	
03 いかす【活かす】	…[エネルギー]
・地の利を活かしたエネルギー ・無駄を省いたエネルギー ・自ら生み出し、賢く使うエネルギー	
04 めぐらす【巡らす】	…[環境]
・豊かな自然と共存する暮らし ・世界が羨望する豊富な水資源 ・1人当たりのごみ排出量は減少	
05 つなぐ【繋ぐ】	…[多様性]
・「まちなか」は、創造都市・浜松の顔 ・ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」	
06 みとめあう【認め合う】	…[多文化共生]
・多文化共生が国際的な人財をつくる ・心の国境を感じさせない都市	
07 ささえあう【支え合う】	…[安全・安心]
・支え合いがあるから安心 ・つながりがあるから安心 ・充実した医療体制だから安心	
08 はぐくむ【育む】	…[子育て・教育]
・子育ての達成感を地域でシェア ・地域の見守りで出生率は上向き ・世界に誇る浜松育ち	
09 みのる【実る】	…[老い方]
・自分らしく自立したカッコいい老い方 ・いつまでも快適で質の高い生活を ・長寿が喜ばれる世の中へ	
10 はたらく【働く】	…[働き方]
・働くことにチャレンジ ・働くことをサポート ・働きやすい環境を整備	
11 かえる【変える】	…[住まい方]
・住まい方を変える ・居住エリアを変える ・乗り方を変える ・公共施設を変える	
12 むすぶ【結ぶ】	…[情報社会]
・働き方に ICT ・学び方に ICT ・暮らしに ICT ・遊びに ICT	



## 市民協働で築く

# 『未来へかがやく創造都市・浜松』

未来の浜松をつくるのは、私たち市民です。

私たちは、2045年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を「都市の将来像」に掲げます。

私たちは、世界に誇る技術と文化を有する都市を受け継ぎました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない一つの‘まち’が、ものづくりを中心に自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行できたのは、先人の高い創造性とたゆみない努力、何事にも果敢に挑戦する市民意識のたまものです。

私たちは、このすばらしい都市と精神を次代に引き継ぐため、長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30年後（1世代先）の理想の姿を示し、「浜松市未来ビジョン」とします。

### ——技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ【創造都市】——

浜松はクリエイティブシティとして世界に認められています。地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、私たちの暮らしの質を高めています。

産業面では、先人たちの‘やらまいか精神’が受け継がれ、新しいものを創り、新しいことに挑戦しています。多種多様な企業が次々と生まれ、イノベーションの連鎖が起きています。ベンチャー企業などのスモールビジネスも好調で、建築や商工業デザインのクリエイターが活発に行動しています。

玄関口となる‘まちなか’では、洗練された文化が感じられ、多くの人々に心地よさを提供しています。屋外のコンサートによってメロディが響き渡り、駅前広場などの公共空間では、芸術性の高い絵画・オブジェなどを見て楽しむことができます。音楽を中心に、創造性豊かな人財の育成が行われており、子どもころから芸術に触れることによって浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。アクトシティで開かれるクラシックやジャズなど様々なジャンルの演奏会、中山間地域に受け継がれる伝統芸能は私たちに感動を与えてくれます。広大な市域に広がる多様な文化が相互につながり、歴史・伝統を脈々と引き継いでいます。とりわけ、浜松国際ピアノコンクールは、権威ある音楽イベントとして全世界に認められ、「音楽の都・浜松」を象徴する存在となっています。

物心両面で暮らしの豊かさが高まる中、多くの外国人もまた幸せに暮らしています。日本人市民と外国人市民がお互いの文化や習慣の違いを認め合い、共に生きるまちづくりを

進めています。日本一外国人が暮らしやすい都市という評価を得て、情報や資金が世界中から集まるため、新しい価値が生まれています。さらに、質の高い教育を受けた子どもたちは、世界を舞台に活躍しており、クリエイティブシティの国際色を高める重要な人財になっています。

#### ———小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす【市民協働】———

浜松を創造する人財は、老若男女すべての市民です。日々の生活を送る上で、対等な立場で支え合い、市民主体によるまちづくりを進めています。また、企業は、地域社会における責任を理解し、社会貢献活動に取り組み、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、経済的に自立して活動しています。こうした多様な市民協働の担い手は、お互いに顔を合わせ、時には活発な意見交換を行い、時には笑い合いながら信頼関係を強めています。

浜松まつりや地域の祭り、伝統芸能は、歴史ある大切な文化として次世代に引き継がれています。年齢や職業、国籍が異なる人同士が仲間になり、地域コミュニティの活動を通して、地域の活性化に貢献しています。

生活基盤については、居住エリアの集約が徐々に進行し、公共インフラの規模が縮小され、将来への負担も抑えられています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、日々の暮らしを楽しんでいます。

こうしたまちづくりは、移動や消費にかかる地球環境への負荷も軽減しています。人が生きるために必要な水や自然環境について、将来にわたって守り続けることの大切さを子どもたちから理解し、大自然からの豊かな恵みを循環させるため、森林や河川、海、湖沼を守る取り組みも、協働で行われています。

#### ———新しさを生む伝統を未来へつなぐ【ひとづくり】———

浜松は人財が一番の誇りです。これは、子どもたちに対して、家庭・学校・地域で、いっぱい愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識、社会貢献への意欲をはぐくんでいるからです。自ら人間力を高めた人財が、誇りを持って浜松を支えています。

また、先人たちの技と知恵が伝承されています。産業面では、ものづくり産業の伝統の技が活かされ、優れた技能を持つ人財が、付加価値や生産性の高い産業を成長させています。こうした成長産業への人財や資金の集中とともに、若い世代に加えて、女性や高齢の世代の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。さらに市民活動でも、長年地域で生きてきた先輩から多くの知恵を若い世代が受け継ぎながら、浜松をより良くしています。

浜松には、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性があります。こうした多様性を活かして、‘ヒト’を育て、‘モノ’をつくり、‘コト’（文化）を創造することで消費活動を活発化させています。‘ヒト’‘モノ’‘コト’を循環させることによって、新しい価値を生み出す伝統が将来につながっています。

**以下に、浜松の理想の姿を構成する「1 ダースの未来」を描きました。私たち浜松市民は、希望に満ちた未来に向けて挑戦します。**

## つくる【創る】

### 「見たこともない」感動をつくる。

#### —— ‘ものづくり’ と ‘文化’ で感動 ——

浜松は、発展し続ける都市です。機能からデザイン、サービス、また、観光や文化芸術に至るまで「見たこともない」と驚かせる‘モノ’や‘コト’があり、私たちの生活の一部にさえも人を惹きつける魅力が備わっています。

ものづくり分野では、技術研究へのひたむきな情熱と新しいものに挑むチャレンジ精神が「オンリーワン技術」を生み、脈々と受け継がれながら常に革新され、新たな産業の糧となっています。アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖が起きています。こうして高い技術力で不可能を可能にする浜松発のイノベーションが海外にも広がり、新しい市場も開拓され、世界経済を支えています。

文化芸術分野でも、新鋭のミュージシャンやアーティスト、クリエイターが創作活動を繰り広げ、私たちに感動を与えています。また、音楽を中心とした多様な文化が新たな価値を生み出し、クリエイティブ産業として成長を遂げています。

浜松で認められることが、世界で認められる近道です。世界からたくさんの起業家や技術者、アーティストやクリエイターが集まり、私たちが、オール浜松で彼らのチャレンジ精神を後押ししています。

#### —— ‘うまい’ で感動 ——

世界からの来訪者が多いため、商業にもビジネスチャンスが生まれています。浜松産の農林水産物は、安全とおいしさで勝負し、ここでしか手に入らない逸品を取りそろえた店舗が軒を連ねています。腕の立つ著名な料理人も多く、世界の食通が一度は訪れたい店としてあげる飲食店も店を構えています。浜松産を食べたいという、訪れる人の思いを実現することで、満足度が高まり、家族や友人を連れて再び訪れています。もちろん、私たちもリピーターです。店舗同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしが来店客を満足させています。

#### —— 他にはない ‘ウリ’ で感動 ——

大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林での間伐などをはじめとした体験型の観光が人気です。首都圏などからの観光客も増え、顔の見えるあたたかい結びつきが居心地の良さにつながり、体験者には、「もうひとつのじいじ、ばあばんち」として親しまれています。多くのリピーターが集まり、中には移住した人も見られます。

このほか、地域ごとの伝統行事、浜名湖や遠州灘におけるマリンスポーツ、外国人市民が営む店舗などが‘ウリ’です。私たちも、休みの日には、市内で余暇を楽しみます。

他にはない‘ウリ’を活かしたトップレベルの発信力で多くの人を呼び込んでいます。

## たかめる【高める】

# 自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。

### ———[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT（情報通信技術）]———

浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる農地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、**安全で**特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた事業者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携により、植物工場の設置や新しいサービスへの転換、光技術などの応用を進めています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもあれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住む人でも、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」の視点を有することに加え、ICT分野の技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、健康や福祉などの分野へと結びつけています。

### ———[森の恵み]×[デザイン]×[循環]———

林業分野では、植林、伐採の計画的なサイクルのもと、効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は世界に通用するブランドとなっています。地元のクリエイターとの結びつきから、デザイン性の高い家具や玩具などに加工され、全国に広く流通することで6次産業化も進んでいます。未利用間伐材もバイオマスの定着により、燃料として余すところなく利用されており、環境保全を兼ねながら収益をあげるサイクルは、全国のモデルとなっています。また、多くの建物には「Tenryu-zai」が使われています。

子どもころから森林へ足を運ぶことによって、山を身近に感じ、「命の源である水・水の源である山」としての価値に多くの人気が付きました。この結果、生活を守る林業を誇りある職業と感じる人が増え、中山間地域に移住する人も増加しています。

### ———[海や川の恵み]×[ブランド]×[商い]———

水産業分野では、海や川、湖での資源を守り育てる漁業が安定的な産業として定着し、船具の改良や水産加工業、流通業の発展とともに、私たちの食卓に安価でおいしい食材を提供しています。また、漁獲の安定により、ウナギやトラフグ、クルマエビ、ノコギリガザミといった特色ある水産資源は、地元の料理店では産地ならではの看板メニューとして人気を呼び、浜松ブランドは高級料理店からも注文が絶えない食材になっています。

さらに、魚介の孵化や育成技術の向上は、商業的な栽培漁業や養殖業を活性化しているほか、市民が参加する放流活動など水辺の環境を自ら保全する取り組みを充実させています。資源豊かな川辺でアユ釣りなどのレジャーを楽しむ人や、浜名湖でアサリやハマグリなどの潮干狩りなどのレジャーに訪れる観光客の増加が地域の賑わいを創出しています。

# いかす【活かす】 日当たり良好、未来に無駄なし。

## ———地の利を活かしたエネルギー———

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の導入が進んでいます。

日照時間は全国トップクラス。ほとんどの住宅や工場、公共施設などには、太陽光をエネルギーに変える屋根や壁面が備わっています。さらに、継続的な研究開発により、ものづくり産業の技術力を高め、太陽光発電のエネルギー効率が大幅に向上するなど、再生可能エネルギーに関する技術は大幅に進歩しています。

冷たい季節風でしかなかった遠州のからっ風も、今では、風力発電設備で電気に変換され、快適な住まいを提供してくれています。

豊富なバイオマス資源は、浜松の地域振興にも大きく寄与しています。中山間地域の林業に活気を取り戻す一因となった木質バイオマス発電に加え、私たちから排出された生ごみをエネルギーに変えるバイオガス発電も稼働しています。

こうした取り組みにより、再生可能エネルギーによる市民1人当たりの発電量が日本一になるとともに、多くの市民や企業が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しています。

また、再生可能エネルギーが普及する中で、地球環境への負荷が最小限に抑えられています。

## ———無駄を省いたエネルギー———

1人当たりのエネルギー使用量は、30年前と比較すると大幅に減少しています。

それは、住宅や工場、公共施設など、すべての施設が省エネルギーに取り組むとともに、エネルギーを創る技術だけでなく、エネルギーの効率性を高める技術も向上したからです。

私たちが暮らす住宅は、高気密・高断熱化やエネルギーを無駄なく賢く使う設備の標準装備など性能が向上し、省エネルギーに配慮されたものが一般的になっています。

## ———自ら生み出し、賢く使うエネルギー———

私たちのエネルギーに対する意識は大いに高まりました。

住宅や工場、公共施設などでは、必要なエネルギーは自分で創る、まさにエネルギーを自給自足しています。そして、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

また、地域コミュニティ単位では、住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーの余剰分などを無駄なく賢く融通し合う社会システムが構築されています。

波力・潮力など多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給され、市内のエネルギー全体に占める割合も徐々に拡大しています。これにより、災害など想定外の事態にもエネルギー供給が滞ることなく十分対応できる都市になっています。

## めぐらす【巡らす】

エコ (ecological) = エコ (economical)。

### ——豊かな自然環境と共存する暮らし——

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた浜松。その豊かさは、多種多様な生物をはぐくんできました。これは浜松の貴重な財産であり、“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖をはじめとした身近な水辺では水質が格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、「環境にやさしいことはおサイフにもやさしいこと」と、「自然環境を守ることは人が生きるため絶対的に必要なこと」をすべての市民が理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を自ら考え、行動しています。また、こうした環境に配慮した取り組みを世界に提供することで、地球環境の保全に貢献しています。

### ——世界が羨望する豊富な水資源——

世界と比較して我が国は雨が多く、その中でも浜松の年間降雨量は全国的に見ても多いため、水資源が豊富です。また、市域の約70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件がそろっています。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。川を通じて、上流は下流のことを考え、下流は上流のことを感謝する気持ちがはぐくまれています。私たちは、水の源である山や川を大切にし、水を浪費せず、汚れた水を適切に処理しています。下水道の処理施設もコンパクト化され、浄化された水の再利用も行われています。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水>油」。水は私たちの誇りです。

### ——1人当たりのごみ排出量は減少——

不要物がすべてごみとは限りません。私たちの生活に3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みが定着していて、1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。また、高度な技術力を活かして、廃電子機器から再利用できるレアメタルの回収も先進的に取り組んでいます。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。

これまで、化石燃料や鉱物など資源の枯渇が課題とされてきましたが、私たちの世代はそれを使い切っていません。技術革新と協働で、環境に配慮した取り組みを向上させたからです。

## つなぐ【繋ぐ】

### 「都会」と「田舎」。両方あって丁度良い。

#### ——「まちなか」は、創造都市・浜松の顔——

「まちなか」は、創造都市・浜松の「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催され、海外からも多くの人を訪れます。

まちなかの店舗も賑わっています。店舗同士が連携し、大規模店やネットショップと差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、多くの市民が移り住んでいます。

さらに、居住人口の拡大により公共、商業施設などの都市機能が集積し、店舗2階などの空きスペースは、ベンチャー企業の仕事場、アーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などが備わった「まちなか」は、多くの人で賑わいを見せています。

#### ——ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」——

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水と緑を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値と自然環境の大切さが認識されています。若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、おくない、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。これらの伝統芸能は、まちなかでも、イベントとして披露される回数も多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

昔ながらの人付き合いが根付いた「中山間地域」では、豊かな自然と地域伝統が満喫できる暮らしを選択した様々な世代が流入し、新しい雇用も生まれています。「都会」と「田舎」が両方あって、緊密に結ばれている浜松。大都市圏からのアクセスも良く、幅広い年代が暮らしやすい生活スポットとなっています。

## みとめあう【認め合う】

# 似ていない。だから、うまくいく。

### ———多文化共生が国際的な人財をつくる———

浜松は、**外国籍の人や外国にルーツを持つ人**が多く居住する「外国人集住先進都市」であり、海外の文化と共生する術が身についています。このため、世界各国の人財も、安心して暮らす中で、それぞれの能力を発揮しています。日本人市民も外国人市民も浜松で育つ子どもたちは、質の高い教育により自らの希望に向かって、得意とする分野で成功を遂げています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、**多言語**による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、**多言語による**支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちとも一緒になって学び、遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に成長した日本人の子どもたちは、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることはないため、全世界で活躍しており、浜松からインターナショナルな人財が輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

### ———心の国境を感じさせない都市———

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、自治会活動をはじめ、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの様々な活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントなどが生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の決まりを尊重する考え方が定着し、言語や文化の違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、様々な国籍に対応できるサポートが充実しており、多くの外国人市民が、住みやすさを実感しています。国境を感じさせない都市として、あらゆる市民が創造性を発揮できる社会をつくり上げています。



## ささえあう【支え合う】

### 安心で選ばれる。安全だから選ばれる。

#### ——支え合いがあるから安心——

地域社会全体で支え合い、だれもが穏やかに安心して生活を送ることができるから、浜松は住みやすいまちとして選ばれています。学校や診療所、薬局、店舗などが、防災や防犯の相談窓口となっており、だれもが気軽に利用することができます。

また、地域のコミュニティや企業などが連携した地域の見守り体制などにより安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する市民の意識も高く、家庭・学校・地域コミュニティで質の高い防災訓練などが実施されています。すべての市民が「自分の身は自分で守る」意識を共有し、大規模災害に備えています。また、市民の安全と安心を守る遠州灘海岸の防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民の憩いの場として親しまれています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

#### ——つながりがあるから安心——

デイサービスなどの福祉施設では、65歳以上の市民がボランティアとして元気に活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅での介護や、障がいがあり生活支援を必要とする人には、地域の資源が大いに活用されています。

行政やボランティアなどの支援体制によって、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができ、介護する家族に対しても、生活の質を向上させています。

#### ——充実した医療体制だから安心——

医療体制は、我が国の手本となっています。受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担しているほか、診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応するなど、医療機関同士の連携が進んでいます。相互連携による質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

また、病気にかからないための予防の重要性が認識されています。栄養・食生活、運動、休養などの視点から健康づくりに取り組みやすい環境が整備され、生活習慣病予防など健康に関心を持ち続ける意識が浸透しています。

# はぐくむ【育む】

## 子どもは将来を担う地域の宝。

### みんなで愛情を注ぐ。

#### ——子育ての達成感を地域でシェア——

浜松では、子育ての苦労も楽しみも地域でシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、近所に住む「じいじ」、「ばあば」に気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

#### ——地域の見守りで出生率は上向き——

勤め先では、**男女を問わず**育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。このため、出産・育児を理由に仕事を辞める人は減り、女性の社会進出は更に進みました。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来を担う地域の宝といった意識が一人ひとりに浸透し、保護者や地域が一体となって愛情を注いでいます。このため、子どもたちは、「自分は大切な存在である」と感じ、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけています。

不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています。

#### ——世界に誇る浜松育ち——

学校では、すべての子どもたちが笑顔で平等に学ぶことができます。基礎学力を身につけながら、子ども同士も互いの個性を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、子どもたちは自分に合った学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。

さらに、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間の形成に役立っています。

家庭、地域、企業、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わり、子どもたちは地域社会の一員としてはぐくまれています。浜松の子どもたちは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばしています。

子育てに不安はありません。これは、地域のみんで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守ってきたからです。

## みのる【実る】

# 若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

### ——自分らしく自立したカッコいい老い方——

市民の5人に2人が65歳以上。とはいえ、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に向上し、65歳以上の市民が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。まちなかに生活に便利な住宅が用意される一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、住みたいところで暮らし、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が一般的です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や旅行など、消費を活発化させる重要な対象であり、企業でも、高齢の世代をターゲットとした商品開発に余念がありません。

### ——いつまでも快適で質の高い生活を——

地域では、予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があり、自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、食材の調達・食事の用意を支援する仕組みが進化するとともに、歩行や普段の行動を補助する技術も実用化されており、自分らしい生活を送ることができます。こうした技術は、世界中で好評を博し、海外に輸出されています。

ユニバーサルデザインへの理解が増してきました。施設や道路などの環境整備や生活用品などにユニバーサルデザインが取り入れられ、生活支援などのサービス情報をワンストップで提供するコーディネート機関も地域にあり、安心して快適に暮らすことができます。

「心のユニバーサルデザイン」が一人ひとりに浸透し、地域で暮らすすべての人が、互いの個性や立場を理解し尊重して、助け合いながら暮らしています。

### ——長寿が喜ばれる世の中へ——

また、一人暮らし世帯の数は、増加傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする人が増えています。地域コミュニティの場の中で互いに関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。

いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。人生の達人は、企業にも地域にも必要とされ、若い世代に技と知恵を授けています。

# はたらく【働く】

## 「やってみたい」を自由にチャレンジ。

### ——働くことにチャレンジ——

働きたい人が働きたい仕事に自由にチャレンジできる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人に平等です。

働くことによって、ほとんどの人が生活の糧を得ていますが、たとえ無償の仕事であったとしても、生きている実感を味わい、社会の中で自分の居場所を見つけることができた人も少なくありません。また、会社勤めが主流ではなくなり、自らの目標を実現するため、新たに起業する人も増えています。

### ——働くことをサポート——

一方で、企業では、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。求職の際は、身近なところに就業のためのコンシェルジュ的な役割を果たす人がおり、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。さらに、そこでは、就業のコーディネートだけでなく、様々な事情を抱え、働きたくても働けない人のサポートも行っています。また、転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事や適性にあった仕事を選択することができます。

### ——働きやすい環境を整備——

雇用の掘り起こしや働きやすい環境が整備され、高齢世代、女性、障がいのある人、外国人の働く場が拡大するとともに、定年の廃止や延長によって人口減少、少子高齢化による労働力不足の懸念は、解消されています。また、託児施設の充実などにより、子育て世代が働くことを社会で支えています。企業では、育児休暇制度を充実させ、休暇後の職場復帰も積極的に推進しており、子育てのために仕事を辞める必要はありません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献、ボランティア活動などに精を出す人が増えています。また、NPO 法人などの非営利組織も魅力ある就労先の一つとなっています。

# かえる【変える】

## ま ち 都市だって、スリムになりたい。

### ——住まい方を変える——

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した住宅として、リフォームされています。また、子どもの独立を機に戸建て住宅を売りに出し、コンパクトサイズのマンションへ転居する世帯も増えています。一方で、子育て世代が、売りに出された戸建て住宅に移り住むといったサイクルが形成されています。これにより、同一世代が一定の地域に集まることが少なくなり、地域で世代を越えた交流が進んでいます。

### ——居住エリアを変える——

拡大していた居住地は地域の拠点に集約傾向にあり、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農地の集約や企業の集積が進むなど、生産性が高まっています。

### ——乗り方を変える——

移動手段は、電車やバスなどに加え、地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地での移動手段は、徒歩を中心としていますが、エコな一人用の乗り物もあります。道路は、歩道と車道が明確に区分され、交通事故は減少しています。また、居住地の集約によって、不要となった道路は廃止され、他の用途に活用されています。

### ——公共施設を変える——

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、多様な機能を併せ持つ施設が整備されています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。民間事業者やNPO法人などが運営母体となり、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

## むすぶ【結ぶ】

# もはや遠距離は、妨げではない。

### ——働き方に ICT——

ICT の向上は目覚しく、私たちの生活の細部に浸透しています。インターネット端末は、使いやすい機能性を備え、より身近なものとなり、だれもが賢く利用しています。

働き方が大きく変わりました。Web 会議などが主流になっており、仕事のために移動することは、月に数回程度。それ以外は、ほとんど自室で対応しています。また、商店や小さな工場などは、インターネットを利用して世界を相手にビジネスを広げています。こうした生活は場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅とするなど、自分の居場所を選択できるようになっています。勤務時間の概念がなくなり、自分の時間を活用できています。

### ——学び方に ICT——

児童・生徒はそれぞれインターネット端末を所有しています。電子黒板の活用により、授業の様子をインターネット端末で復習することもできます。また、緊急連絡の受信や位置情報の配信にも利用され、防犯対策も万全です。

ICT の普及とともに、情報倫理の浸透とセキュリティの強化が進んでいます。学校をはじめ、社会においても、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないアウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。

### ——暮らしに ICT——

浜松が抱える膨大なインフラの維持に関しては、センサーにより遠隔管理する技術をいち早く取り入れているほか、市役所での手続きも電子化が進み、庁舎まで出向かなくてもインターネットでほとんど対応できます。また、医療に関しても、電子カルテによるデータ管理や遠隔診療、仮想内視鏡などの ICT 技術が日々向上しており、患者に対する利便性の向上や負担の軽減に役立っています。

### ——遊びに ICT——

観光面では、交流人口を拡大させるため、豊かな自然や貴重な文化資源などの浜松の魅力を世界に発信しています。また、観光スポットにも公衆無線 LAN が整備され、インターネット端末を快適に使うことができます。さらに、仮想現実を活用して、テーマに応じた観光情報を配信するアプリは無数に普及しており、海外の観光客にも分かりやすく情報発信しています。

私たちは、情報通信技術を賢く活用し、生活の豊かさにつなげています。





浜松市

## 浜松市未来ビジョン

---

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課



浜松市総合計画 基本計画

# 浜松市未来ビジョン 第1次推進プラン

(案)

# 目次

---

1	未来ビジョン（基本構想）を受けて	1
2	都市経営の考え方	2
①	市民協働で高める地域力	2
②	未来まで続く持続可能なまち	3
③	未知の感動を生み出す創造都市	3
④	想定外にも対応できる自立・自律したまち	4
⑤	世界とツナグ・地域とツナグ	4
3	まちづくりの基本的な考え方	5
4	分野別計画	7
	分野別計画の構成	8
①	産業経済	9
②	子育て・教育	13
③	安全・安心・快適	17
④	環境・エネルギー	21
⑤	健康・福祉	25
⑥	文化・生涯学習	29
⑦	地方自治・都市経営	31
◆	政策体系	35

# 1 未来ビジョン（基本構想）を受けて

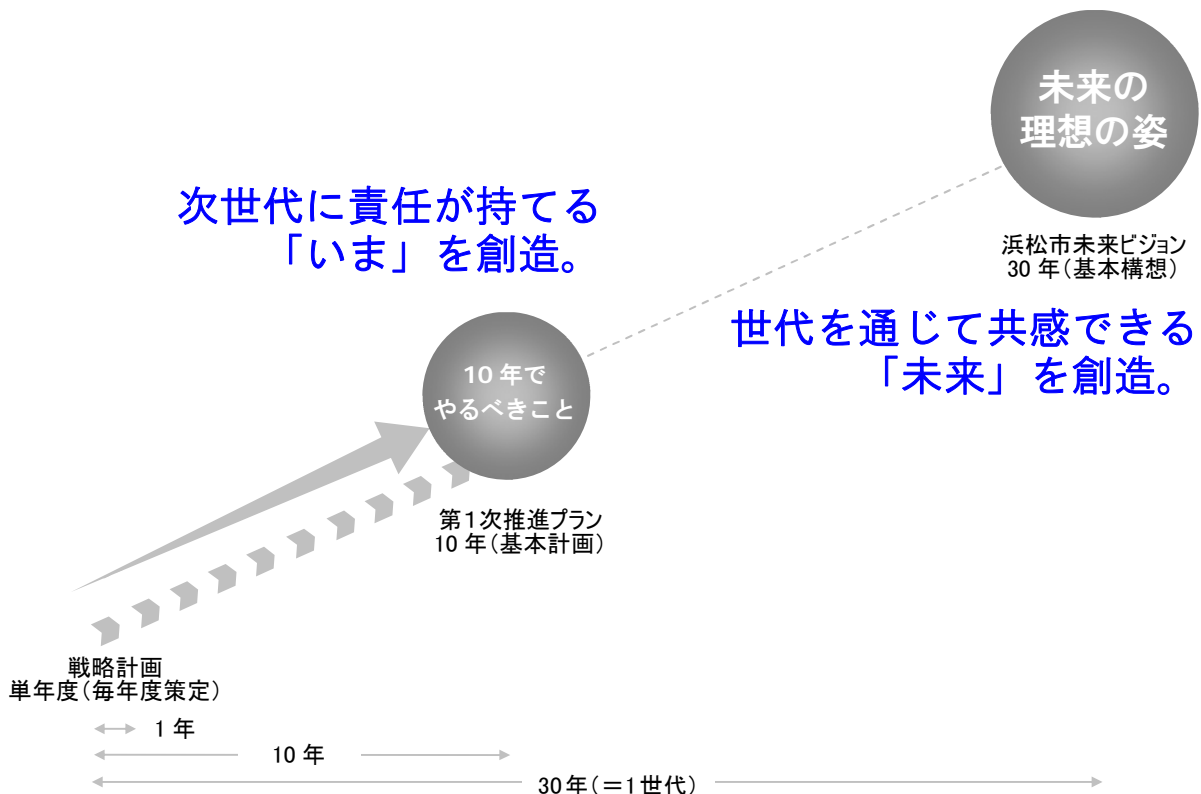
人口減少・超高齢社会など、未知の環境に立ち向かうため、新たな手法として、バックカスティング\*方式を取り入れました。

未来ビジョンでは、世代を通じて共感できる「未来」を創造するために、一世代(=30年)先を未来の理想の姿として、「都市の将来像」と「1 ダースの未来（理想の姿）」を定めました。

第1次推進プラン（基本計画）では、未来ビジョンの実現に向けて、長期的な展望に立ち、「今、行政は何を行うべきか」「今、市民にできることは何か」を考え、次世代に責任が持てる「いま」を創造し、平成27年度から平成36年度までの10年間の総合的な政策を定めています。

また、第1次推進プランに掲げた10年後の姿を達成するため、事業実施の核となる戦略計画を毎年度作成し、計画的な進捗管理を進めます。

将来にわたって、市民が幸せに暮らし、豊かさを実感できるように、新たな挑戦をスタートさせます。



\* バックカスティング：目標となる将来の理想の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今すべきことを定める考え方。

## 2 都市経営の考え方

市域を見渡せば、海、川、湖、山などの豊かな自然環境に恵まれ、沿岸部や都市部、中山間地域の多様性を有する「国土縮図型」の政令指定都市を実感することができます。地域の多様性は、本市の強みとして、特色のある産業や伝統文化などをはぐくんできました。

一方、広大な市域の中には、政令指定都市で最も長い道路延長や多くの公共施設が存在します。これらの維持更新のためには莫大な費用を必要とするなど、新たな課題も抱えています。

地域の持続的な発展のためには、行政資源や地域資源を効果的に組み合わせ、これらの課題の機先を制し、課題解決の先進都市を目指した都市経営が求められます。

このため、都市の将来像の実現に向け、すべての政策・事業を進める上での重要な考え方として、次の5項目を位置付けます。

### ① 市民協働で高める地域力

すべての市民が住み慣れた地域で充実した生活を続けるためには、行政だけでなく、市民、市民活動団体、企業などがまちづくりの主角として、各自の役割を果たすとともに、それぞれの主体が協働により、お互いを補い、支え合い、相乗効果を生み出していくことが不可欠です。

このため、行政情報の積極的な提供を行うとともに、情報の共有などによる各主体との協力・連携体制を築くことで互いの信頼関係を強化します。最終的には、行政が持つ権限や意思決定などの役割分担も視野に入れ、市民などが主体となって地域の課題を解決する地域力を高めていきます。

## ② 未来まで続く持続可能なまち

ヒト・モノ・カネ（地域経済）の最適な循環が持続可能な発展につながります。

ヒトの循環では、子どもや子育て世代への支援、ワーク・ライフ・バランス\*の推進、都市の魅力創出などにより、出生率の増加、年少・生産年齢人口の拡大を目指し、人口構成の最適化を図ります。

モノの循環では、ゴミの分別や廃電子機器からのレアメタル\*の回収など、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを、生活面、産業面などあらゆる分野で進めます。また、市民生活や産業活動を支えるエネルギーを持続的・安定的に確保するため、恵まれた自然環境を活かした再生可能エネルギーの利用を推進します。

カネ（地域経済）の循環では、既存産業の高度化や経営革新、新産業の創出、ベンチャー企業の創業などの支援による雇用創出を推進します。また、新たなビジネスチャンスの獲得を目指した企業への海外展開支援などを進め、地域経済が潤う仕組みを構築します。

さらに、地域の課題を解決するため、コミュニティビジネス\*などを、NPO\*をはじめとした市民活動団体などが営む環境を整えます。

最適な循環を生み出すことで未来まで続く、持続可能なまちづくりを進めます。

## ③ 未知の感動を生み出す創造都市

何事にも積極果敢な進取の気風である「やらまいか精神」\*、異なる文化を受け入れる寛容な市民性が、多様性に富んだ人財をはぐくみ、世界的な「ものづくり」のまちとして、発展を遂げてきました。

本市の強みである「寛容性」や「ものづくり」の伝統を未来に引き継ぎ、市民や企業の創造的な活動により、産業の創出、地域の教育や福祉への貢献など、すべての分野で新たな価値が次々に生まれるまちづくりを進めます。

すべての市民が互いに創造性を刺激し合い、常に新しい取り組みにチャンレンジすることで、未知の感動を生みだし、創造都市\*・浜松の実現を目指します。

---

\* ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりがそれぞれの希望に応じて、仕事とそれ以外のこと（家庭や地域活動など）のどちらも大切にできるライフスタイルで、両方にやりがいや充実感を感じられる状態のこと。

\* レアメタル：産出量が少ない稀少金属のこと。

\* コミュニティビジネス：地域の住民を中心とした組織などが生活者の需要に対して、展開する事業で社会奉仕的な要素を持つ。

\* NPO：Non-Profit Organizarion（非営利組織）。市民が主体的に社会活動に取り組む非営利の民間組織。

\* やらまいか精神：遠州（浜松）地方の方言で「やってみよう」「やろうじゃないか」の意味を持ち、何事にも前向きに取り組む気性を表す。

\* 創造都市：地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく都市。

## ④ 想定外にも対応できる自立・自律したまち

地震・津波の災害、感染症のまん延など、有事に対する備えを怠らないことで、想定外にも対応することができます。環境変化にしなやかに対応する、打たれ強い都市を目指し、安全・安心を実感できるまちづくりに取り組みます。

また、選択と集中による経営資源の有効活用など、自らを律する「自律」により、不断の行財政改革に取り組み、都市経営の基盤を強化することで、いかなる環境変化にも対応して、市民サービスの質と量を確保します。

さらに、道州制の導入をはじめ、地方の姿が大きく変わろうとしている中、地方自治のあるべき姿に向けて、自立した基礎自治体である“特別自治市<sup>\*</sup>”の実現を目指します。

## ⑤ 世界とツナグ・地域とツナグ

情報通信技術、交通機関の発達により、ヒト・モノ・カネ・情報の急速なボーダーレス化<sup>\*</sup>が進展しています。世界の都市との連携を強化し、本市の特徴や強みを活かした国際戦略を進めることで「Hamamatsu」の都市ブランドを高め、企業の海外展開、海外からの企業誘致、文化・芸術・産業などの融合による創造都市の実現などにより、世界の活力を地域に取り込みます。

国内では、政令指定都市や三遠南信地域内の各自治体との連携を強化し、防災、観光、産業などの広域的な課題に対応します。また、市内では、都市部と中山間地域との交流を促進して、地域内の活性化を図ります。

世界・地域をツナグことで、本市の強みである自然や産業、文化などの多様性を活かした取り組みを進めて、未来への架け橋を築きます。

---

<sup>\*</sup>ボーダーレス化：国籍や国境などが意味をなさないほど、国際的に広がっていること。

### 3 まちづくりの基本的な考え方

#### コンパクトでメリハリの効いたまちづくり

市民が居住するエリアを、公共交通の結節点や道路・鉄道の沿線に集約します。これらの居住エリアは、農業や工業などの産業を振興するエリアと、自然環境を保全するエリアとを明確に区分し、市域全体にわたり、人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造を目指します。







人口密度を高めることにより、店舗や病院などの民間活力を誘発し、便利で快適なまちへと移り変わる好循環を生み出します。また、道路や上下水道などの公共インフラについても見直しを進め、人口規模に応じた最適化を図ります。

また、中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに、交通ネットワークの強化によって都市部との交流を促進します。

『コンパクトでメリハリの効いたまちづくり』を基本的な考え方として、持続可能な最適化されたまちを市民とともに目指します。

「まち」を4つ（①都心部／②市街地／③郊外地／④中山間地域）に区分し、それぞれの「まち」に応じた将来の理想の姿（基本的な考え方）を示します。

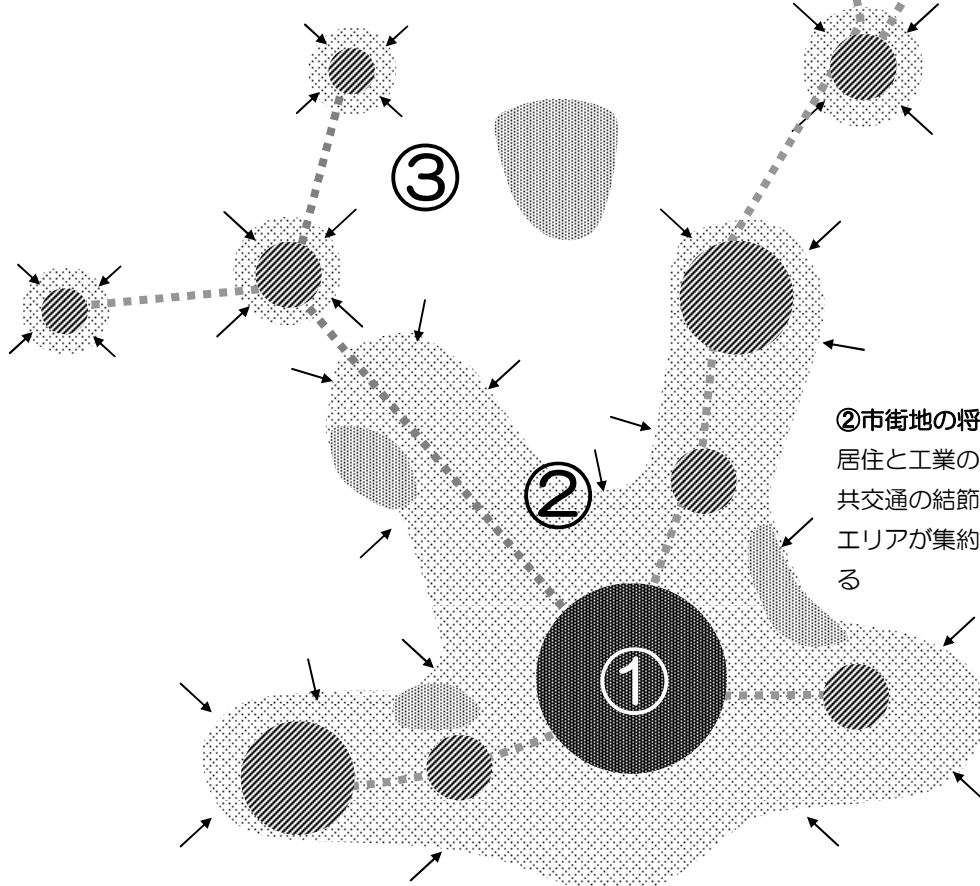
# イメージ図

凡 例	
	都心
	生活拠点など
	居住エリア
	工場用地など
	公共交通などのネットワーク
	集約イメージ

※ 市街地：都市的な土地利用が図られるところ  
 郊外地：低密度な土地利用が図られるところ

### ③郊外地の将来の理想の姿

農地の集約化などが進み、産業構造の変化に対応した農業と工業のバランスある土地利用がなされるとともに、既存集落のコミュニティが維持されている



### ④中山間地域の将来の理想の姿

自然環境が保全されるとともに、都市部との交流が盛んに行われ、各地域の中心地では、田舎暮らしが楽しめる

### ①都心部の将来の理想の姿

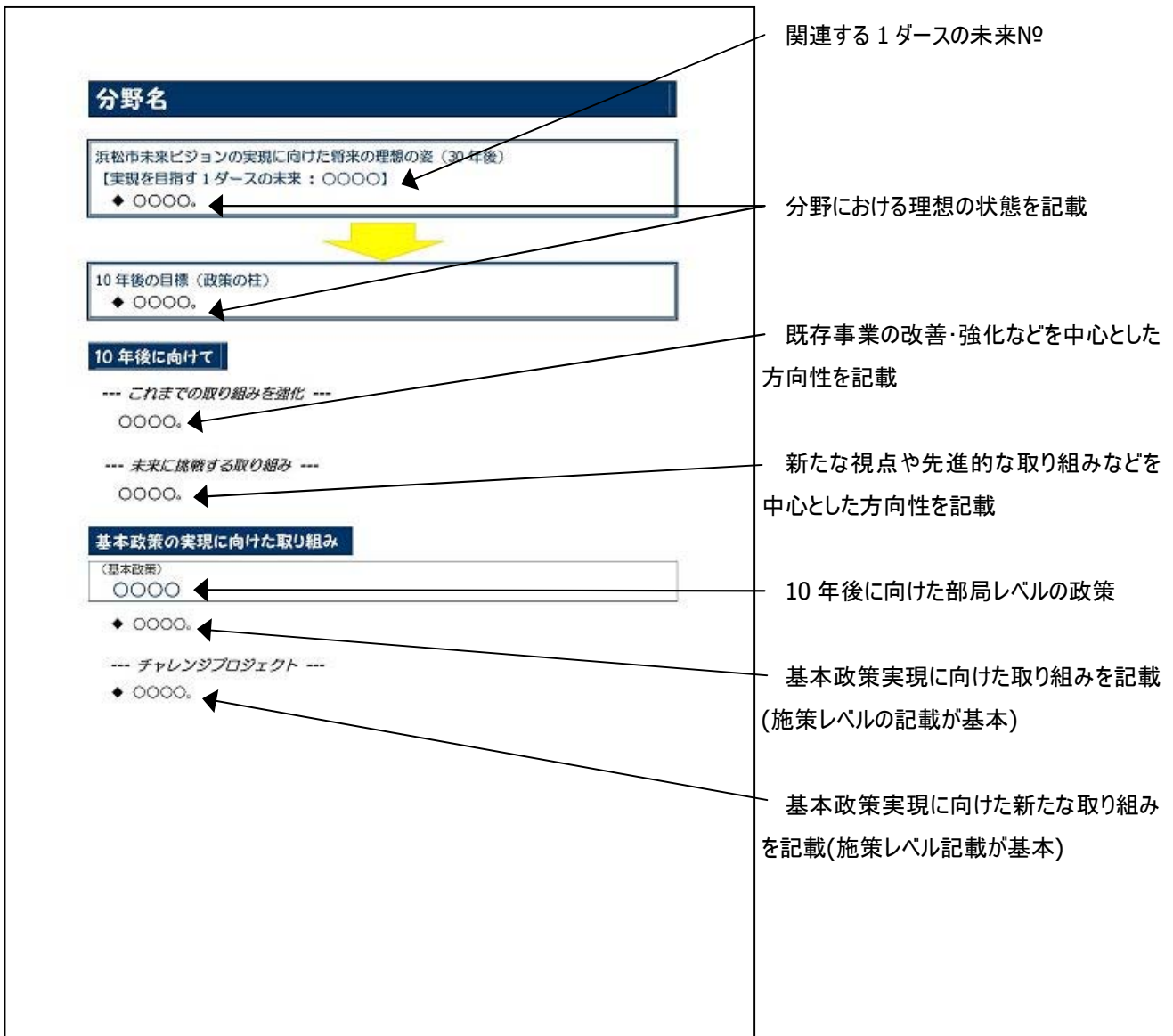
創造都市の玄関口として、商業、業務、文化の魅力が高まり、多くの人々が行き交い、多くの市民が居住する



## 4 分野別計画

- ① 産業経済
- ② 子育て・教育
- ③ 安全・安心・快適
- ④ 環境・エネルギー
- ⑤ 健康・福祉
- ⑥ 文化・生涯学習
- ⑦ 地方自治・都市経営

# 分野別計画の構成



## ①産業経済

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：01、02、03、10、12】

- ◆ 創造性と安定性を兼ね備えた浜松の産業が、世界経済を支えている。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業\*が集積し、持続可能な地域経済が確立している。
- ◆ 来訪者が浜松の魅力とおもてなしを実感し、リピーターが増えている。
- ◆ 多様な担い手による付加価値の高い農林水産業が行われている。

### 10年後に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

オール浜松体制の産学官連携による総合的な産業支援のもと、ものづくり産業の高度化と新産業\*の創出を図ることで、新たな市場の開拓を進め、競争力のある複合的な産業構造が確立できるよう支援します。また、活力ある海外市場の需要を取り込み、国内事業の活性化を図ろうとする意欲的な地域企業の海外展開を促進します。

農林水産業では、担い手の育成を図るとともに、安定した農地の確保、持続可能な森林管理、適切な水産資源の確保を通じて、国内外に安全で安心な浜松産の農林水産物を安定的に供給します。

さらに、創造都市の玄関口にふさわしいまちなかの創出や、国内外に通用する浜松ブランドの確立など、来訪した多くの人がおもてなしを実感できるよう、浜松の魅力を高めます。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

多様な産業の発展とクリエイターが育つ環境づくりを支援し、成長産業が集積する都市、創業がしやすい都市として世界に発信します。

農林水産業では、ICTの活用やマーケティング手法の導入などにより、生産性の高い新たな流通システムの構築を促進します。さらに、健康や福祉などの分野と結びつくよう支援し、多様な担い手が参画できる仕組みを整え、付加価値の高い農林水産物を生産します。

浜松地域の産業経済を順調に推移させるため、就労相談等についてワンストップサー

\*リーディング産業：地域の経済を主導していく中核的な産業。浜松地域では、輸送用機器関連産業がリーディング産業となっており、複合的な産業構造を目指し、輸送用機器関連産業に次ぐ新たな産業の創出に取り組んでいる。

\*新産業：輸送用機器関連産業、楽器産業、繊維産業などの既存産業以外の、地域をけん引する新たな産業。

ビス\*の提供ができる体制の整備など、人と仕事をつなぐ環境の充実を図ります。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 世界の一步先を行く産業・サービスの創造

- ◆ 地域企業の新たな事業展開や成長産業へのチャレンジを支援します。
- ◆ JETRO\*や金融機関などとの連携により、中小企業の海外展開を支援するとともに、地域企業が連携した自立的な海外販路展開を促進します。
- ◆ 国内外の大学や企業、産業支援機関、金融機関のネットワークを構築し、新産業の創出を促進します。
- ◆ 将来の産業需要に合った工場用地を整備し、新たなリーディング産業を誘致します。
- ◆ ものづくりの専門家の技術を継承する仕組みづくりを構築するとともに、製品の販路を開拓し、地域産業の技術力向上を支援します。
- ◆ 浜松駅周辺エリアにおいて、魅力的な個店同士がつながり、切磋琢磨する環境づくりを進めるとともに、企業のオフィス進出を支援します。
- ◆ 住みやすく、歩行者や自転車に優しいまちなかの形成を進め、都心居住者数の増加を図り、浜松駅周辺エリアの活性化を促進します。
- ◆ 浜松及び近隣地域の観光資源を活かした着地型旅行商品\*の企画に向けて、人材の育成と体制の確立を支援します。
- ◆ ICTを活用した観光施設や公共交通機関の案内、飲食メニューの表示などを進め、来訪した多くの方がおもてなしを実感できる環境を創出します。
- ◆ 労働意欲を就労に結びつけ、だれもがやりがいを持って安心して働くことができる雇用環境の整備を支援します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 社会実験や製品・サービスの研究開発による、新ビジネスモデルの創出を図ります。
- ◆ ベンチャー企業や新たな事業展開を支援するとともに、個人や企業の投資を活発化させ、創業がしやすい環境を整備します。
- ◆ 地域企業との相乗効果が見込まれる外資系企業を誘致します。
- ◆ 国内外に通用する浜松ブランドを確立し、観光関連産業を主要な産業のひとつにします。
- ◆ 国・県・市の重複支援を解消し、就労支援のための総合センター機能を創設します。
- ◆ 年齢、性別、障害、国籍など、それぞれのケースに応じた相談、伴走型支援、無料職業紹介等、きめ細かなワンストップサービスを提供します。

\*ワンストップサービス：1か所で異なった複数のサービスを受けられること。

\*JETRO：Japan External Trade Organization（日本貿易振興機構）。貿易・投資促進と開発途上国研究を通じ、日本の経済・社会の更なる発展への貢献をめざし、日本企業の海外展開支援、外国企業の日本への誘致などを行う独立行政法人。

\*着地型旅行商品：これまでの都市部の旅行会社で企画される「発地型」に対し、旅行目的地の地域主導で企画される産業観光やグリーンツーリズムなどのその地域に密着した体験型旅行のこと。

(基本政策)

## 作業から経営に！変革を遂げる農林水産業

- ◆ 農地の流動化を促す仕組みを構築し、農地の集約化を進めます。
- ◆ 農林水産業の6次産業化\*を進め、国内はもとより輸出販売に向けた戦略的経営を支援します。
- ◆ 野生鳥獣の生息環境を保全し、農作物の食害の減少を図ります。
- ◆ 林業の集約化と規模の拡大を促進し、木材の生産と流通が効率的に行われる環境を整えます。
- ◆ 間伐と再造林による森林資源の循環を推進し、持続可能な森林経営・管理を支援します。
- ◆ 他産地の木材と差別化した市場競争力のある木材の供給を促進します。
- ◆ 住宅用の木材のほか、家具や玩具、木質バイオマスなど多面的な木材の利用を促進します。
- ◆ 水産基地・基盤の再整備による生産から流通の効率化を促進し、漁業経営が安定する環境を整えます。
- ◆ 漁や養殖など、多様な水産業がバランス良く行われるよう支援し、水産資源の適正な管理を図ります。
- ◆ 市民が安全な食品を安心して手に入れることができるよう、卸売市場の機能を保全します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ICTの活用やマーケティング手法の導入などにより、効率的で生産性が高い農林水産業経営の実現を支援します。
- ◆ 生産から販売までが一体となった流通システムの構築やトレーサビリティ\*などの取り組みを支援し、安全で安心な浜松産の農林水産物の更なる価値の向上を図ります。
- ◆ 地産地消を進めることで、市内の学校給食、社員食堂、レストラン等で地元食材の利用を促進します。
- ◆ 農林水産業と地域の観光産業の融合により、自然、文化、人々との交流を楽しむグリーン・ツーリズムを推進します。

\* 6次産業化：農林漁業者による事業の多角化及び高度化のこと。農林漁業者による加工、販売への進出を示す。

\* トレーサビリティ：物品の流通経路を生産段階から最終消費段階あるいは、廃棄段階まで追跡が可能な状態。



## ②子育て・教育

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：06、07、08、10、12】

- ◆ 地域の宝として愛情を注がれた子どもたちは、浜松に誇りを持ち、世界を舞台に活躍している。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 子どもたちの成長を第一に考えた地域社会のサポートにより、仕事と子育てが両立できる環境が整っている。
- ◆ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

### 10年後に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

子育て世代が子どもを安心して生み育てられるように、充実した相談体制や費用の助成により子育てに対する不安感や経済的負担を軽減します。また、幼児教育・保育施設の整備などを行うとともに、子育て中の就労・子育て後の社会復帰を支援するなど、子育てがしやすい生活環境を整えます。

学校教育では、すべての子どもたちが生きる力を身につけられるよう、教職員の指導力の向上や教育環境の整備・充実に取り組みます。また、不登校、外国人、障がいのある子どもへの支援体制を整えるとともに、互いの個性を認め合い、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、許さない子どもを育てます。さらに、音楽を中心とした芸術や地域の伝統文化などに触れる機会を設け、創造性豊かな子どもたちを育成します。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

事業所内保育<sup>\*</sup>や市民主体の子育てサポートの促進など、仕事と子育てが両立できる環境づくりを支援することで、家庭と企業、地域が一体となって子どもたちに愛情を注ぎ、その成長を見守る環境を整えます。

また、ICTの活用などにより、能力や興味に応じた学びの機会と場を整えることで、子どもたちが自分の未来を描き、夢と希望に向かって主体的に行動できるよう、意欲と才能を最大限に引き出し伸ばす教育を推進します。

<sup>\*</sup>事業所内保育：主として企業の従業員の子どものほか、地域において保育を必要とする子どもに保育を提供すること。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり

- ◆ 子どもと家庭に対して、関係機関と連携し総合的な支援体制の強化・充実を図ります。
- ◆ 医療費をはじめとし、子育て、幼児教育・保育に要する費用負担の軽減に取り組めます。
- ◆ 幼稚園・保育所の認定こども園への移行を促進するとともに、幼児教育・保育の需要に応じて幼稚園教諭、保育士、保育教諭を育成することにより、多様な子育てに対応できる環境を整えます。
- ◆ 多様な主体が放課後児童会\*を運営することで、地域における子どもたちの放課後の居場所を増やします。
- ◆ 児童虐待の発生予防と早期発見・早期対応に取り組めます。
- ◆ 社会的養護体制\*の充実を図るなかで、里親制度\*の普及啓発と強化に取り組めます。
- ◆ 複雑な悩みを抱える若者を支援する専門的な人材の育成を促進し、相談体制の充実や支援機関の連携強化を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 学生や地域の子育て中の親子、高齢者などが世代を越えて集うことができる、魅力的な場所を整備します。(新しい子育て支援ひろば\*を展開します。)
- ◆ 地域の大人が地域の子どもや子育て中の親と交流する機会を増やし、困った時に助け合う相互扶助の気運を醸成します。
- ◆ ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、企業などの理解を深め、事業所内保育などの実践を促進することで、仕事と子育てが両立できる職場環境づくりを支援します。

(基本政策)

### 市民協働による未来創造へのひとづくり

- ◆ 社会全体で、規範意識やマナー、自他を大切に作る心、望ましい生活習慣、健康的な体などをはぐくみ、成長を見守ります。
- ◆ 知識を活用し新たなものを創り出す力、環境や価値観の異なる人たちと協働する力、自立的に行動し自分が進むべき方向性を見出す力をつけることのできる環境を整えます。
- ◆ 情報教育や環境教育を推進し、情報を効果的に利活用する力や環境保全に対する意識の向上に取り組めます。
- ◆ 英語教育や国際理解教育を充実することにより、グローバル社会に対応する力を伸ばします。
- ◆ 学校、家庭、地域が防災・防犯に関する連携を強め、子どもが、いつでもどこでも自分の安全を確保できるようにします。
- ◆ 子どもと大人の心の通い合う温かい人間関係を構築し、いじめをしない、許さない社会を醸成します。
- ◆ 教育活動や授業改善、教職員研修に取り組み、確かな指導技術を身につけた、家庭や地域に信頼される教師を育成します。

\* 放課後児童会：保護者が居間家庭にいない児童に放課後の小学校の余裕教室などを活用して適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全育成を図る事業の名称。

\* 社会的養護体制：里親、小規模住居における養育事業、施設、児童家庭支援センターなどの社会的養護を担う機関または事業。

\* 里親制度：保護者の病気、家出、離婚などの様々な事情により、家庭に恵まれない子どもたちに、家庭に代わる養育環境を提供し、温かな愛情と理解を持った家庭的な環境の中で養育する制度。

\* 子育て支援ひろば：子育て家庭のための相談、情報提供、講習などを行う常設の広場。



- ◆ 基幹教員\*やコーディネーターの適正配置をはじめとし、子どもの成長と学びに応じたサポート体制を整えます。
- ◆ 学校、家庭、地域が目指す子どもの姿を共有し、特色ある「はままつの人づくり」に取り組みます。
- ◆ 家庭や地域の学校運営への参加を促進するために、学校経営方針\*、学校評価\*などの情報を積極的に発信します。
- ◆ 施設・設備の適切な補修や改築を行うことにより、子どもたちの安全で安心な学校生活を確保します。
- ◆ 奨学金や就学バスなどの充実により、学校規模の大小や家庭環境の違いによる教育格差を解消します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ICT 環境の整備や、ICT を活用した分かりやすい授業づくりなどを推進します。
- ◆ すべての子どもが能力や興味に応じた学びを選択し、深めることができる環境を整えることで、一人ひとりの意欲と才能をさらに伸ばします。
- ◆ 家庭や地域、企業、各種団体などが一体となって子どもの教育に取り組み、学びの機会と場が拡大する体制を整えます。

---

\* 基幹教員：英語、体育、保育など各分野において中心的な役割を担う教員のこと。

\* 学校経営方針：校長が教育活動の具体的な目標と方策を設定し、教職員全員がそれに向かい協働体制を確立するために策定するもの。

\* 学校評価：子どもたちがより良い教育を享受できるよう、教育活動などの成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取り組み。

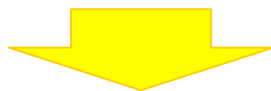


## ③安全・安心・快適

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：04、05、07、11、12】

- ◆ どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ◆ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

### 10年後に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

防災対策に関しては、防潮堤の早期実現、防災施設の整備、消防・救急体制の充実を図り、道路・橋・上下水道などの強靱化、建築物の耐震化などを進めるとともに、地域と行政が連携した防災訓練を通して、地域防災力の強化を図り、災害に強いまちづくりを進めます。

また、交通安全教育の充実や安全な通学路の整備などを総合的に進め、交通事故のない社会を実現します。

さらには、地域防犯の取り組みにより、犯罪を起こさせない、犯罪に巻き込まれない社会を目指すとともに、消費者教育を推進し、豊かな消費者市民社会\*の形成に努めます。

自助・共助・公助の取り組みを通じ、「自分の命と財産は自分で守る」意識を高め、安全・安心なまちづくりを進めます。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

集約した居住エリアを含む拠点を配置し、拠点間を公共交通ネットワークで結ぶ「拠点ネットワーク型都市構造」への転換を目指します。また、豊かな自然環境と共存しながら、都市の緑化推進に努めるとともに、空き家・空き地の有効活用や土地利用の適正化などにより、都市活力の向上を図りつつ、快適なまちづくりを進めます。

### 基本政策の実現に向けた取り組み

（基本政策）

**みんなの力で自然災害から生き残る**

\*消費者市民社会：消費者が、購入する商品の選択など自らの行動をとおして、現在及び将来の社会経済や地球環境にまで影響を及ぼし得ることを自覚し、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に関わっていく社会をいう。

- ◆ 公共インフラなどのハード整備を進め、自然災害がもたらす被害の低減を図ります。
- ◆ 市の危機管理体制を強化するとともに、復旧・復興が早期にできる体制を整備します。
- ◆ 自治会や自主防災隊などと協力し、幼少期からの防災教育を充実することで、地域住民が積極的に防災訓練に参加する体制を強化します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 防災に関する知識と意識を持ち行動ができる市民を育てる環境を整備します。
- ◆ 複数の伝達手段を整備し、災害情報を迅速に発信します。

(基本政策)

### 安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり

- ◆ 防犯講座や防犯意見交換会の開催により、高齢者の関わりを強化しながら、地区ごとの連携を図ります。
- ◆ 消費生活相談窓口・地域の見守りネットワーク体制の強化、情報の活用基盤の整備を図り、消費生活の安全・安心を推進します。
- ◆ 学校・地域・家庭・職場における消費者教育を推進します。
- ◆ 火葬需要の増加と施設の老朽化に対応し、斎場の再編整備を進め、火葬業務に支障がない体制整備を図ります。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 消費者行政推進のため、消費者教育の拠点を整備します。
- ◆ 市民に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について周知します。
- ◆ すべての地区への地区安全会議<sup>\*</sup>設立を促進し、情報提供や支援を行います。

(基本政策)

### 市民が集う活力ある都市づくり

- ◆ 鉄道駅周辺や公共交通がある基幹道路周辺に、居住や医療・福祉施設、子育て支援施設などの都市機能を集積する誘導エリアを設定し、都心を含めたエリアへの居住を推進することで集約型の都市づくりを目指します。
- ◆ 主要駅における駅前広場の整備など乗換利便性を向上させることにより、交通結節点の機能を強化します。
- ◆ 環境・歴史・文化・経済等の地域特性に配慮した、安全で快適な生活環境の確保と市域全体の魅力ある環境づくりを行い、開発と保全のバランスある土地利用を推進します。
- ◆ 建築物、屋外広告物等が、心地よい景観の構成要素として市民や企業に広く認識され、周辺のまちなみ景観や自然景観と調和したデザインとなるように誘導し、地域の魅力を高めます。
- ◆ すべての建築物の耐震化を促進し、安全性を確保します。
- ◆ 道路沿いの危険な転倒物等の改善を促進するとともに、狭い道路の拡幅整備を推進します。
- ◆ 市営住宅については、定期的な改修や、民間活力を導入した集約建替を行います。
- ◆ 協働により、緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくりを促進します。
- ◆ 防災機能が充実した総合運動公園や浜松城公園の整備を進め、だれもが安全に安心して利用できる憩いの場を提供します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

<sup>\*</sup>地区安全会議：住民による自主的防犯活動や地域ぐるみの安全活動を支える組織として、中学校区程度の地域内の自治会組織を中心に、健全育成会、地域安全推進員、防犯ボランティア、事業所等の様々な団体や個人が連携し、防犯活動を検討・実施している団体。平成25年度末現在、対象となる市内59地区のうち、46地区に地区安全会議が設立されている。

- ◆ 大規模な公園の管理運営において、民間活力の導入を目指します。
- ◆ 動物園の再生を目指し、施設のあり方を含めた改修計画を推進します。
- ◆ 建物のリノベーションや低・未利用地を活用することで、新たな産業の起業・集積を促進し、都心部での雇用を創出するとともに、文化創造の拠点を形成します。

(基本政策)

## 安全な生活基盤づくり

- ◆ 道路・河川施設等の適切な維持管理を行い、長寿命化を進めます。
- ◆ 「多自然川づくり<sup>\*</sup>」や河川愛護活動を通して、良好な水辺環境を創出するとともに、河川、排水路等の整備により浸水被害を軽減します。
- ◆ 河川の氾濫が予想される区域の最新情報を市民に周知します。
- ◆ 土砂災害警戒区域等における防止対策や警戒避難体制の整備により、市民の安全を図ります。
- ◆ 歩道や道路照明などの老朽化対策とともに、ユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>化や「自転車走行空間<sup>\*</sup>」の整備を進め、道路環境の安全性の向上を図ります。
- ◆ スマートインターチェンジの設置及び幹線道路の整備により、市街地と高速道路とのアクセス性の向上や利便性を高め、道路網の充実と地域の活性化を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 効率的・持続的な道路管理を行うため、予防保全への転換を図るとともに、緊急輸送路など重要道路の橋りょうの耐震化対策を完了します。
- ◆ 道路・河川台帳などのインフラ管理の ICT 化を進めます。

(基本政策)

## いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくり

- ◆ 署所や消防団庁舎を適正に配置に向けて、計画的に整備を行います。
- ◆ 職員の教育訓練や研修制度を整備し、能力・資質の向上を図ります。
- ◆ 自治会や事業者等との連携を強化し、消防団員の確保を図ります。
- ◆ 火災予防広報の充実により、市民の防災意識を高めます。
- ◆ 救急車の適切な配置及び迅速搬送により、病院収容までの時間を短縮します。
- ◆ 救急救命士による特定行為<sup>\*</sup>の処置範囲の拡大により、病院到着前の救護体制を強化し、救命率の向上及び傷病者の後遺症の軽減を図ります。
- ◆ 大規模災害時における、消防・防災ヘリ応援機の受入れ体制及び運用体制を整備します。
- ◆ 消防車両及び消防用資機材を適切に配置し、消火、救助能力を向上するとともに、安全で確実な車両の管理を行います。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 住宅用火災警報器の全世帯への設置を促進します。
- ◆ ICT を活用し、迅速に 119 番通報ができるシステムを構築します。

<sup>\*</sup>多自然川づくり：単なる自然保護だけでなく、自然を積極的に再生しながら水辺の環境づくりを進める考え方を基調として、自然素材（石材、木材、植物）を使った川づくり。

<sup>\*</sup>ユニバーサルデザイン：年齢、性別、能力、国籍などの人々が持つ多様な特性や違いを超え、すべての人に配慮して心豊かな暮らしづくりを行っていくとする考え方。

<sup>\*</sup>自転車走行空間：自転車が安全に安心して走行できる道路、又は道路の部分

<sup>\*</sup>特定行為：救急救命士が医師の具体的指示により実施可能な救急救命処置（心臓や呼吸が停止している傷病者に対する点滴処置、器具を使用した気道確保処置及び薬剤の投与、心臓や呼吸が停止していない傷病者であっても、意識状態が悪い等条件に合った対象者に対する点滴処置、血糖測定並びに低血糖症例への薬剤の投与）

- ◆ 危険度を問わず、すべての違反對象物\*において是正を図ります。

(基本政策)

## 安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道

- ◆ 最新の科学的知見に基づいた浄水処理を行い、万全な管理体制により水道水の品質を維持します。
- ◆ 工場排水、農薬、油脂、微生物など水道水の取流域の汚染リスクに関する情報を的確に把握し、厳重な監視の下で適切な対応を図ります。
- ◆ 管路や施設の「耐震化・長寿命化計画」について、アセットマネジメント\*に基づき時点修正を加えながら確実に進めます。
- ◆ 大規模災害時などにおいて、復旧用資材を広域的に調達できる体制を構築します。
- ◆ 下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水事業等の各事業の連携により、適正な生活排水処理を推進し、汚水による環境負荷を低減して都市の環境を堅実に支えます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 官民連携手法により事業の一部を民間へ委ねるなど、上下水道事業の経営を合理化するとともに技術力の継承、共有化を進めます。
- ◆ より高度な ICT を取り入れ、検針業務や料金等徴収業務を省力的かつ一体的に管理します。

\* 違反對象物：設置義務のある設備が設置又は維持管理されていない、防火管理が適切に行われていないなど、消防法令等に違反する建物、工作物等の防火対象物

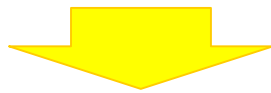
\* アセットマネジメント：上下水道事業においては、保有する管路・施設等の資産の状態を良好に維持、管理及び更新する「費用」と、給排水に係るサービスのレベルを適切に保つ「効果」のバランスについて、リスク回避という視点を踏まえつつ最適化していく企業活動をいう。この活動を確実に実践することにより、健全かつ持続可能な上下水道事業経営を実現する。

## ④環境・エネルギー

### 浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

#### 【実現を目指す1ダースの未来：03、04、12】

- ◆ 豊かな自然に恵まれ、環境への負荷を抑えたエネルギーに対する不安のない暮らしや企業活動が送られている。



### 10年後の目標（政策の柱）

- ◆ ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ◆ 再生可能エネルギー等が広く導入されるとともに、建物などのエネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

## 10年後に向けて

### --- これまでの取り組みを強化 ---

天竜川、浜名湖、遠州灘、南アルプスなどの豊かな自然は、多様な動植物をはぐくんでいます。この豊かな自然の恵みを次の世代へ引き継ぐために、自然環境と共生するまちづくりを推進するとともに、市民生活に環境への負荷を抑える活動を取り入れ、温暖化防止を促進します。環境に配慮したライフスタイルが定着し、安心して暮らせる住み心地よさが多くの方に認識されるよう、環境のブランド力向上を目指します。

全国トップクラスの日照時間を活かした太陽光発電や木材資源等を有効に活用するバイオマス発電\*などの再生可能エネルギー\*の導入を一層拡大するとともに、住宅・工場・事業所などのエネルギーの最適利用を推進し、エネルギー自給率を高めます。

### --- 未来に挑戦する取り組み ---

ごみ減量や資源化、ごみの適正処理、廃電子機器からのレアメタルの回収など、行政・市民・事業者がそれぞれの役割と責任を果たし、3R（リデュース・リユース・リサイクル）\*を推進する政策に取り組み、ごみ処理や埋立施設の長期的な使用、効果的な活用を実現します。

スマートコミュニティ\*の構築に向け、ICTを活用し、住宅団地や工業団地などの地域単位で、エネルギーの最適利用が進むよう取り組みます。また、エネルギーの地産地消

\*バイオマス発電：バイオマスを燃料とした発電。バイオマスとは、生物資源（bio）と量（mass）を組み合わせた言葉であり、間伐材、生ごみ、下水道汚泥などのバイオマス（動植物に由来する有機物である資源（化石燃料を除く））を活用し、発電すること。

\*再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力、バイオマスなど、一度利用しても再生可能で資源が枯渇しないエネルギー。

\*3R（リデュース・リユース・リサイクル）：発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）リサイクル（Recycle）という循環型社会形成のための3つの言葉を英単語にし、その頭文字のRをとったものをいい、「スリーアール」と読む。

\*スマートコミュニティ：住宅団地や工業団地など、一定のエリアで、エネルギーを無駄なく賢く活用する次世代の社会システム。

を推進するため、再生可能エネルギーを活用した安定・安価な電力供給体制を構築します。さらに、地域産業の活性化に向け、発電・省エネルギー・電力供給など、成長産業として期待されるエネルギービジネスの創出を推進します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 環境と共生した持続可能な社会の実現

- ◆ 本市の環境特性を踏まえた環境配慮の仕組みづくりと体制の充実を図ります。
- ◆ 環境教育推進ネットワークを活用し、持続可能な社会の実現に向けて自ら行動する人材の育成を推進します。
- ◆ 緑地・水域を保全し、緑や水の持つ機能を複合的・効果的に利活用する空間づくりを推進します。
- ◆ 市民や事業者へ生物多様性\*に対する啓発や活動支援を行い、自然環境の保全を推進します。
- ◆ 大気、騒音及び水質の環境基準を満たす取り組みを進め、市民一人ひとりが騒音や悪臭の防止を常に心がけるよう啓発します。
- ◆ 市民にとって分かりやすく効率的なごみ出しのルールづくりを行います。
- ◆ 施設の長寿命化や災害時のバックアップ機能の確保を図り、安定的なし尿処理\*体制を確立します。
- ◆ 取り締まりを強化し、地域への啓発活動を実施することで、不法投棄のない美しいまちづくりを目指します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 3R に対する市民や事業者の関心を高め、ごみ減量及び資源化を推進し、西部清掃工場と新清掃工場の 2 工場体制で安定したごみ処理を実施するとともに最終処分場\*の延命化を進めます。

(基本政策)

### 再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上

- ◆ 太陽光発電やバイオマス発電等の再生可能エネルギーやガスコージェネレーション\*等の自家発電設備の導入を推進します。
- ◆ 住宅・工場・事業所等の建物において、徹底した省エネルギー化とエネルギーの最適利用を推進します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ スマートコミュニティの構築に向け、エネルギーの最適利用を個々の建物から住宅団地や工業団地などへ広がります。

\*生物多様性：生きものの豊かな個性とつながりのこと。様々な自然環境の中で多種多様な生物が存在し、それらが全て直接的・間接的に支えあって微妙なバランスを保ちながら生きていること。

\*し尿処理：家庭や事業所等から収集したくみ取りし尿や浄化槽汚泥を、衛生的に施設で処理すること。

\*最終処分場：廃棄物は、資源化又は再利用される場合を除き、最終的には主に埋立処分される。埋立処分を行う施設が最終処分であり、家庭ごみなどを埋立てる「一般廃棄物最終処分場」では、ガラスくず等の燃えないごみや焼却施設から排出される焼却灰等が埋立てられる。

\*ガスコージェネレーション：都市ガスや LP ガスを燃料に、電気と熱をつくることのできる自家発電設備。



- ◆ エネルギーの地産地消\*に向け、再生可能エネルギーを活用した安定かつ安価な電力供給体制を構築します。
- ◆ 地域産業の活性化に向け、発電、省エネルギー、電力供給など、エネルギーに関わる新たな技術やビジネスの創出を推進します。

---

\*エネルギーの地産地消：太陽光やバイオマスなど、地域でつくった電力をその地域内で消費すること。

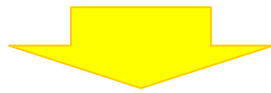


## ⑤健康・福祉

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：07、09】

- ◆ 支え合いによって、だれもが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができる。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 地域での支え合いの仕組みづくりが進んでいる。
- ◆ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

### 10年後に向けて

--- これまでの取り組みを強化 ---

インクルージョン\*の考え方の普及に取り組み、住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人など**すべての人**の活躍の場を広げます。

活躍の場を求めている高齢の人に対しては、就労支援を進めるとともに、ボランティアなどの社会貢献活動に参加しやすい仕組みを構築します。これによって、高齢になっても住み慣れた地域で、いつまでも生きがいを感じながら安心して暮らすことができる地域社会を目指します。

心身に障がいのある人には、働くことで、生きがいを感じることができる就労環境を提供します。また、**障がい福祉サービス事業所**などで働く職員の質の向上やグループホームなどの計画的な整備によってサービスを充実しつつ、関連団体と連携し、障がいのある人に対する市民の理解を深め、地域での支え合いの基礎を固めます。

また、病気や介護の予防に重点を置き、心と体の健康を維持しながら、いきいきと暮らし、快適で質の高い生活を送ることができるよう支援します。介護などが必要な人に対しては、医療・介護機関の連携を一層強化し、在宅などの必要なサービスが円滑に提供できる体制を整備します。

医療水準の向上のため、市内の病院と診療所が相互に連携し、救急時なども安心できる医療体制を維持するとともに、地域に貢献できる有能な医療スタッフの育成を支援します。

\*インクルージョン：包み込むという意味で、障害の有無などにかかわらず、すべての人が社会の中で生活し、そのニーズに応じた地域生活支援を受けられるようにしていくこと。

### --- 未来に挑戦する取り組み ---

地域での支え合いの仕組みづくりを促進するため、すべての地区に地区社会福祉協議会が設立されるよう支援します。また、地域のNPO、福祉団体等が相互に協力し、地域課題の解決に連携して取り組みます。

移動や生活に支援が必要な人の情報が災害時にも速やかに活用できる仕組みを構築し、平常時の見守りと災害時の支援を一貫して実施します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 人と人とのつながりをつくる社会の実現

- ◆ インクルージョンの考え方の普及に取り組み、高齢の人や障がいのある人も社会を支える一員として雇用される環境を整備します。
- ◆ 心身の機能低下により支援が必要な高齢の人には、適切な福祉サービスを充実します。
- ◆ 元気な高齢の人の社会参加を後押しします。
- ◆ 高齢の人、障がいのある人など、あらゆる人が地域の中で孤立することなく、多くの人に見守られながら住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことのできるよう、在宅サービスの充実など、環境を整備します。
- ◆ 地域にボランティアの交流活動拠点が整備され、地域住民のボランティア活動への参加を支援します。
- ◆ 障がいのある人に対する理解の普及・啓発を推進します。
- ◆ 障がいのある人の差別を解消し、虐待を防止します。
- ◆ 障がいのある人を支援する団体等との連携を強化し、研修や講座、相談支援の協力・参画の推進をします。
- ◆ 地域生活を支えるためのグループホーム等の計画的な整備によって、福祉サービスの充実を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ すべての地区に地区社会福祉協議会が設立されるよう支援します。
- ◆ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）\*の配置を拡充し、地区社会福祉協議会や地域のNPO、福祉団体等が相互に連携し、地域課題の解決に取り組みます。
- ◆ はままつあんしんネットワーク\*と災害時避難行動要支援者\*の支援対象者の統一を図り、平常時の見守りと災害時の支援を一貫して実施する体制を確立します。

(基本政策)

### 人々の心身の健康と生活を守る医療の充実

- ◆ 「自分の健康は自ら守りつくる」ことを基本として、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境を整備します。
- ◆ 生活習慣病の発症予防と重症化予防に取り組みます。

\*コミュニティソーシャルワーカー（CSW）：地域住民などからの相談に応じ、福祉課題の解決に向けた取り組みや行政への提言などを行う、地域福祉活動などを支援するための専門的な福祉コーディネーターのこと。

\*はままつあんしんネットワーク：ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯など、日常生活に不安を抱える高齢者等が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、市民の支え合いの心で見守り、支援する仕組み。

\*災害時避難行動要支援者：災害時において、家族以外の第三者の支援がなければ避難所等への避難行動が難しい障がいのある人や、要介護者、ひとり暮らし高齢者などのこと。

- ◆ 生涯にわたり歯と口の健康増進を支援します。
- ◆ 公立病院は、医療制度改革や医療の多様化・高度化等に対応した病院経営を進め、救急医療、回復期医療、へき地医療など、地域で求められる役割を果たします。
- ◆ 病院と診療所が相互に連携し、救急時でも安心できる医療体制を維持します。
- ◆ 地域に貢献できる有能な医療スタッフの育成を支援します。
- ◆ 中山間地域にも対応した在宅医療などが実施されるよう、地域包括ケアシステム\*の整備を促進します。
- ◆ 精神障がいや疾患のある人が、住み慣れた地域において安心して暮らすことができるよう、行政及び民間の相談員によるアウトリーチ\*の促進や地域の理解の向上を図ります。
- ◆ だれもが周囲の人のこころの不調に気づき、専門の相談機関での適切な相談を受けることができる環境を整え、自殺者の減少を図ります。
- ◆ インフルエンザなどの感染症対策として、うがいや手洗いなどの衛生行動の習慣化を推進します。
- ◆ 食品製造施設の衛生管理の徹底など、食の安全対策・検査体制を充実します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ だれもが専門性の高いメンタルヘルス相談ができるよう、医療、民間、行政の相談機関のネットワークを構築します。

---

\*地域包括ケアシステム：在宅の介護や生活支援を必要とする方に対して、「医療」、「介護」、「予防」、「住まい」、「生活支援サービス」を切れ目なく、有機的かつ一体的に提供することを目指した仕組み。

\*アウトリーチ：生活に困難さを抱えた方の自宅などへ出向いて相談及び生活支援を行い、入院や入所だけに頼らない地域生活の実現を目指す取り組み。

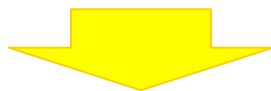


## ⑥文化・生涯学習

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：01、05、09、11、12】

- ◆ 創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。
- ◆ 多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。

### 10年後に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

国際的な演奏会の開催や市民の国際的な音楽交流などを通じて、音楽の都として世界に認められる文化を創造します。また、知性や感性を刺激するような魅力のある展覧会などを開催するとともに、地域の芸術家や文化団体の創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組みます。

さらに、学びを周りの人に広げる「学びの連鎖」を進展させ、市民主体の学習活動を拡大します。そして、地域の個性をはぐくんできた伝統芸能などの文化遺産の保全・活用を進め、地域の歴史・文化の積み重ねが新たな文化創造の礎となるよう、次世代に継承します。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

音楽文化などを通じて、世界の都市との新たな連携を進め、国内外に感動を与える創造都市を築きます。地域の芸術家や文化団体に対しては、芸術・文化に精通した専門家による活動支援を推進するなど、新たな創造の担い手を育成・支援する基盤を整え、世界で活躍するミュージシャンやクリエイター\*を育成します。また、文化施設や生涯学習施設、スポーツ施設などでは、機能を充実するとともに、民間も含めた施設の複合化を進めるなど、利用者の利便性の向上に取り組みます。

### 基本政策の実現に向けた取り組み

（基本政策）

**感動のある生活、歴史・文化・スポーツによる豊かさの創造**

\*クリエイター：映像・アプリケーションといったコンテンツを創り出すなど、個人の創造性や技術、才能を産業活動の中で発揮し、付加価値の高い商品・サービスを創出する人のこと。

- ◆ 音楽の都として、浜松国際ピアノコンクールなど、国際的な音楽イベントを通じて、市民の多くが多様な音楽に触れる機会を創出します。
- ◆ 健康・体力づくりから競技に至るまで、ライフスタイルに応じたスポーツの取り組みを支援します。
- ◆ スポーツ団体などの競技力・指導力を高めるため、スキルを有した指導者を派遣します。
- ◆ ニーズに沿った市民主体の企画による講座などを増やして、生涯学習の機会を創出することで、市民の知識欲をかき立てます。
- ◆ 歴史的価値の高い文化遺産や地域文化を次世代へ継承する人材を育成し、市民協働による文化の継承・活用を進めます。
- ◆ 三遠南信地域などの広域的な交流・連携を通じて、文化遺産の保全・活用に取り組みます。
- ◆ 市民の知性や感性を刺激する魅力的な展覧会などを開催するとともに、質の高いアートなどの創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組みます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 音楽文化などを通じ、ユネスコ創造都市ネットワーク\*加盟都市などとの新たな連携を進めて、市民の国際交流を活発化します。
- ◆ ミュージシャンやアーティスト、クリエイターが、創作活動を活発化し、新たな価値を生み出すための環境を整備します。
- ◆ ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る事前合宿及び国際スポーツイベントの誘致を進めるとともに、本市の豊かな自然環境を活かしたスポーツツーリズム\*を推進します。
- ◆ スポーツ施設や生涯学習施設では、民間活力を活かした施設の複合化などにより、利用者の利便性を高めます。

---

\* ユネスコ創造都市ネットワーク：地域固有の文化の消失を防ぎ、文化的多様性を保持することを背景に、創造的・文化的産業の振興と持続可能な都市の開発に向けた国際的な都市間連携・交流を促進するプログラム。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が加盟の審査・選考を行う。浜松市が加盟を予定している音楽分野の都市には、ボローニャ（イタリア）、アントワープ（ベルギー）などがある。

\* スポーツツーリズム：スポーツを「観る（観戦）」「する（楽しむ）」ための移動だけではなく、周辺の観光要素や、スポーツを「支える」人との交流や地域連携も付加した旅行スタイル。



## ⑦地方自治・都市経営

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：01～12のすべて】

- ◆ 協働による持続可能な都市経営を推進し、全国をリードする自立した基礎自治体になっている。



10年後の目標（政策の柱）

- ◆ 協働に関わる多様な主体が連携し、協働による質の高い市民サービスが提供されている。
- ◆ 公共インフラの整備・維持・管理に民間活力の導入が進んでいる。

### 10年後に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

市民、市民活動団体、企業など、多様な主体との協力・連携体制を築くため、行動力のあるひとづくりや各主体を結ぶ中間支援組織の育成など、活動しやすい環境づくりを進めます。

人財や財源など限られた経営資源を選択と集中により、効果的・効率的に配分して、事業の見直しを進めるとともに、公共施設などのファシリティマネジメント<sup>\*</sup>や財源の確保、規律ある財政運営など、自立性・自律性を高めて、不断の行財政改革を進めます。

また、持続可能な都市経営に向けて、適応性・専門性の高い職員の育成を行い、社会環境の変化に柔軟に適応できる組織づくりを行います。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

協働する市民などが持てる力を最大限に発揮できるよう、連携を強化し、政策形成過程、財政状況などを分かりやすく情報提供するとともに、行政情報のオープンデータ<sup>\*</sup>化を進めます。

また、行政と民間事業者が連携するPPP<sup>\*</sup>などにより、民間事業者の持つ、資金や資産、ノウハウなどを施設整備や市民サービスに活かします。

さらに、UCLG ASPAC<sup>\*</sup>などの国際機関との連携を通じ、世界の諸都市とつなぐことで、

<sup>\*</sup>ファシリティマネジメント：企業・団体などが保有・使用する全施設資産や利用環境を経営戦略的視点から、総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動のこと。アメリカで生まれた新しい経営管理方式。

<sup>\*</sup>オープンデータ：行政の保有する公共データのうち、機械判読に適したデータ形式で二次利用が可能な利用ルールによって公開されたデータのこと。

<sup>\*</sup>PPP：Public-Private Partnership（公民連携）。公民が連携したパートナーとして行う事業形態のこと。PFI：Private Finance Initiative や指定管理制度、公設民営など、様々な手法がある。

<sup>\*</sup>United Cities and Local Governments Asia Pacific Regional Section（都市・自治体連合アジア太平洋支部）。世界最大の自治体の連合組織の支部。

ビジネスや文化の交流などの種をまき、世界から注目される創造都市を目指します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 市民と共に未来をつかむ都市経営

- ◆ 「浜松市未来ビジョン」の実現に向けて、数値などの目標を掲げ、適切な進捗管理を行います。
- ◆ 国・県から積極的に事務・権限や財源の移譲を受けるとともに、自立した基礎自治体である特別自治市の実現を目指します。
- ◆ 遠州地域、三遠南信地域の広域連携を進めて、圏域の一体的な発展を目指します。
- ◆ 様々なジャンルで活動する人などが集まり、創造性を刺激し合うことができる、寛容性のある交流空間づくりを進めます。
- ◆ 首都圏では、情報の収集・発信を通じた連携業務と企業誘致を進めます。
- ◆ 全職員が常に業務改善を考え、業務の効率化を図り、市民サービスを向上します。
- ◆ 多くの外国人市民が地域づくりやまちづくりに参画し、活躍できる環境を整えます。
- ◆ マイナンバー<sup>\*</sup>の普及により、国の行政機関や地方公共団体などと連携して、行政サービスを向上します。
- ◆ ICTを活用した電子申請などで可能な手続きを増やします。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ソーシャルメディア<sup>\*</sup>を利用した市民同士が議論する場から、集約された意見を市政に反映します。
- ◆ アーティストやクリエイターが市内で活発に活動し、まちづくり、市民活動、創造産業に深く関わることができる環境づくりを進めます。
- ◆ 必要とする市政情報を市民が情報端末で受信できる環境を整備します。
- ◆ 諸外国の都市や国際機関などと連携するとともに、都市ブランドの確立と発信や交流拡大を促進します。
- ◆ 「出世の街 浜松」のブランドイメージを国内外に定着させます。

(基本政策)

### だれもがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現

- ◆ 協働により、市民の公共への関心、自治意識を高め、市民主体で社会的課題が解決できる環境づくりを進めます。
- ◆ 協働の推進に向け、NPOの支援、人材の育成などを担う中間支援組織を育てます。
- ◆ 協働センターを核として、市民主体のまちづくりを進めます。
- ◆ 都市部と中山間地域の交流を促進することで、移住者の増加につなげます。
- ◆ 市民の様々な特性や生活習慣の違いなど、多様性の理解を進めることで心のユニバーサルデザインが実践される社会を築きます。
- ◆ 交通や道路、施設、情報などのユニバーサルデザイン化を促進し、多様な人々が社会参加しやすくなるように環境づくりを進めます。
- ◆ 男性も子育て・介護などに主体的に関わることで、育児休業・介護休業の取得率を上昇させ

<sup>\*</sup>マイナンバー：平成25年5月に成立した「番号法」など関連4法に基づく制度で、外国人を含むすべての市民に付番する唯一無二の番号。

<sup>\*</sup>ソーシャルメディア：インターネット上で利用者が情報を交換または共有することができるメディア。双方向性を重視しており、コミュニケーションを図るための機能を有しているという特徴がある。

- ◆ 自治会、自主防災活動などに女性が幹部として参画するよう働きかけることで、地域での女性の活躍を推進します。
- ◆ 企業がワーク・ライフ・バランスの重要性を認識し、個々の企業の実情に合った自主的な取り組みを行うための環境づくりを支援します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ NPO が信頼性と専門性を高める活動を支援し、NPO への寄附が増えるような環境を整えます。
- ◆ 地域の需要に応じて、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなどが育つ環境づくりを進めます。

(基本政策)

## 人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり

- ◆ 適正な組織体制と定員管理のもと、効率的で効果的な都市経営を行います。
- ◆ 社会環境の変化に柔軟に対応できる職員を育成します。
- ◆ 多様化・高度化する行政課題や法的トラブルに適法かつ適正に対応するため、法務研修を充実することで、職員の法務能力の向上に取り組みます。
- ◆ 公文書管理と情報公開制度の適正な運用を行い、市政の透明性を確保します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 民間による新たなビジネスやサービスの創出を目指して、行政情報を二次利用可能なオープンデータとして提供します。

(基本政策)

## 将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進

- ◆ 財源の確保や規律ある財政運営を行い、時代の変化に適應できる財政構造への転換を進めます。
- ◆ 選択と集中による予算の重点配分と将来への投資を行います。
- ◆ ファシリティマネジメントの考え方にに基づき、資産の総合的・総括的な管理を推進し、広域的な利用など、柔軟に資産を活用します。
- ◆ 施設の長寿命化を行うとともに、保有財産の売却などにより、新たな財源を確保します。
- ◆ 公共建築物の省エネルギー化とユニバーサルデザイン化、再生可能エネルギーの導入を推進します。
- ◆ システムによる管理を進めて、劣化状況に応じた公共建築物の適切な修繕を行います。
- ◆ 電子入札により、事務の効率化を図り、同時期の複数入札を可能にして、競争性を高めます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 企業などとの新たな連携により、資金、資産、ノウハウを活用した施設整備や公共サービスの提供を推進します。
- ◆ 国・県・市町村間の税関連情報の共有と申告・申請の電子化により、効率的な課税・収納事務を行います。



# ◆ 政策体系

## - 政策体系について -

分野を構成するすべての政策を掲載しています。

政策は、「政策の柱(分野の 10 年後の姿(理想の状態))」—「基本政策(部局レベルの政策)」—「政策(課レベルの政策)」のつながりとなっています。

## ① 産業経済

(政策の柱)

- ◆ 輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業が集積し、持続可能な地域経済が確立している。
- ◆ 来訪者が浜松の魅力とおもてなしを実感し、リピーターが増えている。
- ◆ 多様な担い手による付加価値の高い農林水産業が行われている。

基本政策	政策
世界の一步先を行く産業・サービスの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新産業の創出と既存産業の高度化による活力ある地域経済の実現</li> <li>➢ 海外需要を取り込み、国内事業の活性化を図るため中小企業の海外展開を促進</li> <li>➢ 企業誘致の推進による産業集積の促進</li> <li>➢ 新規創業や新事業展開の促進</li> <li>➢ 魅力ある都心づくりと商業振興</li> <li>➢ 観光・コンベンションの振興による地域経済の活性化</li> <li>➢ だれもが働きやすい労働・雇用環境の整備</li> </ul>
作業から経営に！ 変革を遂げる農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 農業参入機会の創出による担い手の確保</li> <li>➢ ICT を活用した魅力あふれる農業への変革</li> <li>➢ 生産基盤の安定による農業振興</li> <li>➢ 産業と市民活動による担い手の確保</li> <li>➢ 適切な伐採と流通の活性化</li> <li>➢ 森林管理を通じた環境対応社会への貢献</li> <li>➢ 適切な資源管理による水産業の振興</li> <li>➢ 漁港などの基盤整備による水産業の振興</li> <li>➢ 地元水産物の消費の活性化</li> <li>➢ 卸売市場の活性化による市民の食生活の安定</li> </ul>
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 優良農地の確保と農業生産力の向上</li> </ul>

## ② 子育て・教育

(政策の柱)

- ◆ 子どもたちの成長を第一に考えた地域社会のサポートにより、仕事と子育てが両立できる環境が整っている。
- ◆ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

基本政策	政策
子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 妊娠・出産を応援するための環境づくり</li> <li>➢ 子どもが健やかに育つ環境づくり</li> <li>➢ 幼児教育・保育施策の推進と施設の管理運営</li> <li>➢ 子どもとその家庭に対する相談援助</li> <li>➢ 若者の自立を促す環境づくりの推進</li> </ul>
市民協働による未来創造へのひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 夢と希望を持ち続ける子どもの育成</li> <li>➢ これからの社会を生き抜くための資質や能力の育成</li> <li>➢ 自分らしさを大切にする子どもの育成</li> <li>➢ 園・学校や教師の力の向上</li> <li>➢ 家庭や地域の力を生かした取り組みの推進</li> <li>➢ 一人一人の可能性を引き出し、伸ばす取り組みの実践</li> <li>➢ 子どもの生活や学びを支える教育環境づくり</li> </ul>

### ③ 安全・安心・快適

(政策の柱)

- ◆ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ◆ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

基本政策	政策
みんなの力で自然災害から生き残る	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ みんなの力で自然災害から生き残る</li> </ul>
安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域防犯の向上</li> <li>➢ 市民安全の確保</li> <li>➢ 安全・安心な消費生活の推進</li> <li>➢ 消費者教育の推進</li> <li>➢ 戸籍・住民基本台帳・印鑑登録等窓口事務の適切な執行</li> <li>➢ 斎場・墓園・墓地の整備推進</li> </ul>
市民が集う活力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 集約都市づくりの推進</li> <li>➢ 開発と保全が調和する土地利用の推進</li> <li>➢ はままつ流の多様なくらしに対応した「安全・安心・快適」な交通を目指して</li> <li>➢ 安全・安心な市街地の形成</li> <li>➢ 都心の都市機能の強化</li> <li>➢ 安全・安心な居住環境への誘導</li> <li>➢ 市営住宅の既存ストックの活用</li> <li>➢ 緑化推進・緑地保全</li> <li>➢ 都市公園・緑地の整備</li> <li>➢ 動物園の再生</li> </ul>
安全な生活基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 効率的な道路・河川管理</li> <li>➢ 快適な道路・川づくり</li> <li>➢ 交通安全対策</li> <li>➢ 防災体制の強化</li> </ul>
いつでも、どこでも迅速的確に対応する消防・救急体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 消防施設の最適化、人材育成の充実</li> <li>➢ 消防団の防災体制の充実</li> <li>➢ 火災予防体制の充実、火災による被害の軽減</li> <li>➢ 通信・指令体制、救急体制、航空消防体制、消火・救助体制の充実強化</li> </ul>
安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 安全な水を確実に届け続ける浜松の水道</li> <li>➢ 未来へつなぐ快適な都市の暮らしを強固に支え続ける浜松の下水道</li> </ul>

### ④ 環境・エネルギー

(政策の柱)

- ◆ ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ◆ 再生可能エネルギー等が広く導入されるとともに、建物などのエネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

基本政策	政策
環境と共生した持続可能な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくり</li> <li>➢ 豊かで安全・健康で快適な環境づくり</li> <li>➢ 環境に配慮した資源循環型社会の構築</li> <li>➢ 安全・安心で安定したごみ・し尿等の処理</li> <li>➢ 不法投棄対策の推進</li> </ul>
再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 再生可能エネルギー等の導入</li> <li>➢ 省エネルギーの推進</li> <li>➢ エネルギー関連ビジネスの創出</li> </ul>

## ⑤ 健康・福祉

(政策の柱)

- ◆ 地域での支え合いの仕組みづくりが進んでいる。
- ◆ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

基本政策	政策
人と人とのつながりをつくる 社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 超高齢社会への対応</li> <li>➢ すべての人が安心していきいきと暮らすことのできる地域福祉の推進</li> <li>➢ 適正な生活保護扶助費の給付</li> <li>➢ 超高齢社会における介護保険事業の健全で安定した運営</li> <li>➢ 国民健康保険事業の健全で安定した運営</li> <li>➢ 障がいのある人のライフステージに応じた支援の推進</li> </ul>
人々の心身の健康と生活を守る 医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 生涯にわたる健康づくり</li> <li>➢ 安全・安心な医療の提供</li> <li>➢ 地域医療・地域包括ケアの推進</li> <li>➢ こころの健康づくりの推進</li> <li>➢ 地域医療に貢献できる有能な医療スタッフの育成</li> <li>➢ 保健予防と食の安全対策の推進</li> </ul>

## ⑥ 文化・生涯学習

(政策の柱)

- ◆ 音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。
- ◆ 多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。

基本政策	政策
感動のある生活、歴史・文化・ スポーツによる豊かさの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新しい価値が生まれる創造都市の実現</li> <li>➢ 生涯スポーツを楽しむ機会の拡大</li> <li>➢ 生涯学習を享受できる機会の充実</li> <li>➢ 地域の文化遺産の継承</li> <li>➢ 地域の文化遺産の保全・活用</li> <li>➢ 芸術・文化の拠点の創造と発信</li> <li>➢ 美術館の魅力の創出</li> <li>➢ 知の拠点としての図書館機能の拡大</li> </ul>

## ⑦ 地方自治・都市経営

(政策の柱)

- ◆ 協働に関わる多様な主体が連携し、協働による質の高い市民サービスが提供されている。
- ◆ 公共インフラの整備・維持・管理に民間活力の導入が進んでいる。

基本政策	政策
市民と共に未来をつかむ都市経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 秘書・表彰業務の推進</li> <li>➢ 「浜松市未来ビジョン」の実現に向けた総合計画の推進</li> <li>➢ 基礎自治体としての自立</li> <li>➢ 創造都市の推進</li> <li>➢ 戦略拠点の連携強化</li> <li>➢ 持続可能な都市経営の推進</li> <li>➢ 市民主体のまちづくりを支える広聴広報の好循環</li> <li>➢ 世界を含めた都市間競争を勝ち抜くシティプロモーションの展開</li> <li>➢ 世界とのつながりと多様性を生かした都市の活性化</li> <li>➢ 行政サービスが誰でもどこでもいつでも受けられる電子自治体の推進</li> </ul>
だれもがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市民一人ひとりが活躍する市民協働の推進</li> <li>➢ “まち”と“むら”をつないで実現する中山間地域の振興</li> <li>➢ 自由な選択の実行が保障されたユニバーサル社会の実現</li> <li>➢ 一人ひとりが自己実現できる男女共同参画の推進</li> </ul>
人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 適正な組織体制と定員管理</li> <li>➢ 職員の育成</li> <li>➢ 政策法務の推進</li> <li>➢ 職員の健康管理と職場環境の安全管理</li> <li>➢ 行政情報の提供・公開</li> </ul>
将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 将来を見据えた持続可能な財政運営の維持</li> <li>➢ ファシリティマネジメントの推進</li> <li>➢ 安全・安心で利用しやすい公共建築物の提供</li> <li>➢ 工事・物品の適正な契約</li> <li>➢ 技術職員の技術力向上</li> <li>➢ 公平公正・効率的な課税と収納</li> </ul>
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 会計管理運営業務の推進</li> <li>➢ 公正かつ適正な選挙の実施</li> <li>➢ 適正かつ公平中立な人事行政運営の推進</li> <li>➢ 行財政運営に対する監査・指導の推進</li> </ul>







浜松市

浜松市未来ビジョン  
第1次推進プラン

---

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課

# 浜松市新・総合計画(案) に対するご意見ありがとうございました

市民の皆さんからの提出意見と  
その意見に対する市の考え方の公表



平成 26 年 8 月から 9 月にかけて実施しました浜松市新・総合計画（案）に対する意見募集（パブリック・コメントの実施）に貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

意見募集を行った結果、市民等 13 人・4 団体から 89 件のご意見が寄せられましたので、それらのご意見とご意見に対する市の考え方を公表いたします。

ご意見につきましては、項目ごとに整理し、適宜要約し掲載しております。

また、お寄せいただきましたご意見を考慮して、「浜松市新・総合計画」を策定し、平成 27 年 4 月からの実施を予定しています。今後とも、総合計画に対するご理解とご協力をお願いいたします。

なお、この内容は、市ホームページ (<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>) にも掲載しております。

平成 26 年 11 月

浜松市企画調整部企画課

〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2

T E L 053-457-2241

F A X 053-457-2248

E メールアドレス

[kikaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp](mailto:kikaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp)



## 募集結果

【実施時期】	平成26年8月14日から平成26年9月12日		
【意見提出者数】	13人・4団体		
【提出方法】	持込(2) 封書(2) 電子メール(10) FAX(3)		
【意見数内訳】	89件 (提案 81件、要望 7件、質問 1件)		
【案に対する反映度】	案の修正 12件	今後の参考 22件	
	盛り込み済 22件	その他 33件	

## 目次

○全体（意見数 6件）	1 ページ
○浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン（案）	
・全体（意見数 3件）	2 ページ
・都市の将来像（意見数 1件）	3 ページ
・1 ダースの未来（理想の姿）	
つくる【創る】（意見数 1件）	3 ページ
たかめる【高める】（意見数 2件）	4 ページ
いかす【活かす】（意見数 0件）	
めぐらす【巡らす】（意見数 0件）	
つなぐ【繋ぐ】（意見数 0件）	
みとめあう【認め合う】（意見数 2件）	4 ページ
ささえあう【支え合う】（意見数 2件）	5 ページ
はぐくむ【育む】（意見数 2件）	6 ページ
みのる【実る】（意見数 0件）	
はたらく【働く】（意見数 0件）	
かえる【変える】（意見数 2件）	7 ページ
むすぶ【結ぶ】（意見数 0件）	

○浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン（案）

・全体（意見数 6件）	7 ページ
・未来ビジョン（基本構想）を受けて（意見数 2件）	9 ページ
・都市経営の考え方	
市民協働で高める地域力（意見数 0件）	
未来まで続く持続可能なまち（意見数 1件）	10 ページ
未知の感動を生み出す創造都市（意見数 0件）	
想定外にも対応できる自立・自律したまち（意見数 1件）	11 ページ
世界とツナグ・地域とツナグ（意見数 0件）	
・まちづくりの基本的な考え方（意見数 3件）	11 ページ
・分野別計画	
分野別計画の構成（意見数 0件）	
産業経済（意見数 11件）	12 ページ
子育て・教育（意見数 11件）	14 ページ
安全・安心・快適（意見数 14件）	17 ページ
環境・エネルギー（意見数 1件）	20 ページ
健康・福祉（意見数 10件）	20 ページ
文化・生涯学習（意見数 1件）	23 ページ
地方自治・都市経営（意見数 6件）	23 ページ
・政策体系（意見数 1件）	25 ページ

## ○全体

<b>提案 1</b>	計画を一読し、基本構想に描かれている浜松市の未来ビジョンは素晴らしいと感じた。これを具現化していくため、小学校・中学校の社会科授業において合計3回ぐらいは取り上げて、児童に学習させることが必要である。
<b>提案 2</b>	計画を一読し、基本構想に描かれている浜松市の未来ビジョンは素晴らしいと感じた。子どもたちに、自分が大人になった時の将来ビジョンを持たせることも必要であり、子ども用の基本構想のパンフレットの作成を検討してほしい。

### 【市の考え方】今後の参考

基本構想は30年後の理想の姿を記述しています。30年後の本市の主役を担う現在の子どもたちへの周知・普及は重要であると認識しています。新・総合計画の周知方法についてのご提案ですので、確定後、次年度からの事業展開の参考とします。

<b>提案 3</b>	人口減少に伴い、交流人口や定住人口増を望む「都市・地域間競争の激化」により、移住者を増やすことは容易ではないと思われる。「30年後の浜松」に希望を託す計画であり、意味は理解できるが、「将来推計人口」と併せて読むと楽観的な計画に思われる。例えば「働きやすいまち」「子育てしやすいまち」「公共交通の利用しやすいまち」等で、他の市町と異なる明確な浜松の特色を打ち出す施策を取らなければ高齢化率は増え続けるのではないかと。
-------------	---

### 【市の考え方】今後の参考

「働きやすいまち」については、基本構想の「はたらく【働く】」に、「子育てしやすいまち」については「はぐくむ【育む】」に、「公共交通の利用しやすいまち」については「かえる【変える】」に、盛り込んでおります。ご提案のとおり人口構成の最適化に向けて、特色を打ち出し、若者が集まる都市を目指してまいります。

<b>提案 4</b>	現在静岡県及び浜松市の流出人口が多くなっている中「都市間競争」が激しくなると予測される。これには、単純に人口減少が加速度的に進んでしまうということと、企業競争力が落ちてしまうことがある。企業の新卒採用が困難になったり、運営が出来なくなったりするほど従業員不足になることも予想される。クリエイティブとかクリエイターのような言葉が何回か出てくるが、一般の市民が「ワクワク」したり、「ドキドキ」したりできる「街」という観点を取り入れてはどうか。
-------------	---

### 【市の考え方】盛り込み済

魅力ある「街」の観点については、基本構想の「つなぐ【繋ぐ】」に「～『ワクワク感』を得ることができます」などの理念を盛り込んでいます。

<b>提案 5</b>	人口減少・少子高齢社会、地方創生などの国家戦略に伴い、厳しい都市間競争に勝ち残るには明確な都市ビジョンと戦略・政策が不可欠である。基本構想・計画ともに抽象的でどんな都市をめざしているのかが不明瞭
-------------	---

	なため、静岡市総合計画のように重要度・優先順位などを含めた、市民にわかりやすい内容に見直す必要がある。
<b>提案 6</b>	基本政策内の重点配分（優先順位）がよく分からない。全てを同格と捉えたと人口減少社会の中でとても実現可能とは思えない。時代の変化に応じて見直しも必要になると考えるが、その場合の考え方はどうかということが気になる。本当に実現が望める項目が明確になるようにすべきである。

**【市の考え方】 その他**

政策・事業の優先順位付けは重要です。新・総合計画は、基本構想が30年、基本計画が10年という長期計画としました。このため、今後の市政運営が硬直化することのないよう、基本計画の段階では重要度・優先順位付けについては行わず、実施計画レベルの戦略計画などで社会情勢の変化を考慮しながら、明確にしていまいます。

○浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン（案）

・全体

<b>提案 7</b>	「都市の将来像」及び「1ダースの未来（理想の姿）」いずれを問わず、30年後の姿を描いた記述と現在進行中の姿の記述が混在しており、読みにくく分かりにくくなっています。文書整理して、30年後の姿の部分は□で囲む、ゴシック体で表記するなどして明確化した方が良いでしょう。
-------------	--

**【市の考え方】 その他**

基本構想は、すべて30年後の理想の姿を記載しています。このため、30年後の状態を現在形で記載し、比較が必要な場合のみ、現状（平成26年度）を過去形で記載しています。再度、記載内容の精査を行い、分かりやすく表現します。

<b>提案 8</b>	1ダースにこだわったせいか、項目区分が不适当と思われるものがある。例えば、「創る」では産業と文化の理想の姿が合わせて示されているが内容の大半は産業である。一方、「繋ぐ」では、市政のキーワードとしては不十分な内容となっている。文化を「創る」に無理に入れるより、「繋ぐ」に組み入れ内容充実を図る一方、全体的に方針が不十分な商業・商店街の活性化を「創る」に加えた方が適切かつ正確である。
-------------	--

**【市の考え方】 その他**

「都市の将来像」の中で、基本構想の上位概念として「創造都市」を掲げています。ここで、「地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、私たちの暮らしの質を高め」る都市として、文化やまちなかの理想の姿を重点的に表現しています。一方で「1ダースの未来」の「つくる【創る】」では、産業と文化による発展を、「つなぐ【繋ぐ】」では、都市部と中山間地域の連携を表現しており、現状の記述とします。



<b>提案 9</b>	未来ビジョンを実現するには、「現状における課題認識」と、「課題解決のための政策」及び「成果目標」が必要である。基本構想が未来完了形で書かれているためか、これらの重要な記述が欠けている。見直しが必要ではないか。
-----------------	--

**【市の考え方】 その他**

新・総合計画の策定に当たっては、まず、「未来の理想の姿」を定め、それに向かって、今、何をすべきかを定める「バックキャストイング」という手法を用いています。現状認識・課題分析を行い、そこから政策を立案する「フォアキャストイング」とは逆の手法を用いているため、ご提案の「現状における課題認識」や「課題解決のための政策」について記載をしていません。また、「成果目標」については、今後設定をし、参考資料として記述してまいります。

・都市の将来像

<b>提案 10</b>	「小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす【市民協働】」の項目について。浜松市は、文化・芸術・自然のめぐみ、伝統、気候、食生活等、大変恵まれた資源が揃っているが、これらを動かす環境ができていない。その大きな要因として考えられることは、合併した各地域の心がまだ十分に通い合っていないことである。これなくして大きなまちづくりはできない。まず、お互いの良さを認め、尊敬する心を持つべきである。また、小さな歯車なくしては、未来ビジョンは成立しない。それはつまり、各分野において女性の進出を認め、能力を信用するということである。これについては、浜松市全体が殆ど手付かずの状態である。例えば各自治会等は旧態依然として男性中心の社会である。女性を育て能力を十分使いきる社会を誕生させることが、1ダースの未来をつくる近道になるのではないか。
------------------	---

**【市の考え方】 盛り込み済**

女性の社会進出の促進は重要な施策です。当該項目の冒頭に、「浜松を創造する人財は、老若男女すべての市民です。日々の生活を送る上で、対等な立場で支え合い、市民主体によるまちづくりを進めています」と記述しており、市民の一体感の醸成や女性の社会進出の推進を表現しています。

・1ダースの未来（理想の姿）

つくる【創る】

<b>提案 11</b>	「森林の枝払い」について、「枝打ち」や「間伐の体験」に変更した方が良いのではないか。
------------------	--

**【市の考え方】 案の修正**

ご指摘の表現が、より適切であると判断し、記述を次のように修正します。

《修正内容》

(修正前)

「大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林の枝払いなどをはじめとした体験型の観光が人気です。」

(修正後)

「大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林での間伐などをはじめとした体験型の観光が人気です。」

たかめる【高める】

提案 12	「Tenryu-zai」について、「天竜材」に変更した方が良いのではないかと。
----------	---

【市の考え方】その他

「天竜材」ではなく「Tenryu-zai」としたのは、国内での流通のみを目指すのではなく、同ページ内に記述があるとおり「世界に通用するブランド」とすることを未来の理想の姿としています。このため、漢字表記ではなく、ローマ字表記としています。

提案 13	農業分野について、効率的な環境の中でつくられることや高品質であることが強みとして表現されているが、その他に「安全な農産物」であることを付け加えてはどうか。
----------	---

【市の考え方】案の修正

「安全」の観点で、農林水産物すべてに入るよう、冒頭の記述を次のように修正します。

《修正内容》

(修正前)

「浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる農地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。」

(修正後)

「浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる農地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、安全で特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。」

みとめあう【認め合う】

提案 14	「外国人」とは誰を指すのか？ 外国籍だけでなく、日本国籍だけれど日本語ができない方や、国際結婚によるダブルの国籍の子どもも増えている。「外国人＝外国籍」だけでなく、そういった「外国にルーツを持つ人」も浜松の多様性を創り出す人材として捉え、含めてはどうか。
----------	---

【市の考え方】案の修正

外国籍の人だけでなく「外国にルーツを持つ人」についても対象とした項目であることが分かるよう、冒頭の記述を次のように修正します。

#### 《修正内容》

##### （修正前）

「浜松は、外国人が多く居住する『外国人集住先進都市』であり、海外の文化と共生する術が身についています。」

##### （修正後）

「浜松は、外国籍の人や外国にルーツを持つ人が多く居住する『外国人集住先進都市』であり、海外の文化と共生する術が身についています。」

<b>提案 15</b>	「母国語」を「母語」または「多言語」に変更してはどうか。母国語は母国の公用語のことを指すけれども、子どもの言語発達に大切なのは「母語」。ここでの母国語は母語、または多言語の方が適切である。
------------------	--

#### 【市の考え方】案の修正

文中の外国人の子どもにとって、母語が日本語の場合もありますので、「母語」では策定の意図が十分に伝わりきらない場合もあります。このため、冒頭の記述を次のように修正します。

#### 《修正内容》

##### （修正前）

「小中学校では、外国人の子どもに対しても、母国語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。」

##### （修正後）

「小中学校では、外国人の子どもに対しても、多言語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、多言語による支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。」

#### ささえあう【支え合う】

<b>要望 1</b>	「安心して選ばれる。安全だから選ばれる」という表現は不適切というより誤りではないか。安全・安心は「選ばれる」ために行うものではない。まさに命や生活の維持・確保の基盤である。より適切な表現への修正を要望する。
-----------------	---

#### 【市の考え方】その他

安全・安心は「選ばれる」ために行うものではなく、生活に欠かせない重要な考え方です。「ささえあう【支え合う】」では、医療体制は「我が国の手本」となって

いることを 30 年後の理想の姿として掲げています。全国でもトップクラスの安全・安心を提供する意気込みとして表現しており、現状の記述とします。

<b>提案 16</b>	「防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。」について、「愛される」という表現はいかがなものか。「～多くの市民の憩いの場として親しまれています。」としてはどうか。
--------------	--

**【市の考え方】案の修正**

ご指摘の表現が、より適切であると判断し、次のように修正します。

**《修正内容》**

**(修正前)**

「市民の安全と安心を守る遠州灘海岸の防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。」

**(修正後)**

「市民の安全と安心を守る遠州灘海岸の防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民の憩いの場として親しまれています。」

**はぐくむ【育む】**

<b>提案 17</b>	「時間に余裕のある人たちが子育てのサポートに関わるために、保険や補償も含めた『仕組みづくり』が出来上がって、『預かる側も預ける側も安心できる』地域のシェア体制が整う」という主旨の文章の加筆が必要ではないか。
--------------	---

**【市の考え方】盛り込み済**

ご提案の点については、冒頭に「子育ての苦労も楽しみも地域でシェアしています」と記載するなど、地域での協力体制が構築されていることを 30 年後の理想の姿として記述しています。

<b>提案 18</b>	「育児休暇の取得は当たり前」の部分について、「男女を問わず、育児休暇の取得は当たり前」と加筆してはどうか。子育てをするのは女性だけではない。男性も子育てに参加するという視点をぜひ入れてはどうか。
--------------	---

**【市の考え方】案の修正**

ご指摘の表現が、より適切であると判断し、次のように修正します。

**《修正内容》**

**(修正前)**

「勤め先では、育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。」

**(修正後)**

「勤め先では、男女を問わず育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。」

### かえる【変える】

<b>提案 19</b>	コンパクトシティを表現した章だと思うが、「都市だってスリムになりたい」というキャッチコピーや登場する言葉が「空き地の減少」、「農地の集約」であるため、居住地域に地域菜園・都市農園さえもイメージできない潤いのない都市空間像が浮かんでしまう。もう少し豊かな生活をイメージできるものにならないだろうか。都市農地が食育に貢献する役割や、防災や環境保全機能、その維持管理の担い手である市民力についても描いてほしい。
--------------	--

#### 【市の考え方】今後の参考

「かえる【変える】」では、コンパクトシティをはじめとした、広大な市域の活用のあり方、拠点と拠点をつなぐ公共交通のあり方などについて、30年後の理想の姿を重点的に描いています。空き家や空き地の有効活用を図るほか、居住エリアと農地エリアとの明確化などにより人口密度を高めていく理想の姿としています。都市農園などの具体的な土地の活用方法については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

<b>提案 20</b>	三方原地域では、企業進出により、一層の交通渋滞が予測される。環境、交通弱者にも優しく便利さ、快適さ、大量輸送可能な交通手段の推進が不可欠である。「浜松に未来都市の交通システムを実現させる」と市民が納得し賛同する、人と公共交通、次に車の交通政策を推進し実現してほしい。
--------------	---

#### 【市の考え方】今後の参考

「かえる【変える】」では、「地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています」、「安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんど」と記述しています。技術の進歩により、交通弱者という概念がなくなっている世の中を理想の姿としており、大量輸送可能な交通システムについては、必要性を含めて検討してまいります。

### ○浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン（案）

#### ・全体

<b>提案 21</b>	第2次総合計画（平成23年度～26年度）の総括・評価を補足・付加すべきではないか。前総合計画の達成度等は今後あらゆるレベルで議論されるわけで本格的な総括は不要だが、前総合計画との比較における継続性や発展性を明記することが必要である。 とくに「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」をそのまま継承した理由説明として、「新・総合計画策定方針（パブリック・コメン
--------------	--

	ト対象外)」2 ページには、「市民の皆様や民間企業との協働による長期にわたる活動が必要であり」と記されているが、第1次推進プランでも詳細に冒頭部分に記述する必要がある。
--	--

**【市の考え方】盛り込み済**

総合計画の進行管理については、戦略計画を毎年度策定するとともに、「政策・事業シート」を作成し、すべての事業についてPDCA サイクルにより管理しています。また、第2次総合計画の総括・評価については、「新・総合計画策定方針」に「中間評価」を記述しています。さらに、市民協働については、基本計画の「2 都市経営の考え方」の「① 市民協働で高める地域力」として、その重要性を記述しています。

<b>質問 1</b>	「新・総合計画策定方針（パブリック・コメント未実施）」2 ページには、区別計画を策定しない方針となっている。平成21年12月の「本庁・区役所の役割分担の基本的な考え方」の第4章6-（1）-②（24 ページ）には「新都市経営戦略の中に区別計画を定めます」とされている。この方針を変えるとの解釈で良いか。 その場合、区政方針を現状の年度方針だけでなく中期計画を盛り込んだものにグレードアップすると解釈してよいか。
-----------------	---

**【市の考え方】その他**

ご質問の「新都市経営戦略」は、第2次浜松市総合計画基本計画のことであり、その第6章に区別計画を定めました。市政運営の最上位計画である総合計画の変更に合わせ、「本庁・区役所の役割分担の基本的な考え方」をはじめとした個別計画などの考え方とは、整合をとることとなります。合併から10年が経ち、市民は、広大な市域にあっても、地域の特色を身近に感じ、同じ浜松市として受け止めていると考えています。また、ごみ収集方法の統一化など、一市多制度として進めてきた合併後の措置も終了を迎え、ひとつの浜松としての基盤は整いつつあります。このため、新・総合計画では、一つの都市の目指すべき未来の理想の姿を定めるものとし、区役所運営のあり方については、中・長期ビジョンは策定せず、区ごとに毎年定める区政運営方針等に対応してまいります。

<b>提案 22</b>	総花的で理想的であるが、絵に描いた餅のように見える。実現可能性の高いものと非常に低いものとが混在しているようである。もう少し堅実な中身を見せてほしい。
<b>提案 23</b>	基本計画が総花的・抽象的な内容となっているので、重点施策を明記したうえで、それに対する具体的な政策・施策、成果目標等を示すべきではないか。

**【市の考え方】その他**

新・総合計画は、市政運営上の最上位計画に位置付けられるものです。あらゆる分野を網羅的に掲載する必要があるため、総花的になる点につきましては、本計画の性質であり、特徴であると考えます。また、実現可能性については、10年間の

計画期間であることから、既に実施している施策と、10年後の実現を目指して記述している施策があります。どれも、計画期間の10年の間には実現するよう、最大限の努力をします。また、今後の社会情勢の変化などを考慮し、市政運営が硬直化することのないよう、基本計画段階では事業の重要度・優先順位付けについては行わず、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

<b>提案 24</b>	「分野別計画」と「政策体系」との対応関係がところどころ分かりにくい。政策体系には「分野を構成するすべての政策を掲載しています」とあるので、分野別計画の内容が政策体系にも網羅されていると理解するが、表現が変わることで抜け落ちた印象になる項目もある。
------------------	---

**【市の考え方】その他**

分野別計画は、基本構想に掲げた理想の姿を実現するために必要な主な政策を記述しています。一方で、政策体系には、分野を構成するすべての政策を記述しています。

<b>提案 25</b>	<p>新・総合計画には「都市・交通」という基本的な分野が欠落している。「人の移動」は「物流」以上に重要な問題であり、高齢化に伴うユニバーサル社会への対応や観光産業の振興等々から、30年先を見据えたビジョンと具体的政策が必要である。以下に掲げた課題と対策を含め、「都市・交通」分野を追記すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市の人口10万人当たり人身事故件数は、全国政令指定都市中ワースト1。</li> <li>・浜松市の公共交通分担率は、全国政令指定都市中ワースト1。</li> <li>・バス利用客（年間）は約30年前の最盛期と比べ、4,500万人も減少。</li> <li>・大手企業の進出に伴う浜松北地域の渋滞対策とLRT等新交通システムの導入。</li> <li>・10年・30年後の浜松駅バスターミナル（完成後32年経過）はどうあるべきか</li> </ul>
------------------	--

**【市の考え方】その他**

ご提案の、「都市・交通」や「人の移動」については、基本構想において、「かえる【変える】」という項目により、理想の姿を記述しました。また、基本計画では、「まちづくりの基本的な考え方」の項目で、拠点ネットワーク型の都市構造とする将来像を示しています。具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

**・未来ビジョン（基本構想）を受けて**

<b>提案 26</b>	「1ダースの未来」について、もう少し一般の人がわかりやすい表現に変更した方が良いのではないか。
------------------	---

**【市の考え方】案の修正**

分かりやすくなるよう、記述を次のように修正し、明記していきます。

### 《修正内容》

#### (修正前)

「未来ビジョンでは、世代を通じて共感できる『未来』を創造するために、一世代(=30年)先を未来の理想の姿として、『都市の将来像』と『1ダースの未来』を定めました。」

#### (修正後)

「未来ビジョンでは、世代を通じて共感できる『未来』を創造するために、一世代(=30年)先を未来の理想の姿として、『都市の将来像』と『1ダースの未来(理想の姿)』を定めました。」

<b>提案 27</b>	23 ページの記述後半部分に、「…事業実施の核となる戦略計画を毎年度作成し、計画的な進捗管理を進めます。」とあるが、戦略計画は基本計画の中で明確に示すべきではないか。それにより毎年度の計画的な進捗管理が可能になる。
--------------	---

#### 【市の考え方】 その他

基本計画では、戦略計画を核とした PDCA サイクルによる進行管理を行う旨について記述しています。戦略計画は、社会情勢の変化などを考慮し、柔軟性を持ちながら毎年策定します。

#### ・都市経営の考え方

#### 未来まで続く持続可能なまち

<b>提案 28</b>	「新・総合計画策定方針(パブリック・コメント未実施)」、「未来ビジョン」及び「第1次推進プラン」をとおして、人口減少を大前提というより人口減少に「依存」した組み立てが行われており、全体として政策展開の消極性を感じたが、本項目において出生率の向上等の方針が示された点は評価できる。 しかし、内容は「人口構成の最適化」となっており、「総人口を増やす」あるいは「減少幅を圧縮する」等のより積極的な方針を提起すべきではないか(人口推計は無視できないが、市町村別推計は母数が少ないことや地域間移動の推計技術が未成熟であることから正確度は低いとも言われている)。
--------------	--

#### 【市の考え方】 その他

人口減少が全国的なトレンドである中、持続可能な都市経営モデルを標榜する本計画において、人口減少に目を背けることなく、人口構成の最適化により、持続可能なまちづくりを進めていくことが、現実的な課題解決の手法であると考えます。



## 想定外にも対応できる自立・自律したまち

<b>提案 29</b>	想定外が予想できるのであれば、「想定外」とは言わないのではないかと。「災害」や「有事」という言葉で十分意図は伝わるのではないかと。
------------------	---

### 【市の考え方】その他

「想定外」には、いつか訪れると予測されいながら、到来の時期が予測できない事象と、予測不能の事象が起こる可能性の2つの意味を込めています。このため、ご提案のとおり、「想定外が予想」できているわけではなく、考えも及ばない時期に考えも及ばない事象が発生しても、対応できるまちづくりに取り組む姿勢として記述しています。

### ・まちづくりの基本的な考え方

<b>提案 30</b>	「中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに、交通ネットワークの強化によって都市部との交流を促進します。」について、交通ネットワーク強化の具体的な方策を示してほしい。
------------------	---

### 【市の考え方】その他

基本計画では「コンパクトでメリハリの効いたまちづくり」という全体的な方向性を提示しました。具体的な施策及び事業については、毎年策定する戦略計画や個別計画などで明確にしていまいります。

<b>提案 31</b>	「人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造」の部分で「小規模多機能自治地域を拠点としたネットワーク型都市」にしてはどうか。
------------------	---

### 【市の考え方】今後の参考

ご提案の「小規模多機能自治地域」という表現につきましては、基本計画で示したまちづくりのイメージを表現していると考えます。しかし、「小規模」とはどの程度の規模と定義するのか、「多機能」とはどの程度の機能が集積していることとして定義するのか、「自治」の権能がどの程度のものであるのか、議論が必要と考えます。また、それらの議論は「まちづくりの基本的な考え方」の範疇を越え、具体的なまちづくりの考え方でもありますので、今後、まちづくりに関する個別計画などで議論し、明確にしていまいります。

<b>要望 2</b>	副都心について、第1次総合計画では浜北副都心計画が明記され（平成19年3月）、それを受け、平成21年3月に「浜北副都心検討会議」から冊子「浜北副都心構想」が出された。第1次総合計画から既に8年経過しており、現状を踏まえ、10年後や30年後の副都心の姿を明記するよう要望する。
-----------------	---

### 【市の考え方】その他

浜北副都心構想については個別計画で考え方、施策、事業などを示していま

す。

・分野別計画

産業経済

<b>提案 32</b>	森林認証（FSC）材についての記述を加えてほしい。また、国産材・天竜材の使用について、市の補助制度の更なる充実について書き加えてほしい。
--------------	--

【市の考え方】今後の参考

基本計画では、林業振興の施策の方向性を提示していますので、具体的な事業などについては、毎年策定する戦略計画などで明確にまいります。

<b>要望 3</b>	商業や商店街の記述が薄いというより無いに等しいことは問題である。ものづくりの観点から、製造業や農林水産業が重要なことは言うまでもないが、商業の繁栄・活性化も不可欠であり、商店街発展は「まちなか活性化」や「安全・安心」とも連結する。追加を要望する。
<b>提案 33</b>	市民全体は、いろいろな年齢のいろいろな思考の方がいるが、特に新しい時代、今までと全く違う価値観を持った若者が新しい浜松市を創っていくと考える。その若者が魅力的に感じる街とは何なのか？ 基本計画の中でもう少し、若者に焦点を当てた言葉が欲しいと感じた。今若者は、デートも郊外のショッピングセンターだったり、おしゃれな洋服は静岡市や名古屋、東京まで出かけたりしていると聞く。また、出身が浜松市以外の方は、会社の帰りがけによるところもない！ といった人もいる。安心、安全も非常に大切だが、「何か楽しい街」「ついつい寄ってしまう場所」等、付加価値がついた場所を作っていくということに繋がる内容があるともっと楽しい未来の浜松市が感じられると思う。

【市の考え方】盛り込み済

「商業の繁栄・活性化」や「商店街発展」については、民間の事業者が主役です。このため、基本計画では、行政の役割として、店舗同士が切磋琢磨できる環境づくりや、支援の取り組みを記述しています。

<b>提案 34</b>	森林の荒廃・耕作放棄地と離農者の増加、高齢化・後継者不足の農・林・漁業の現状把握が希薄と思われる。一次産業従事者を増やす方策を早急に取りしないと明るい農・林・漁業はないのではないか。
--------------	---

【市の考え方】盛り込み済

ご提案の一次産業の担い手確保については、重要な施策であると認識しています。現在も事業を展開しているため、分野別計画へは、新機軸として、一次産業の業務内容の改善を中心に記述しました。また、「政策体系」へは「担い手の確保」を記述しており、今後も着実に実施していくことを表現しています。

<b>提案 35</b>	産業経済と環境が縦割りになっていることが気になる。多様な産業の発展は望ましいが、経済活動による環境負荷は最小限に抑えるべきである。これを担保するために「環境に配慮して」の文言を加筆するべきではないか。
------------------	--

**【市の考え方】 その他**

環境への配慮は、個人のみでなく、企業においても着実に意識は高まっています。基本計画では、地元企業に寄り添い、産業を振興する考え方を産業経済分野に、また、企業への啓発により環境に配慮した取り組みを推進する考え方を環境・エネルギー分野に記述しています。

<b>提案 36</b>	子育てについての政策はあると思うが、ママさんたち自身がもっと楽しむことができる街になる政策が欲しいと考える。日々の活動の中で感じるのは、生活のために就業も非常に重要でもあるが、ママは、母親であると同時に女性だということである。この辺のことは、計画の中に入っていると思うが、ママたちが、女性として楽しむことができる街の観点での政策があまり見受けられない。自分自身の自己研鑽的なこと、自己実現、社会との関係作り、女性としての魅力アップなどいろいろなことに関心が高いと感じている。そのママたちが、子育てだけではなく、自分自身の楽しみができる街というのは、浜松での生活が魅力的に感じると思う。この点を踏まえた政策を加えていただければと思う。
------------------	--

**【市の考え方】 盛り込み済**

ご提案の女性が楽しめるまちづくりや女性の活躍促進は、地域創生や人口減少への対応のために大変重要です。このため、産業経済分野では、社会進出をサポートする方向性を、子育て・教育分野では、地域ぐるみで子育てをサポートする方向性を、地方自治・都市経営分野では、社会で活躍できる環境づくりを、分野別計画に記述しています。

<b>提案 37</b>	中心市街地活性化策として、5年以内に JR 浜松駅南口の混雑、交通渋滞改善を行う。具体的には、JR 浜松駅南口のタクシー停車場を廃止し、巡回乗降のみとする。タクシーの停車場は駅北側のみとする。 遠鉄百貨店南側のバス乗降場を移転するとともに、現在の一方通行から西方面への通行を可能とする。 バス乗降場の移転先は現在の JR 浜松駅南口またはその他の場所とし、整備予定の駅南地下駐車場の出入りの便を良くし、利用者の増加を促す。
------------------	---

<b>提案 38</b>	中心市街地活性化策として、5年以内に旧松菱跡の再生を行う。具体的には、市内大手企業の本社ビルの建設誘致を行う。関連会社の入居も効果として見込まれ、駅周辺の持続的な活性化が期待できる。当面は、土日や夜に屋台の出る小公園として活用する。 また、10年以内に近隣の中小商店を集積し、商業総合ビルを建設し、浜松駅北口の混雑を改善する。さらに、送迎レーンの増加を行い、利便性の向上と、災害時の避難を円滑にするためのオープンスペースの拡
------------------	---

	大を図る。
<b>提案 39</b>	中心市街地活性化策として、5年以内に浜松城公園の樹木、植栽等の整備改良を行い、散策を一層楽しめるようにする。
<b>提案 40</b>	中心市街地活性化策として、5年以内に新美術館を旧体育館跡地に建設する。大通りに面しているため、観光客等の入館も期待ができ、高齢の人や障がいのある人にとっても利用しやすい。また、現在の美術館に文芸館を移転し、資料館として松韻亭と併せて、浜松城公園の価値観を一層高める。
<b>提案 41</b>	中心市街地活性化策として、5年以内に万年橋から鍛冶町の間の新川を再現し、鯉を放流するとともに、遊歩道をつくり、夏の涼を楽しむことができる昔のような情緒ある街とする。

#### 【市の考え方】今後の参考

まちなか（中心市街地）の活性化は、大変重要な課題です。基本構想では30年後の理想の姿を、創造都市・浜松の顔となる状態として記述しています。ご提案については、毎年策定する戦略計画や個別計画を定める上での参考とします。

#### 子育て・教育

<b>提案 42</b>	十分な義務教育を受ける環境に置かれなかった、外国にルーツをもつ子どもたち・若者や「できない」と見られがちな障がいのある子どもたち・若者の可能性を引き出すため、行政・民間双方の多様な担い手による「育ちを応援するプログラム」を進めてほしい。
--------------	--

#### 【市の考え方】今後の参考

子どもたちの可能性を最大限に引き出すため、基本計画では、子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくりに向けた施策の方向性を提示しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

<b>提案 43</b>	浜松市で起こる殺人事件や防犯、いじめ、暴走族などの事件がニュースやドキュメンタリー番組等で 悪い意味で全国的にも目立ってしまっている感がある。このような警察が関係しそうな問題を、実際に警察が介入するのは別に、行政或いは市民レベルで低減できないものかと考える。殆どの施策が、施設の充実や機関の体制づくりに充てられている。もう少し草の根レベルで、例えば 近所の人々が集まって何かをする、といったところで市民等の協働でどうするか、という点も施策として挙げるべきではないか。上記のような事件について多くの市民が無関心な感じだったり、自分は無関係だと言わんばかりにごみのポイ捨て、爆音で走り回る若者などをよく見かけるのが気になる。「割れ窓」理論などというものがあるように、関係する講座を開くなど市民レベルで関心を持ってもらい、各地域で、各学校のクラスでなど、小さな問題でも見逃さず小さな単位で組織し改善活動を行えるよう、何らかの様々な手段で啓蒙
--------------	---

	活動を行っていくのはどうか。市民全員が無関心ということはないと思うので、やれる人から活動が広がっていくのではないか。また一方で、条例制定や行政指導など厳しい姿勢で当たるのも大切なことだと思うが、そのような単語などが記載されていないのも気になる。例えばタバコのポイ捨ては既に罰則規定を導入している市もあり、自動車・オートバイの改造マフラーの騒音に罰則を採り入れたり、通報制度などを採り入れたりするのも良いのではと考える。特に浜松市は自動車・オートバイの生産地でもあり、他の地域の模範となれるようより積極的な活動をするのはどうか。
--	---

**【市の考え方】 今後の参考**

基本計画では、施策の方向性を提示しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

<b>提案 44</b>	人づくりに関わる現場と言えば学校である。教員側に対してのみ授業改善や研修を課すのではなく、事務作業に追われ残業を余儀なくされている教員が本来活動に専念できるよう、教育現場環境の改善がなされるような内容を付け加えてほしい。
--------------	--

**【市の考え方】 盛り込み済**

基本計画では、学校、家庭、地域が目指す子どもの姿を共有し、特色ある人づくりに取り組む旨を記述しています。学校現場だけに負担を強いることなく、地域が一体となって教育に取り組む姿勢を示しています。

<b>提案 45</b>	人財を一番の誇りとする浜松なればこそ、解決を急ぎたいこととして、「教育の現場における指導者の不足」がある。特に大切な幼児教育（幼稚園）での教員不足は大変なものがある。教育に関しては、特に策定委員の人たちに、幼稚園・小学校・中学校の現場を見ていただきたい。
--------------	---

**【市の考え方】 その他**

未来デザイン会議では、教育の現場を熟知する有識者委員にメンバーとして積極的な意見をいただいています。また、ご要望の最適な幼児教育については、戦略計画や個別計画で検討します。

<b>提案 46</b>	ひとづくりの大前提に「男女共同参画」がなければならない。男女共同参画社会は、21世紀の我が国の最重要課題であるとされているにも拘わらず、本市においても殆ど実現できていない現状である。実現するまでは不断の取り組みとして推進する必要がある。そこで、基本政策「市民協働による未来創造へのひとづくり」の中に、「一人ひとりが豊かな人生を送れるように、男女共同参画社会を醸成します」と加えてはどうか。
<b>提案 47</b>	グローバル社会に対応する力を伸ばすためには、英語教育や国際理解教育だけでは足りない。日本が国際的に劣位に評価される点にジェンダーバランスがある（日本はジェンダーギャップ指数が136カ国中105位と男女格差の強い国とされている。）。これには社会構造の問題もあるが、

	人々の意識の問題が大きく起因する。そこで、「英語教育や国際理解教育を充実することにより～」について、「英語教育や国際理解教育及び男女共同参画意識の醸成を充実することにより～」と加筆してはどうか。
<b>提案 48</b>	未来ビジョンでも感じたが、30年後のみならず、10年後の女性の地位の飛躍的向上を図る方針がない。子育ての分野には出てくるが、それだけでなく、女性の職場や地域への参加・進出は、ワーク・ライフ・バランスをはじめ社会の全領域のあり方を根本的に改善するための決定的な課題として位置づける必要がある。分野別計画「②子育て・教育」に付加するか、あるいは1項目新設し、現状・課題・方向・女性の将来像を明示することを提案する。

**【市の考え方】盛り込み済**

男女共同参画社会の醸成については、非常に重要なテーマです。このため、地方自治・都市経営分野に、「男性も子育て・介護などに主体的に関わることで、育児休業・介護休業の取得率を上昇させます」、「自治会、自主防災活動などに女性が幹部として参画するよう働きかけることで、地域での女性の活躍を推進します」、「企業がワーク・ライフ・バランスの重要性を認識し、個々の企業の実情に合った自主的な取り組みを行うための環境づくりを支援します」など、男女共同参画について盛り込んでいます。

<b>提案 49</b>	英語教育のみならず、「多言語教育」や「多文化教育」を盛り込んでほしい。グローバル社会には、今や英語だけでなく、他の言語ができることが大きな強みとなる。多民族が暮らす浜松市はその潜在力を既に持っており、英語教育だけでなく、彼らの母語・母文化を活かす教育に力を入れることが、浜松市の強みとなりうる。
--------------	---

**【市の考え方】盛り込み済**

多言語教育や多文化教育については、多文化共生を標榜する本市にとって合致する事業です。このため、地方自治・都市経営分野に、「多くの外国人市民が地域づくりやまちづくりに参画し、活躍できる環境を整えます」など、多文化共生についての視点を盛り込んでいます。

<b>提案 50</b>	教育格差の解消に「スクールソーシャルワーカーの活用」を入れてほしい。6人に1人の子どもが「貧困」と言われる時代。児童虐待を防ぎ、子どもが安心して学び、育つことができる環境づくりのために、福祉面も含めたサポートが必要。
--------------	--

**【市の考え方】その他**

スクールソーシャルワーカーの具体的な活用については、毎年策定する戦略計画で明確にしていまいります。

<b>提案</b>	食育基本法において、生きるための基本的に知識であり、知識の教育、道徳教育、体育教育の基礎となるべきもの、と位置づけられているので、
-----------	---

<b>51</b>	大切な「食育」を入れてほしい。
<b>提案 52</b>	情報教育、環境教育に加え、「食育」を加えてほしい。健康、生きる力、地域社会とのつながりを知識と身体でつなぎ、実践する教育として、ひとづくりの中に含めてほしい。浜松市の農業を支える力にもなる。

**【市の考え方】 その他**

食育について、産業経済分野では、地産地消の考えを学校教育に取り入れる方向性を、子育て・教育分野では望ましい生活習慣をはぐくむ方向性を記述しています。このほか、具体的な食育の取り組みについては、毎年策定する戦略計画で明確に記述してまいります。

**安全・安心・快適**

<b>提案 53</b>	基本構想に描かれている浜松市の未来ビジョンは素晴らしいと感じた。また、「第1次推進プラン」も素晴らしいが、現在、既に推進されている「浜松市総合交通計画」、「浜松市犯罪のない安全で安心なまちづくり基本計画」等との関係をしっかりと調整した方が、更にわかりやすいものとなるのではないか。
------------------	--

**【市の考え方】 その他**

新・総合計画は、「浜松市総合交通計画」、「浜松市犯罪のない安全で安心なまちづくり基本計画」などの個別計画の上位計画に位置づけられるものです。このため、策定段階で所管部局とも調整を行っています。

<b>提案 54</b>	「空き家・空き地の有効活用」との記載があるが、「都市農園など」と、具体的な活用方法を記載してはどうか。
<b>提案 55</b>	都市農地保全については、緑地保全のみならず、食の安全についての意識向上、防災対応機能など、その役割は大きい。また、Vertical Farming（垂直農法）という手法を使えば津波を懸念する沿岸部の資源活用さえ可能となる。さらに人口問題への対応、生産・流通・消費サイクルの向上、天候対応性、省資源化、有機農法、動物・自然生態系への影響が減少、農業従事者の環境改善（⇒福祉と農業の両立）、都市・自然双方の環境向上、エネルギー生産のメリットがあるとされている。「都市農園」をキーワードとして基本政策の適切な箇所に盛り込んではどうか。

**【市の考え方】 今後の参考**

基本計画では施策の方向性を提示しています。ご提案の垂直農法、都市農園など、実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで検討してまいります。

<b>提案</b>	「消費生活相談窓口・地域の見守りネットワークの強化、情報の活用基盤の整備を図り、消費生活の安心・安全を推進します」について、「安全・
-----------	--

<b>56</b>	安心」が適切ではないか。安全があって安心が得られるため、順序は大切である。
-----------	---------------------------------------

**【市の考え方】案の修正**

ご指摘の表現が、より適切であると判断し、次のように修正します。

**《修正内容》**

**(修正前)**

「消費生活相談窓口・地域の見守りネットワークの強化、情報の活用基盤の整備を図り、消費生活の安心・安全を推進します。」

**(修正後)**

「消費生活相談窓口・地域の見守りネットワークの強化、情報の活用基盤の整備を図り、消費生活の安全・安心を推進します。」

<b>提案 57</b>	ユニバーサルデザインというキーワードは道路で使われているが、ソフト面でも意味するよう、都市づくり全般でも使うべきではないか。 「～都心を含めたエリアへの居住を推進することでユニバーサルデザインに配慮した集約型の都市づくりを目指します」と加筆してはどうか。
<b>提案 58</b>	ユニバーサルデザインというキーワードは道路で使われているが、ソフト面でも意味するよう、都市づくり全般でも使うべきではないか。 「市営住宅については、 <u>多様な入居者のためのユニバーサルデザインの配慮を進め、定期的な～</u> 」と加筆してはどうか。

**【市の考え方】盛り込み済**

ユニバーサルデザインの視点については、行政運営全般に必要な視点です。このため、地方自治・都市経営分野に「市民の様々な特性や生活習慣の違いなど、多様性の理解を進めることで心のユニバーサルデザインが実践される社会を築きます」、  
「交通や道路、施設、情報などのユニバーサルデザイン化を促進し、多様な人々が社会参加しやすくなるように環境づくりを進めます」など、ハード面に限らないユニバーサルデザインの普及について盛り込んでいます。

<b>提案 59</b>	コンパクトなまちづくりを進めながら、増大する高齢者（運転免許返納者）の交通アクセスの向上が必要である。就労年数が上がり、高齢者の日常の買い物や通院の送迎をする家族はほとんどいなくなると考えられる。高齢者の日常生活に困らない公共交通の確保が必要である。
<b>提案 60</b>	運転免許を持っていない方や返納した方にとっての移動手段であるバスは、路線の廃止、本数の減少が進み、高齢者の足を奪っている。他県にあるようなお年寄りが乗り合いで買い物や病院に行くことができるようなサービスも必要ではないか。

**【市の考え方】盛り込み済**

高齢の人のための移動手段の確保は重要です。このため、「まちづくりの基本的



な考え方」に、交通ネットワークの強化と記述し、公共交通を含めた移動利便性の向上の視点を盛り込んでいます。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

<b>提案 61</b>	浜松市は天災も少なく、海、山、川と平地も多く、気候も温暖であり、日本一の住環境であるから、より一層のインフラ整備を行い、人口の流出を防ぎ、百万都市を目指すべきである。
------------------	---

**【市の考え方】 その他**

本格的な人口減少社会が到来する中、持続可能な都市経営をするためには、インフラは削減が必要です。新たなインフラ整備については、必要性を含めて検討する一方で、ハード面だけでなく、人口が流入する魅力ある都市の創造を進めます。

<b>提案 62</b>	中田島、浜松駅及び新都田を結ぶモノレールを建設する。津波発生時の避難路としても活用する。また、新東名や天浜線との連結により発展を促す。
<b>提案 63</b>	LRTの導入を希望する。環境に優しく、高齢者、弱者にも乗り易い電車である。今後増加が予想される渋滞や事故も減る。パークアンドライドの活用もしてはどうか。また、電車はパンタグラフ式をやめ、太陽光パネル、燃料電池等の最新の方式で給電する方式にしてはどうか。
<b>提案 64</b>	30年以内に馬込川の上島から中田島の間に水上バスを設置するとともに、両岸に桜並木を増やし、創造的なまちとする。

**【市の考え方】 その他**

基本構想、基本計画ともに集約型の都市構造への転換を目指しています。本格的な人口減少社会を迎える中、移動手段についてもカーシェアリングなど新しい考え方を取り入れながら、安全・安心・快適分野では、交通結節点の機能を高め、利便性を向上させることとしています。新交通システムの導入については、毎年策定する戦略計画などで、必要性を含めて検討してまいります。

<b>提案 65</b>	交通対策として、5年以内に交通量の多い道路の歩道整備を行う。
<b>提案 66</b>	交通対策として、5年以内に幹線道路の歩道に防護柵の設置を行う。

**【市の考え方】 今後の参考**

基本構想では30年後の理想の姿を、基本計画では施策の方向性を提示していません。実現に向けた具体的な事業は、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

## 環境・エネルギー

<b>提案 67</b>	今後高齢社会が更に進むと、犬や猫などペットの増加が予想される。それに伴い糞尿の放置をはじめとするペットによる環境の悪化も懸念される。市民のマナーの問題でもあるが、環境問題としても、ペットの増加への対応が必要と考える（ペットを飼う人への支援ではなく、ペットの被害を防止することへの支援が必要。）。
--------------	---

### 【市の考え方】盛り込み済

平成 15 年 7 月に「浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例」を施行するなど、市民のマナー向上を進めています。基本計画では、「大気、騒音及び水質の環境基準を満たす取り組みを進め、市民一人ひとりが騒音や悪臭の防止に常に心がけるよう啓発します」と記述しています。

## 健康・福祉

<b>提案 68</b>	「10 年後に向けて」の欄について「インクルージョンの考え方の普及に取り組み、住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人などあらゆる人の活躍の場を広げます」と加筆してはどうか。
<b>提案 69</b>	「インクルージョンの考え方の普及に取り組み…高齢の人、障害のある人の活躍の場を広げます」について、「高齢の人、障害のある人などあらゆる人の活躍の場を広げます」と加筆してはどうか。高齢者、障害者に限定せず、難病の人、セクシャルマイノリティ、引きこもりなどの「生きづらさを抱える人」も対象に含めてはどうか。

### 【市の考え方】案の修正

ご指摘の表現が、より適切であると判断し、次のように修正します。

#### 《修正内容》

##### （修正前）

「インクルージョンの考え方の普及に取り組み、住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人の活躍の場を広げます。」

##### （修正後）

「インクルージョンの考え方の普及に取り組み、住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人などすべての人の活躍の場を広げます。」

<b>提案 70</b>	基本政策の「人々の『つながり』をつくる社会の実現」について、「人と人との～」という表現が一般的ではないか。また、上記の「つながり」と「人々の『心身の健康と生活』を守る医療の実現」の「心身の健康と生活」を「 」で括る必要はないのではないか。
--------------	---

### 【市の考え方】案の修正

分かりやすい表現となるよう、記述を次のように修正します。

#### 《修正内容》

(修正前)

- ・人々の「つながり」をつくる社会の実現
- ・人々の「心身の健康と生活」を守る医療の実現

(修正後)

- ・ 人と人とのつながりをつくる社会の実現
- ・ 人々の心身の健康と生活を守る医療の実現

<b>提案 71</b>	障害者基本法に手話は言語であると明記されました。 手話言語法の制定に向けて全国ろうあ連盟が取り組んでいます。また、全国各地に手話言語条例が相次いで制定されています。 浜松市にも聴覚障がい者、盲ろう者へのコミュニケーションや市民に理解啓発を目的として、『「浜松市手話言語条例（仮称）」制定化を推進します。』と明記してはどうか。
------------------	--

【市の考え方】今後の参考

手話言語法の制定については、市議会も平成26年2月定例会で手話言語法の制定を求める意見書を議決し、国へ働きかけを行っています。基本計画では施策の方向性を提示していますので、実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしてまいります。

<b>提案 72</b>	「相談支援事業所などで働く職員の質の向上」について、就労支援を行っている事業所の職員の質の向上が課題となっているので、その旨も記載してはどうか。
------------------	--

【市の考え方】案の修正

原文の「相談支援事業所などで」を「障がい福祉サービス事業所など」に修正し、就労支援事業所も含めていることを分かりやすく記述します。

《修正内容》

(修正前)

「相談支援事業所などで働く職員の質の向上やグループホームなどの計画的な整備によってサービスを充実しつつ、関連団体と連携し、障がいのある人に対する市民の理解を深め、地域での支え合いの基礎を固めます。」

(修正後)

「障がい福祉サービス事業所などで働く職員の質の向上やグループホームなどの計画的な整備によってサービスを充実しつつ、関連団体と連携し、障がいのある人に対する市民の理解を深め、地域での支え合いの基礎を固めます。」

<b>要望 4</b>	ジョブコーチ・コミュニティソーシャルワーカー・アウトリーチ相談員の育成、養成も大切な政策・事業ではないのか。総合計画で明確な位置づけを要望する。
-----------------	--

【市の考え方】盛り込み済

「コミュニティソーシャルワーカーの配置を拡充」、「アウトリーチの促進」など、施策に盛り込んでいます。

<b>要望 5</b>	医療・介護・障害などの社会福祉部門のワンストップサービス部門を新設し、超高齢化社会に対応したサービスシステムの構築を要望する。
-----------------	---

**【市の考え方】盛り込み済**

社会福祉におけるワンストップサービス部門の新設は、適正な組織体制など、行政内部の施策です。このため、地方自治・都市経営分野に、「適正な組織体制と定員管理のもと、効率的で効果的な都市経営を行います」、「全職員が常に業務改善を考え、業務の効率化を図り、市民サービスを向上します」と盛り込んでいます。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしております。

<b>提案 73</b>	「高齢の人、障がいのある人など、あらゆる人が地域の中で孤立することなく、多くの人に見守られながら住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことのできるよう、在宅サービスの充実など、環境を整備します」について、比較的元気な高齢の人や障がいのある人が地域の中で気軽に立ち寄りことのできるサロンのような環境を整え、共助や支え合いの地域づくりといった施策を記載してはどうか。
------------------	--

**【市の考え方】盛り込み済**

元気な高齢の人などの共助の場については、同ページ中「元気な高齢の人の社会参加を後押しします。」などの記述に盛り込んでいます。また、ご提案の環境整備など、実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしております。

<b>提案 74</b>	「だれもが周囲の人のこころの不調に気付き、専門の相談機関での適切な相談を受けることができる環境を整え、自殺者の減少を図ります。」について、10年間の計画であれば、周囲だけでなく本人自身も自分のこころの不調に気付くことができる取り組みも必要ではないか。
------------------	---

**【市の考え方】その他**

ご指摘の、こころの不調を抱えた本人へのケアにつきましては、記述にある周囲の人への啓発に加え、現在も取り組んでいます。基本計画は、取り組みのすべてではなく、主な取り組みを記述しており、具体的な取り組みについては、毎年策定する戦略計画で明確にしております。

<b>提案 75</b>	年々の紫外線量の増加は、30年後までにはますます人々の健康に及ぼす影響が強まると予想される。全国トップクラスの日照時間は浜松の魅力ではあるが、市民は日光のマイナス面にも大きくさらされる。紫外線対策は、個人の健康管理の範疇にあるのはもちろんだが、行政としても考
------------------	---

	えていく必要がある。「子育て・教育」、「安全・安心・快適」、「環境・エネルギー」、「健康・福祉」の分野に絡む重要課題であると考え。いずれかの分野に「紫外線対策」を明記してほしい。
--	---

**【市の考え方】 今後の参考**

紫外線量の増加原因であり、オゾン層破壊の原因物質であるクロロフルオロカーボン（フロン）は、「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」、「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」等で、国際・国内的に生産等の規制がされており、世界規模の事業として着実に実施されています。こうした考えを批准する取り組みを進めるとともに、健康被害の予防などの個別の事業は毎年策定する戦略計画などで検討してまいります。

**文化・生涯学習**

<b>要望 6</b>	「まなぶ」という項目がないことが残念である。これを反映したのか、基本計画中分野別計画の「⑥文化・生涯学習」の内容でも、市民に対する生涯学習を提起する記述は皆無に近いものとなっている。市民協働の柱の一つである市民の生涯学習を強調する内容補強を要望する。
-----------------	---

**【市の考え方】 盛り込み済**

基本計画では、「『学びの連鎖』を進展させ、市民主体の学習活動を拡大します」、また、「地域の芸術家や文化団体の創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組む」など、学ぶ意欲のある人への支援を記述しています。

**地方自治・都市経営**

<b>提案 76</b>	防衛省や国土交通省などの国の主要機関の誘致を積極的に行う。
------------------	-------------------------------

**【市の考え方】 その他**

首都機能の移転については、これまで、国においても議論されていますが、実現にまでは至っていません。道州制なども議論され、国の形が大きく変わる可能性もあり、ご提案については、国の動向を的確に捉えながら、必要性を含めて検討してまいります。

<b>要望 7</b>	新市庁舎の至急の建設を要望する。現況、市民は大変不便となっている。政令指定都市に相応しい庁舎が必要である。
-----------------	---

**【市の考え方】 その他**

市役所本庁組織は複数の建物に分散し、ご不便をおかけしています。本市では、今後の人口減少・超高齢社会の到来に備え、公共施設の維持管理コストを抑えるため、施設の統合、長寿命化を進めています。このため、ご要望の新市庁舎の建設については、慎重な検討が必要と考えます。

<b>提案 77</b>	様々な地域課題を解決に導くには、当事者として多様な環境にある人々の意見をきちんと吸い上げるシステム、そして皆で合意形成のプロセスを踏むことができるシステムの構築が必要である。既存のものの問題点を整理し、さらなる改善を進めること。
<b>提案 78</b>	「選択と集中による予算の重点配分」は必要なことだが、問題は「だれが」選択するのかということである。選択のプロセスの中に、市民の目線がしっかり入るようしておくことや、男女双方の視点が必ず入るような準則も設けておくことを望む。

**【市の考え方】 その他**

多くの人による合意形成を行うシステムの構築は、行政運営を行う上で非常に重要です。このため、パブリック・コメント制度やまちづくりトークなどの広聴活動のほか、地域の代表で構成される市議会や、地域の課題を議論する区協議会が存在し、熱心な議論を行っています。基本計画では、「協働により、市民の公共への関心、自治意識を高め、市民主体で社会的課題が解決できる環境づくりを進めます」とし、市民参加を促進します。

<b>提案 79</b>	多様な視点で市政運営ができるよう、障がいのある人、外国人など多様な人材の登用を進めること。
------------------	---

**【市の考え方】 その他**

市民協働を推進するためにも、多様な人材の登用・活用は重要です。地方公務員法の規定により、外国籍の人の採用には一定の規制がありますが、障がいのある人を含め、ご要望の、市政運営に多様な視点を導入について、「社会環境の変化に柔軟に対応できる職員を育成します」など、施策を記述しています。

**参考 地方公務員法（抄）**

（受験資格）

第十九条 競争試験は、人事委員会の定める受験の資格を有するすべての国民に対して平等の条件で公開されなければならない。試験機関に属する者その他職員は、受験を阻害し、又は受験に不当な影響を与える目的をもって特別若しくは秘密の情報を提供してはならない。

<b>提案 80</b>	「協働センターを核として、市民主体のまちづくりを進めます」とあるが、「政策体系」では「市民一人ひとりが活躍する市民協働の推進」と抽象的な表現にまとめられてしまっている。協働センターの機能や活用法については、市民が具体的イメージを持てるように、また実際に機能するように早急に具体化していく必要があるのではないかと。今でも「市民
------------------	--

	協働センター」と各「協働センター」との役割の違いが分からない、とする市民の声はたくさんある。プランのなかでも、もう少し具体的なイメージが持てるような説明的表現も要るのではないか。
--	---

**【市の考え方】 今後の参考**

基本計画では、施策の方向性を提示しています。ご提案の協働センターの機能や活用方法の具体化など、実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

・ 政策体系

<b>提案 81</b>	文化・生涯学習中、「知の拠点としての図書館機能の拡大」の拡大について、あいホール（浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター）の図書室のシステム化も含めていただきたい。全国の男女共同参画センターでも図書事業は重要な位置を占めている。あいホールでは、男女共同参画の視点を伴った、豊かな暮らし・生き方に関する図書を中心に扱っている。これにシステム化により市民の利用が増えれば、市民生活や文化の向上につながる。
------------------	---

**【市の考え方】 今後の参考**

基本計画では施策の方向性を提示しています。ご要望のあいホールの図書室のシステム化など、実現手段に向けた事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

区協議会とのやりとり（諮問・答申）

【諮問実施日】	中区（8月21日）、東区（8月29日）、西区（8月27日）、南区（8月20日）、北区（8月28日）、浜北区（8月21日）、天竜区（8月29日）
【答申内容】	すべての区協議会において、「適切」との答申であった。
【意見数内訳】	29件 （提案 1件、要望 28件、質問 0件）
【案に対する反映度】	案の修正 0件      今後の参考 14件 盛り込み済 5件      その他 10件

目 次

○全体（意見数 13件）	1 ページ
○浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン（案）	
・全体（意見数 0件）	
・都市の将来像（意見数 0件）	
・1 ダースの未来（理想の姿）	
つくる【創る】（意見数 0件）	
たかめる【高める】（意見数 0件）	
いかす【活かす】（意見数 0件）	
めぐらす【巡らす】（意見数 0件）	
つなぐ【繋ぐ】（意見数 0件）	
みとめあう【認め合う】（意見数 0件）	
ささえあう【支え合う】（意見数 1件）	3 ページ
はぐくむ【育む】（意見数 0件）	
みのる【実る】（意見数 0件）	
はたらく【働く】（意見数 0件）	
かえる【変える】（意見数 0件）	
むすぶ【結ぶ】（意見数 0件）	



○浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン（案）

・全体（意見数 1件）	4 ページ
・未来ビジョン（基本構想）を受けて（意見数 0件）	
・都市経営の考え方	
市民協働で高める地域力（意見数 0件）	
未来まで続く持続可能なまち（意見数 0件）	
未知の感動を生み出す創造都市（意見数 0件）	
想定外にも対応できる自立・自律したまち（意見数 0件）	
世界とツナグ・地域とツナグ（意見数 0件）	
・まちづくりの基本的な考え方（意見数 1件）	4 ページ
・分野別計画	
分野別計画の構成（意見数 0件）	
産業経済（意見数 2件）	4 ページ
子育て・教育（意見数 2件）	5 ページ
安全・安心・快適（意見数 3件）	5 ページ
環境・エネルギー（意見数 1件）	6 ページ
健康・福祉（意見数 1件）	6 ページ
文化・生涯学習（意見数 2件）	7 ページ
地方自治・都市経営（意見数 2件）	7 ページ
・政策体系（意見数 0件）	

## ○全体

<b>要望 1</b>	平成 17 年に 12 市町村が合併し、平成 19 年に政令指定都市になった浜松市において、市民の一体感を醸成するモチベーションを生み出す計画にしていきたい。
-----------------	---

### 【市の考え方】盛り込み済

基本構想では、都市の将来像を「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」と定めています。市政運営の中軸を担う市民の一体感の醸成は、非常に重要ですので、未来デザイン会議委員が中心となり、市民との共有を念頭に置いた計画を策定しました。

<b>要望 2</b>	基本構想（案）、基本計画（案）の中で、「理想の姿」という表現が使われているが、この「理想の姿」という理念を追求していく表現は疑問に思う。30 年後の浜松市未来ビジョンに向けて着実に推進していく期待感が持てる表現にするのが適当と思う。
-----------------	--

### 【市の考え方】今後の参考

新・総合計画の策定に当たり、まず、「未来の理想の姿」を定め、それに向かって、今、何をすべきかを決定する「バックキャストिंग」という手法を用いています。現状認識・課題分析を行い、そこから政策を立案する「フォアキャストिंग」とは逆の手法を用いているため、「理想の姿」を記述しています。ご要望の「理想の姿」実現に向けた事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていります。

<b>要望 3</b>	計画が壮大で具体的なイメージが描きにくいので、計画の中で目標が数値化できるものについては、出来るだけ数値化していただきたい。
<b>要望 4</b>	平易や用語の使用や、具体的な施策や数値目標を示す等、市民がより理解しやすい計画の策定に努めること。

### 【市の考え方】その他

特定の事業評価に対し、数値目標は有効です。新・総合計画は、基本構想では 30 年後の理想の姿を、基本計画では 10 年後の目標を記述しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていります。また、数値目標は、今後設定をし、参考資料として記述します。

<b>要望 5</b>	計画の評価については、PDCA サイクルで評価し、その結果必要があれば見直すとしているが、評価をする場や、見直し方を決める場に、市民の声を反映させる会議などを設置し、その内容を市民に公表していただきたい。
-----------------	--

### 【市の考え方】その他

政策・事業の評価や見直しの際に、多くの市民のご意見をいただく場は重要です。

このため、市民の代表である議会で審議いただいているほか、すべての政策・事業について評価を実施し、その結果について、市民からご意見を伺っています。

<b>要望 6</b>	今後予想される少子高齢化や産業の空洞化などによる市財政の状況を市民に説明し、現在の政策やサービスが今後は縮小されることを明記して、市民が自立し自己責任で生活設計を立てることが必要であると伝えることも必要と考える。
-----------------	--

**【市の考え方】その他**

人口減少・超高齢社会が到来する中、市政運営はこれまで以上に選択と集中を行う必要性が高まります。このため、基本構想では、都市の将来像を「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」と定め、市民の一人ひとりが市政運営の主役である理念を掲げています。

<b>要望 7</b>	計画の策定と併せて、意見の調整を図ることを大事にしていきたい。
-----------------	---------------------------------

**【市の考え方】その他**

計画の策定段階では、多くの人のご意見を聞き、計画に反映させることは大変重要です。このため、新・総合計画は、136人の市民インタビューを行った上で、市民が中心となった未来デザイン会議で策定を進め、市議会とも綿密な意見交換を行うとともに、パブリック・コメントを実施し、区協議会へ諮問を行いました。

<b>要望 8</b>	広く情報を提供し、周知していきたい。
<b>要望 9</b>	基本構想である30年後の都市の将来像について、市民が想像しやすいような情報発信に努めること。
<b>要望 10</b>	市が目指す将来像が市民に広く浸透するよう、計画の周知徹底に努めること。

**【市の考え方】今後の参考**

ご要望のとおり、新・総合計画は市民と共有するための取り組みが大変重要です。確定後、次年度からの事業展開の参考とします。

<b>要望 11</b>	30年後を見据えた計画は素晴らしいが、今から30年前に計画されている事業が未だ完了していない。この現状を理解していただき、事業に取り組む優先順位を付けるなどして、実現可能な計画にしてほしい。
------------------	---

**【市の考え方】今後の参考**

政策・事業の優先順位付けは重要です。新・総合計画（案）は、基本構想が30

年、基本計画が10年という長期計画としました。このため、今後の市政運営が硬直化することのないよう、基本計画の段階では重要度・優先順位付けについては行わず、実施計画レベルの戦略計画などで社会情勢の変化を考慮しながら、明確にしてまいります。

<b>要望 12</b>	社会情勢の変化などにより見直しが求められることを念頭に置き、短期的に検証する仕組みを構築すること。
------------------	---

**【市の考え方】その他**

計画の検証は大変重要です。このため、基本計画の実現に向けた具体的な事業について毎年策定する戦略計画で明確にし、それに基づいた「政策・事業シート」を作成し、評価を行い、すべての事業についてPDCAサイクルにより管理しています。

<b>要望 13</b>	円滑な計画推進のため、国の施策方針と整合を図っていくこと。
------------------	-------------------------------

**【市の考え方】今後の参考**

国の方針を意識した市政運営は必要です。このため、毎年度策定する戦略計画で、国の施策とも整合を図り、事業を立案してまいります。

○浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン（案）

・1 ダースの未来（理想の姿）

ささえあう【支え合う】

<b>要望 14</b>	単独高齢者世帯が増加する中で、「つながり」をキーワードに市民の誰もが安心した生活を送ることができる都市を目指してほしい。特に、「介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流により、いつも笑顔が絶えません」とあるが、是非実現し、「浜松方式」として国の手本になっていただきたい。
------------------	--

**【市の考え方】その他**

高齢者介護施設と保育園の併設については、既の実施している施設が存在します。今後についても、毎年策定する戦略計画などで、具体的な事業を検討してまいります。

## ○浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン（案）

### ・全体

<b>要望 15</b>	基本構想として30年後の理想の姿を示していることについては良いものだと思うが、10年間の基本計画については現状分析を行い、各分野の具体性のある計画を記載していただきたい。
------------------	---

#### 【市の考え方】その他

新・総合計画の策定に当たり、まず、「未来の理想の姿」を定め、それに向かって、今、何をすべきかを決定する「バックキャストिंग」という手法を用いています。現状認識・課題分析を行い、そこから政策を立案する「フォアキャストिंग」とは逆の手法を用いているため、現状分析を記述していません。基本計画では施策の方向性を記述していますので、実現に向けた具体的な事業は、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

### ・まちづくりの基本的な考え方

<b>要望 16</b>	浜北副都心構想は、将来の都市機能の分担、ネットワーク化を浜松市全体の発展につなげることを目的に策定されたものであり、新・総合計画との整合性を図る必要がある。基本計画の3「まちづくりの基本的な考え方」について、「②市街地」をよりメリハリの効いたものとするため、副都心としての位置づけを明確にしてほしい。
------------------	--

#### 【市の考え方】その他

浜北副都心構想については個別計画で考え方、施策、事業などを示してまいります。

### ・分野別計画

#### 産業経済

<b>要望 17</b>	現在の産業にとどまらず、若い人たちの労働環境向上のためにも新たな産業の創出を図っていただきたい。
------------------	--

#### 【市の考え方】盛り込み済

新産業の創出は、本市の持続的な発展のため、非常に重要です。このため、「国内外の大学や企業、産業支援機関、金融機関のネットワークを構築し、新産業の創出を促進します」、「地域企業の新たな事業展開や成長産業へのチャレンジを支援します」などと記述しています。

<b>要望 18</b>	森林や林業は、浜松市及び天竜区の将来へ引き継ぐべき大事な資源であり、また、基幹産業である。こうしたことを踏まえて計画内容を充実してほしい。
------------------	---

### 【市の考え方】今後の参考

森林は大切な資源であり、「命の源である水・水の源である山」は貴重な財産です。また、林業についても、基本構想で「『Tenryu-zai』は世界に通用するブランドとなっています」などと、その重要性を記述しています。これを基に基本計画では施策の方向性を記載しました。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

### 子育て・教育

<b>要望 19</b>	公立の学校であっても、各学校で特色のある教育を行っていただきたい。
------------------	-----------------------------------

### 【市の考え方】その他

ご要望の特色ある教育については、「学校・幼稚園特色化推進事業」を既に実施しており、家庭や地域との連携より、地域や子どもの実情に応じた特色ある園・学校づくりを進めています。

<b>提案 1</b>	基本計画に、30年後に働く力になる子どもたちを育てていく環境を整え、活力に溢れた街になるような具体的な取り組みなどを盛り込むことで解りやすくなると思う。
-----------------	--

### 【市の考え方】今後の参考

30年後の主役を担う子どもたちへの教育は非常に重要です。このため、「浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）」を、「地域の宝として愛情を注がれた子どもたちは、浜松に誇りを持ち、世界を舞台に活躍している」と記述しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいります。

### 安全・安心・快適

<b>要望 20</b>	コンパクトシティという言葉はよく聞くが、その概念が明確でなく受け取る人によってそのイメージがまちまちであるので、浜松市の目指すコンパクトシティの概念を市民に十分説明をしていただきたい。
------------------	--

### 【市の考え方】盛り込み済

ご要望の本市の目指すコンパクトシティの概念については、「まちづくりの基本的な考え方」へ、方向性を提示しました。また、市民へのご説明については、浜松市新・総合計画の周知方法についてのご提案と理解し、確定後、次年度からの事業展開の参考とします。

<b>要望 21</b>	浜松市では、人の移動手段は自動車が多い現状であるが、人も車も安心・安全な道路の整備をしていただきたい。
------------------	---

#### 【市の考え方】今後の参考

基本計画では「歩道や道路照明などの老朽化対策とともに、ユニバーサルデザイン化や『自転車空間』の整備を進め、道路環境の安全性の向上を図ります」と記述し、施策の方向性を提示しています。実現に向けた具体的な事業は、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

<b>要望 22</b>	現在の公共交通機関は、浜松駅を中心とした放射線状の路線が多いが、今後さらに高齢化が進むことから、利用者のニーズを十分把握し、利用しやすい路線の整備を行っていただきたい。また、駅周辺や人が集まる場所には、駐輪場の整備もしていただきたい。
------------------	---

#### 【市の考え方】今後の参考

基本計画では「まちづくりの基本的な考え方」で、拠点ネットワーク型都市構造を目指すとし、安全・安心・快適分野では、交通結節点の機能を強化すると記述しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

### 環境・エネルギー

<b>要望 23</b>	今後も地球規模で温暖化が進むことが予想されており、現在の農作物が生育しにくい環境になると思われるので、新しい農作物なども視野に計画の策定をしていただきたい。
------------------	--

#### 【市の考え方】今後の参考

新しい農作物の研究は、農業従事者からの依頼を受け、バイオセンターが行っていますが、今後の産業経済分野では、農業の担い手確保や農地の集約、6次産業化支援などの農業振興を進めることとしています。具体的な事業については、環境の変化を見て、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

### 健康・福祉

<b>要望 24</b>	基本計画の分野別計画⑤「健康・福祉」のうち「人々の『心身の健康と生活』を守る医療の充実」について、「各種がん検診（肺、消火器、乳房、子宮、卵巣、前立腺等）を充実し、早期発見・早期治療を行い、人々の健康と生活を守ります」の項目を加えてほしい。
------------------	--

#### 【市の考え方】今後の参考

がん検診の充実につきましては、市民の健康を守るために必要な事業です。基本構想では30年後の理想の姿を、基本計画では施策の方向性を生活習慣病の予防と重症化の予防とし、記述しています。実現に向けた具体的な事業については、毎年策定する戦略計画などで明確にしていまいます。

## 文化・生涯学習

<b>要望 25</b>	今後は、市内の文化施設においても老朽化は避けては通れない問題であるが、地域住民や利用者をはじめ市民に十分な説明を行い、理解を得るように努めていただきたい。浜松市に根付いた文化を絶やすことのないようにしていただきたい。
------------------	--

### 【市の考え方】今後の参考

地域に根付いた伝統文化の継承については、基本構想「つなぐ【繋ぐ】」などでその理念を記述しました。公共インフラや文化施設などの公共建築物については、施設の長寿命化とともに、保有財産の売却などを進めることとしています。こうした場合、市民に対し十分な説明を行い、理解を得た上で進めてまいります。

<b>要望 26</b>	基本計画の分野別計画⑥「文化・生涯学習」の項目について、市の抱える課題に対し市民自身が考えるためにも、市のさまざまな機関を活用した、市民を育てるという意味での生涯学習を盛り込んでほしい。
------------------	---

### 【市の考え方】盛り込み済

基本計画では、「『学びの連鎖』を進展させ、市民主体の学習活動を拡大します」、また、「地域の芸術家や文化団体の創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組む」など、学ぶ意欲のある人への支援を記述しています。

## 地方自治・都市経営

<b>要望 27</b>	公共インフラの廃止・統合も今後必要になってくることが予想されるが、市民をはじめ関係者に対しては事前に十分な説明をして理解を得るよう努めていただきたい。
------------------	---

### 【市の考え方】今後の参考

地域に根付いた伝統文化の継承については、基本構想「つなぐ【繋ぐ】」などでその理念を記述しました。公共インフラや文化施設などの公共建築物については、施設の長寿命化とともに、保有財産の売却などを進めることとしています。こうした場合、市民に対し十分な説明を行い、理解を得た上で進めてまいります。

<b>要望 28</b>	行政が持つ権限や意思決定などの役割分担も視野に入れ、市民などが主体となって地域の課題を解決する地域力をさらに高めるようにしていただきたい。
------------------	---

### 【市の考え方】盛り込み済

市民が主体となり、地域の課題を解決することは、今後の市政運営の柱です。このため、基本構想では「都市の将来像」を「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」と定めています。



## 第6回 浜松市未来デザイン会議 議事録

平成26年7月26日（土）2時00～3時13分

浜松市役所本館8階 全員協議会室

### 1 開 会

(事務局) ただいまから、第6回浜松市未来デザイン会議を開会します。進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学 根本学部長にお願いします。よろしくお願いします。

### 2 策定スケジュールについて

(根本学部長) こんにちは、本日はありがとうございます。この会議も大きな枠組みとしての最終段階に来ています。当然我々だけの議論だけではなく、庁内・議会でも議論される訳ですが、この後市民の皆さんの目から見たご意見をいただくこととなります。本日はそのためのパブリック・コメント案についてご議論いただきます。暑い中ですが、真剣かつ真摯な議論になるよう努めますので、よろしくお願いします。

では毎回確認していますように、今我々がどこにいるのか、スケジュールの確認をしたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料2説明)

(根本学部長) ありがとうございます。進め方と今後の予定ですが、皆さんからご質問等ありましたらいかがですか。これは手順ですので、こういうことだということでご確認いただければと思っています。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

### 3 未来ビジョン（基本構想）パブリック・コメント案について

#### 4 第1次推進プラン（基本計画）パブリック・コメント案について

(根本学部長) それでは議事を進めていきます。本日の一番重要な議事であります未来ビジョン、基本構想のパブリック・コメント案、並びにその基本構想を踏まえた第1次推進プラン、こちらのパブリック・コメント案、両方関連が強いと思いますので、あわせて事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料3・4説明)

(根本学部長) どうもありがとうございます。基本構想と基本計画をあわせて説明いただいて、さらに参考資料、これは新しい内容だと思いますが紹介いただきました。委員の皆さんからご意見をいただくということになります。これは確か事前に配布されていますね。ですから説明の時間は決して充分なものではなかったかと思いますが、一応お目通しいたげているということで、すぐに意見交換に入っていきたいと思っています。それでは今、説明いただいたパブリック・コメントの案についてご発言をお願いします。重ねての説明になりますがビジョン、基本構想の方は前回の未来デザイン会議の発言を中心に、字句の訂正や言葉遣いを少し分かりやすくしたというのが

大きな修正点だと思います。基本計画の方は、同様に言葉遣いの修正ですとか、行政用語や専門用語であろうという部分には注釈をつけたということです。ですから基本的には内容が大きく変わったということではないと思います。これをこの後、市民の皆さんに広くご覧いただくということですが、今、申しましたようにこれまでのデザイン会議の議論がちゃんと反映されていますね、という確認と、最後の段階でここはちょっと直す余地があるのではないかと、ということだと思っています。市議会への提案まで時間的な制約がありますので、すぐパブリック・コメント、そしてそれがまたフィードバックされて、この会議や議会での議決に進んでいくのですが、今日いただいた意見で今日この場でコンセンサスがとれるものはこの場で決定したいと思います。どうしても宿題が残るようであれば、次回の最終回に向けて市民の皆さんの意見も踏まえて最終の決着にもっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。ではいかがでしょうか。

(石倉委員)

第1次推進プランの5ページですが、今更になって申し訳ないのですが、「コンパクトでメリハリの効いたまちづくり」と書いてありますが、さらに「中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに交通ネットワークの強化」と書いてありますが、中山間地域にも拠点を作るとどこかに書いてあったと思います。拠点ネットワーク型都市構造というのが中山間地域にも拠点を作るという考え方でよろしいですか。そうですね。それがちょっと分かりにくいので、こちらの「中山間地域においては」のところに拠点を形成するというを書いた方が良いのではないかと印象を受けました。このままだと中山間地域において行われるのは交通ネットワークの整備と田舎暮らしの推進だけというように思ったのですがどうでしょうか。

(根本学部長)

その拠点というのはどこの件ですか。

(石倉委員)

5ページの3行目。「人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造を目指します」というところです。

(根本学部長)

はい、具体的にこの部分に言葉を足すとか提案をいただけると良いのですが。先ほど言いましたように中山間の施策の方向として、田園で暮らせるということ、交通のネットワークで都市部との交流が促進する、だから中山間の中でもメリハリをつけたサービス拠点的な機能が規模は小さいけどあるのだということが分かるようにということですか。

そうですね。一応文章構成上は最初の4行で全体のことを言って、次の段で個別の話になっていますから、市全域にわたり、みたいな形容詞を付けるというのはどうでしょうか。つまりこれは単に都市的な土地利用のことを言っているのではなく、市全域にわたってメリハリをつけた拠点ネットワークというふうにすれば中山間もカバーされているというふうに読める気がします。まずはそういう案を一つお願いします。あとはいかがでしょうか。

(長澤委員)

推進プラン10ページの産業経済のところ「世界の一步先を行く産業・サービスの創造」ということで、ものづくり、サービスも含めて全体的に書かれていると思いますが、これが出ていく時に、ものづくりとサービス

を分けたらどうかという提案です。ものづくりとサービスを具体化していく中で分かれていた方が分かりやすいのではないかと思います。分けることによって具体的にどんなことをものづくりでやっていくのか、サービスでどんなことをやっていくのかが分かりやすくなるのではないかなという提案です。それからもう一点29ページ「文化・生涯学習」のところですが、10年後の姿の中で新しい産業が創出されているということは書かれているので、だとするとその上の1ダースの未来の中に01も入っていた方がイメージとしては良いのではないかと思います。以上です。

(根本学部長) 2点ご指摘いただきました。29ページの文化・生涯学習の未来の姿には01も入れた方が良いのではないかと思います。基本構想の方を見ますと、3ページに1ダースの未来の一つ目「つくる」に見たことのない感動をつくる。ここの1ダースの未来というのは冒頭参考資料の説明がありましたように、1対1に細分化されている訳ではありませんので、色んな領域に関連性が付く訳です。極端に言えばどれもこれも全部12個繋がってしまうと言えなくもないのですが、それではかえって分かりにくくなってしまいますので、代表的なものがここに載っている訳ですね。この子育て教育の施策の体系の中にその未来像の一つとして12のうちの01「つくる」を追加したらどうかということですがいかがでしょうか。ご異論がなければ、まずは追加してみたいと思います。つくるという項目とは関連性が強いという気がしますがいかがでしょうか。

(田中委員) つくる、創造ですから、人間の関係や産業、両方繋がると思うので、私は入れて良いと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。他はいかがでしょう。何度も申し上げますように、また再度市民の皆さんの目を通してまた戻ってきますから、今日の段階としてはこれを追加してみたいと思います。前者のご指摘の方は、基本計画10ページですね、ここは産業とサービスが併せて記述されているがものづくりで発展してきた地域の産業の話とサービスの話は少し分けた方が、というお話でしたが、もうちょっと具体的にビジュアルなイメージで提案いただけると良いと思うのですが。

(長澤委員) はい、主旨としては、これを見た時に産業とサービス、その事業という意味ではくくられてしまうのですけれども、ものづくりであれば新産業、成長産業の部分ですとか、サービスで言うと、まちづくりの形成などが強く関連性があると思います。両方記載してありますが、それを分けることによってより具体的な政策が市民の方に分かりやすくなるのではないかと思います。というのが提案の主旨です。

(根本学部長) 他の委員の皆さんから関連のご意見はいかがですか。

(松尾委員) 今の点ですが、どのようにものごとを捉えるかということもあると思いますが、この先を考えた時に、日本は大量生産の拠点になるというよりは、ものづくりとサービスというものを、多分大量生産とサービスみたいな感じに今のご発言は感じたんですが、そうではなくて多分、多品種少量生産とサービスが連携した格好でのものづくりに、もしかしたらシフトしてい

くのではないかという思いがあつて、そこを分けてしまうのは良いことか悪いことかの判断がつきかねているというのが正直なところです。

(根本学部長) 他はいかがでしょうか。

(田中委員) お二人の意見が出ましたけれども、産業を興すことによって、単純な考えかも知れませんが、それをフォローしていくのがサービスだと思います。ですから折角良いものを作ってもフォローがないと後に続かないということで、私はこのままで良いと思います。

(根本学部長) 他はいかがでしょうか。例えばということで論点をまとめてご提案したいと思いますが、一つの観点としては例えば小見出しを付けて(1)(2)というやり方もなくはないですが、ここでそれをやると、他の施策も全部そうなるというテクニカルな問題も考えなければいけません。それはともかく中身の問題として、片や11ページをご覧くださいますと、農林水産業の6次産業化というのも出ています。それからサービスというのをどう捉えるかということも田中委員から、フォローするような、取り囲むようなという、確かにそのようにして我が国のサービス産業というのは発達してきた訳ですけれども、浜松市が掲げている創造都市という話になると、むしろそういったソフトをコアにして産業が広がっていくというようなビジョンもあろうかと思えます。そこで色々ご意見があると思いますが、私からご提案ですが少し◆のコメントを精査して、小見出しこそ付けませんが、上半分と下半分とか、並べ方を工夫することはできないかと思えますがいかがでしょうか。どちらかというものづくり系で発展してきた産業の話前半、サービス系の産業の話後半に持ってくる。ただし両者は密接に関連していますから、両方にまたがるようなものが真ん中くらいに来るように。この枠組みを作った後、更に細分化した事業計画のようなものがここに続きます。ですから今日のご指摘はその事業計画に繋げていく段階で、ちゃんと事業部局のどこに責任があるのか、というのが分かるように、繋がるように処理できればと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

では他のご指摘がありましたらいかがでしょうか。

(石倉委員) 推進プラン9ページ下の方にワンストップサービスと書いてありますが、これは注釈を入れた方が良いのではないのでしょうか。

(根本学部長) はい、できるだけ横文字は避けるか、注釈を付けるというのが良いと思います。

(石倉委員) 未来ビジョンの方ですが、11ページ「みのも」 「いつでも快適で質の高い生活を」に「ロボットスーツ」と書いてありますが、個人的にここまで限定していいのかなと思います。30年後はもはやこういうのも一新されていたらちょっと時代遅れになってしまう。むしろもっとあいまいな表現が良いかと思いました。

(根本学部長) 前半のご指摘「ワンストップサービス」これは注釈を入れた方が良いで

しょうね。それに限らず今のご指摘は他の部分でも、片仮名、横文字言葉は注釈が必要な部分が出てくるかも知れません。それから2つ目のご指摘の基本構想11ページ、超高齢社会を支える色々な技術的な補助手段が未来社会には出てくると思います。ロボットスーツまで限定してしまわない方がむしろ良いのではないかということですね。これは痛し痒しなんですね。あまり抽象的にしてしまうと分からなくなる、かと言ってこれを書いて実は普及しなかったというともずいずいですね。或いはもっと違った形のもので普及するかも知れません。ここは他の皆さんのご意見はいかがですか。私が提案するとしたら、ロボットスーツに限定しないけれども、もう少し幅を持った補助するシステムが他にもいっぱいあります。これはかなりハイテクなイメージで書いてありますが、もうちょっとローテクで、自分で作る自助具なども普及が始まっていますから、広がりを持った記述に直すということで事務局にお引き取り頂きたいですが、他の委員の皆さん、いかがでしょうか。敢えてロボットスーツという言葉だけをここに書くというより、もうちょっと幅を持たせようという提案ですが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

では他のところにいきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(河原委員)

東日本大震災があつて、防災ということが大切だというのは市民全員が理解している訳ですが、段々日が経つにつれて少しずつ忘れて行くというのも確実な現状であると思っています。推進プランの17ページに「安全・安心・快適」というところがあり、10年後の姿の実現に色々と防災対策が書かれています。また上に10年後の姿として「災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている」となっています。私は社会教育という中だけでなく、これからの社会を背負っていく子どもたちの子育て・教育の中でも防災の教育をやっていく必要があるのではないのかなと思ひまして、13ページの子育て・教育を見ていきましたが、防災ということは入ってきません。ただ一つだけ「市民協働による未来創造へのひとづくり」に「学校、家庭、地域が防災・防犯に関する連携を強め」ということだけが入っているのですけれど、ここに防災教育を入れていただいで、通常の教育の中でもやっていっていただいた方がよいと思ひました。それからもう一点は、後のことになると思ひますが、32ページに「『浜松市未来ビジョン』の実現に向けて、適切な進捗管理を行います」ということで、先ほどここに数値目標を出してやっていきたいと思います。参考資料2を見ましたので、ある程度具体的に数値目標とか、設問というのを考えていると思ひますが、本当に数値目標は難しいし、設問も答えやすい、分かりやすい質問でない、あやふやになって数値がとても高いけれど実際は微妙なところでちょっと違うのではないかというのがありますので、今の段階では具体的な進捗管理体制はできていないと思ひますが、数値目標を定めたら現状把握をして、確実に実現できるという体制づくりをしていくということが、この問題に関わった人間としてはとても大切なことだと思ひますので、その辺も慎重にやっていただきたいと思ひます。

(根本学部長)

最初のご指摘、防災、そして教育との関連について他の委員の皆さんい

かがでしょうか。

(石倉委員)

確かに防災の教育の話は入れた方が良くと思います。行政だけが防災を意識するというのは今の世の中ではカバーしきれないというのはこれまで起きた災害の事例でよく分かっていることですので、むしろ行政はきちんと対策もしていくし、市民自体も対策していかなければいけない分野だと思うので、教育という指摘は良いと思います。

(根本学部長)

後はいかがですか。

(石川委員)

大体同じ意見ですが、災害があると自分の命を守ってくれるのは行政だ、助けがないなんておかしいなんていう考えにならないように、主体的に自分の命は自分で守るという術を小さいうちから育てるということとはとても大切なことだと思います。

(根本学部長)

防災の政策として教育は重要であるということについての異論はないと思います。ではどこに入れるか私も考えたのですが、教育に期待されることは多々ありまして、おそらく人権教育、環境教育、全部書かなきゃいけなくなってしまうかも知れない。教育に書いた方が良いか、防災に書いた方が良いかとずっと考えていたのですが、防災の方に記述を充実していくというのはいかがでしょうか。例えば防災の18ページの基本政策で、「安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり」という項目がありますね。ここが地域の学校、家庭、教育、職場。ここは消費者教育には触れているのですが、この部分は記述も少ないので、今ありましたように子供の頃から、就学児童の頃からきちんと安全・安心の防災の教育を地域や家庭一丸となって進めていくという記述をここに加えてはいかがでしょうか。更に一委員として個人的な意見を言いますと、色々な意味で社会的な、市民の皆さんが主体的に行う活動の中に防災の機能をきちんと位置付けていくというようなことも記述できると良いかなと思います。色々伝え、訓練もするのですが、それがいざという時に機能が発揮できないこともあります。ですから18ページの記述にもう少し教育ですとか、市民の主体的な参加みたいなものの記述を充実するというのを提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ではもう一点の進捗管理のことです。32ページ、数値目標をどのレベルに入れるかは様々です。痛し痒しのところがあって、あまりがちがちにしてしまうと手足を縛られる恐れがありますし、かと言ってあまり抽象的なものだけで終わっていてもいけません。今日は参考資料ということで、単に言葉だけでやっている訳ではないと説明がありました。これも提案ですが、32ページの記述の中に数字そのものを入れるのではなく、可能なものについては数値目標を掲げる等をして、きちんと具体的な進捗管理ができるように努めますというような記述を入れてみたらどうでしょうか。数値そのものを入れるのではなく、客観的指標によって計画の進捗を管理していきますという記述を加えたらと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは他のご指摘・ご意見いかがでしょうか。

(石倉委員)

また細かい話になってしまいますが、第1次推進プラン3ページですが、「未来まで続く持続可能なまち」とあって、「ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスを」と書いてあります。この二つの注釈を見ると、多分一般の方は違いが分からないと思います。行政の意見を聞きたいのですが、わざわざ分ける必要があるのか、意図的にこれは両方書いてあるのかを聞きたいのですが。

(根本学部長)

事務局いかがですか。

(石倉委員)

付け加えると、市民が読んだ時に混乱するのではないかと思います。

(事務局)

ご指摘の通り、ちょっと分かりにくい点がありますので、もう少し分かりやすいように整理をしたいと思います。

(根本学部長)

これは概念が被るので、記述上の工夫をしてみることをお願いします。後はいかがでしょうか。

(松尾委員)

まず未来ビジョン5ページの「िकास」ですが、「地の利を活かしたエネルギー」3行目に「ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ」とありますが、これはできれば逆にさせていただきたいと思います。「研究開発が継続的に行われ、ものづくり産業の技術力によって」と記述した方が良いと思います。技術力という言葉と研究開発という言葉では研究開発が本来先にあるもので、その後技術が出てきます。これだと逆かと思います。また、触れるべきか迷っていることがあるのですが、地の利を活かしたというのは確かにその通りで、太陽光、バイオマスなどは地の利で良いと思うのですが、現実にはこの先ここで使っていないといけないエネルギーを考えると、地中熱、潮力、波力が絡んでくると思います。ここに書くべきなのか、一番下の多種多様なという言葉の中に入っているのか、ただ入っているにしても何も触れていないと、気が付かないまま終わってしまうかもしれないので、例示を少し上げるかというような書き方をするか、どちらが良いか分かりませんが、それがずっと気になっています。それからその関係で、推進プランの方でも同じところを思っています。その辺を例示して上げるべきか、多種多様の中に入っているからそのまま済ませるべきか、というのを思いながら見えています。

(根本学部長)

一つ目のご指摘は5ページ4行目5行目です。確かに一般的にはまず研究開発があって、技術が実現していくということだと思いますので、これはご指摘のような修正でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

2点目のことですが、実はこれも申し上げようかどうか迷っています。コーディネーターというのは着地させる役割なのですが、あえて広げてしまうと、水素エネルギーという話も出てきていますね。未来ビジョン会議の中でも核分裂というのは未来技術ではなく、むしろ未来は核融合じゃない

いかという指摘もありました。ここはあまりこれとこれをやります、それ以外はその他諸々というように、あまり限定的に書いてしまうと、可能性がむしろ狭まることになりはしないかと思いました。ただ地の利を活かしたということでは、確かに日本一日照時間が長いとかいう有利な点がある訳です。ご指摘いただいた多種多様な再生可能エネルギーに注釈を付けるという手法もあります。再生可能エネルギーとは、と書いて、注釈として太陽・風力だけではなく、潮力、波力、地熱などが入ると注釈を付ける、あるいは本文中に展開して書いても良いと思います。いずれかで対応できます。今ご指摘いただいた地の利ではないかも知れませんが、色々な再生可能なエネルギー源を未来の社会ではどんどん開拓して使うように努力しましょうというのが分かるような記述をしたらいかがかと思います。関連して何かご指摘はいかがでしょうか。

(石倉委員)

関連して、と言えるかどうか分らないですが、多くの市民が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しているというふうに「いかす」には書かれているのですが、これは4段落目の2行目、市民と書いてありますので、企業を付け加えてほしいと思います。市民より企業が電力を使うというのはあると思います。市民は再生可能エネルギーを使っているけど、企業は資源が有限なエネルギーばかりを使っているというのはおかしいなと思いますので、できる限りですが、企業を入れたらどうかという案です。

(根本学部長)

ご指摘の点は、同じ5ページの下から5行目「住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーを融通しあう」という記述があります。これは融通し合うということですね。地の利という意味ではご指摘の通り、民生利用だけではない。製造業、交通運輸も入ります。広く解釈すれば、企業市民も含むという解釈もできなくもないけれども、これは言葉を足しても良いかと思いますね。むしろまとまった対応ができるというのは逆に企業の方が有利な点があったりしますね。先ほど違う場所で農業の6次産業化という話もありましたが、中山間においてもやはり、全部がそうなるということはありませんが、自然再生エネルギーの得られる候補としてあると思います。ここは市民と書いたものが民生用の日常生活という意味にならないように、農林水産業も含む広い産業、製造業・運輸・流通全て含むあらゆるところで再生可能エネルギーが選択されているという記述を提案したいと思います。他はいかがでしょうか。

(石川委員)

色々な問題が上がってきていますが、その中の一つとして少子化の問題が、今後の行きつく先によってはとんでもないことになるかなと思っています。推進プランの13ページ以降を読んでみますと、記載してあることをしっかり実行していくことができれば、おそらく少子化も止まるのではないかと思います。また子どもの貧困問題が最近よく取り上げられます。先進国の中でも日本は突出して貧困率が高いというニュースを最近よく聞きます。母子家庭を中心に、考えられないようなお金で生活している、教育も受けられない、或いはテレビの特集でやっていましたが、インターネットカフェに何年も住んでいるような高校生がいるという話も聞きました。そういったことが結果として解消されていくのではないかと、そういった文言をどこかに入れると良いのではないのでしょうか。乳幼児期の教育に力をいっぱい注ぐと、病気の減少、犯罪の減少、抽象的ではありますが間違い



なく住みやすいまちに繋がっていくと言われていています。そういった辺りの教育を具体的に考える、或いはそういったものをすべてひっくるめてですが、子どもが健やかに育つという中に環境という意味合いでも、その中に教育或いはこういった13ページ以降書かれているような内容も含めて環境を位置づけて、子どもが健やかに育つ環境として位置付けて少し文章を整えられると良いのかなとイメージしてみたのですが、いかがでしょうか。

(根本学部長) 他の委員の皆さん、関連でいかがですか。石川委員、できましたらもうちょっと具体的に、どのパーツにどういう記述を加えたら、という提案をいただけると良いかなと思いますがいかがですか。

(石川委員) 貧困問題、少子化問題を目標に掲げてしまいますと、複雑なところが出てくると思います。結果としてそういうところに繋がったということの良いのかなと思います。敢えて目標として掲げるのではなく、結果として繋がるという、そういったものが解消に繋がるという。大きな問題だと思っていますが、そのために市民の皆が小さな行動でも良いので、何かしらの行動が大体上がっていると思いますので、結果としてそういった言葉が入れば良いのではないかと。その言葉が入っていないのが気になるということです。

(根本学部長) 関連して他の皆さんいかがですか。

(須藤委員) 関連してですが、私も教育の分野では色々発言させていただいて、できてきたものでは大体網羅していただけているという感触を持っています。多分今の石川委員のご発言の中では未来ビジョンの「はぐくむ」10ページに書かれているのは本当に素晴らしいと感じていますが、実際にそういうことがあったのだけれども、それを解消する努力がされているという言葉がどこかに入れば、多分ご心配がなくなるのではないかと思います。書かれていることは将来的にはとても良いことだと思いますが、実は現状がどうかというのがないので、前はこうだったけれどもそれを解消するためにこうされているという言葉が入ると良いのではないかと感じました。

関連のない事でもよろしいですか。先ほど防災についてのご意見が出ましたが、家で見えてきた時には気が付かなかったことですが、他の委員のご発言を聞いて思いついたことですが、推進プランの18ページ19ページ辺りに防災について書かれています。現在でもほとんど自治会が自主防災隊を形成していて、非常に地域防災訓練ですとか、日ごろの防災のあり方について真剣に取り組んでいると感じています。今現在でもそうですから、これから先に向けてもっと自治会或いは自主防災隊の活動が非常に盛んであるということをごまかせたいと良いと思います。18ページの、先ほど根本先生がおっしゃいましたけれど、真ん中あたりの消費者教育、そこに防災教育を追加したらどうかというご意見がありました。そこに併せて教育すると同時に、防災については非常に積極的に訓練なども行われているというのも付け加えたらどうでしょうか。せっかく一生懸命にやっている自治会の皆さん、私も地域で駆り出されたりする訳ですが、自治会という言葉が出てくるのは消防団員の確保への努力だけになっているのは非常に寂しい。これからもっともっと頑張ってくださいためには、元気づけるためにも工夫をしていただけたらと思います。

(根本学部長)

後半の点ですが、18ページのところで先ほど教育との関連のご発言がありました。それだけではなくて地域自治、自助共助公助という言葉もありますが、そういう主体的な市民の地域活動による防災の取り組み・訓練という記述をここに併せて追加したら良いのではないかとということですね。これはどうでしょうか。ご異論はないのではないのでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

これは是非入れましょう。それから戻って、一つ目のご指摘で、これは石川委員のご発言とも関連するのですが、基本構想、ビジョンの10ページに「はぐくむ」という将来像があります。ここでは最終的にこういう施策を重ねていけば、合計特殊出生率も少し戻るのではないかと、そしてみんなが子どもを地域で育てはぐくむ社会に30年後はなっているだろうと、それは書いてある。それは書いてあるが、石川委員と須藤委員のご指摘は、少し文言を工夫して修文できるのではないかと思います。この場で言葉まで出ませんが、先ほど出ましたいくつかの課題を乗り越えて、そしてこの望ましい未来像に至ったのだという記述、これはできるのではないかと。それから石川委員のご指摘のように、施策を実施していくことによって、その結果として安心して子どもを育てる社会に至る、そういう記述を10ページの「はぐくむ」のところに書き加えたらどうかと思いますけれどもいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

よろしいですか。ありがとうございます。

それでは他にはいかがですか。大分突っ込んだご指摘もいただいています。もしよろしければここで一旦論点を整理しておきたいと思います。私も全部記録を取っていないので、これと、これとこれ、と全部述べるということではできませんが、まず確認したいのは、大きい枠組みの議論、それからこれまでこの会議で重ねてきた意見はそれなりにきちんと反映されているというところはよろしいですか。その上で今日改めて気が付いたところをいくつかご指摘いただいて、私からの提案ということも含めて、事務局にお願いしたい点をお話ししたかと思っています。現在までのところ幸いにして宿題にして残さざるを得ないということにはなかったと思っています。何とか良い方向に修正が施せるのではないかと考えています。ということではパブリック・コメント案の修正については大体よろしいのでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

何度も同じことを言っていますが、この後市民の皆さんの意見を踏まえて次回が最終になります。次回に向けて更に我々も読み込んで、言い忘れないようにきっちり集約できればと思います。では全体を通じて市長さんからお願いします。

(鈴木市長)

どうも皆さん熱心なご議論ありがとうございます。会議を重ねることによって随分ブラッシュアップされてきて頼もしく思います。今回30年後の浜松の未来についてスタートしましたが、皆さんもご存知の通り、つい最近、日本創生会議の増田レポートが出まして、これもやはり30年後の自治体の状況を克明に分析して、自治体の約半分が人口の激減で消滅可能性都

市と位置付けられ、本当に自治体にとってかなり衝撃的なレポートだったのですが、私のところにも随分取材が来しました。浜松市はどうですかということですが、そこまで将来を検討した訳ではないと思いますけれども、この地域は平成17年に12市町村が合併しまして、ですから今この近隣で消滅可能性都市としてリストアップされたのは森町だけです。逆にいうと浜松市が合併したことによって、消滅可能性都市というのは消滅した訳ですが、そういう都市が持っていた問題点を浜松市はすべて内在、包含したということですので、30年スパンでこのまちをどうしていくのかという視点で取り組んだことは当を得ていたと思います。もう一点、こちらは朗報ですけど政令指定都市を全部調べたら浜松は健康寿命男女とも日本一だということが、厚生労働省の調査で判明しました。こちらも時々取材が来ます。なぜ浜松は男性も女性も健康寿命が長いのかと。取材者の分析では、喫煙率が低いことと就業率が高いということが書いてありましたが、それだけで日本一になったとは思えないので、私はやはりトータルで浜松は住みやすい、ストレスが少ない地域だと思います。通勤族がよく色んな地域をまわって、浜松は住みやすいからと終の棲家にしていただくケースが多い訳ですけども、そういう点でも健康寿命日本一に結びついているのではないかと思います。住みやすさという点では浜松はとても良い。その良さを残していくためには、このビジョンで掲げられているような施策を積み重ねることによって、引き続き健康寿命日本一の都市を目指すということだと思います。後は市民の皆さんからパブリック・コメントをいただいて、最終的にまとめ上げていくということで、引き続きあともう少しご尽力いただきますようお願いいたします。

(根本学部長)

私もニュースを見ました。正に市長さんがおっしゃる通りで、折角浜松の持っている素晴らしい面が持続するように、この計画がきちんと機能していくということを我々も見守っていければと思います。それでは議論はここまでとして、進行を事務局に戻します。

## 5 閉会

(事務局)

ありがとうございました。これもちまして、第6回浜松市未来デザイン会議を閉会します。次回、第7回は平成26年10月25日土曜日、午後3時から、会場は同じ全員協議会室にて開催しますので、ご案内します。それでは、お気をつけてお帰りください。